

# 上ノ平 I 遺跡 (3)

ハツ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第55集

2018

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 上ノ平 I 遺跡（3）

ハツ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第55集

2018

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団





遺跡遠景(東から)



56号竪穴住居全景(縄文時代：南から)

## 口絵2



54号壑穴住居全景(平安時代：東から)



2区中央部グリッド基本土層セクション(南から)

## 序

ハツ場ダムは、利水・治水・発電を行う多目的ダムとして吾妻川の中流に計画され、現在は吾妻郡長野原町を中心に工事が進められています。この建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、当事業団が平成6年度から実施しており、本年度で24年目を迎えています。

上ノ平Ⅰ遺跡は平成18年から19年、さらに28年の3か年にわたって発掘調査が実施され、縄文時代から近世にかけての多様な遺構、遺物が数多く検出されました。今回は縄文時代と平安時代と中近世の遺構と遺物に関する報告をまとめる事が出来ました。特徴的な遺構、遺物としては、縄文時代では後期初頭を中心とする住居群、平安時代では住居から出土した希少な灰釉陶器や斜面に展開する陥穴群、中世では渡来銭を副葬した墓、近世では数多くの掘立柱建物の存在など、多岐にわたる貴重な資料が得られており、本書が吾妻郡内及び群馬県の歴史を解明する上で未永く活用されることを願います。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省ハツ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、及び長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者のみなさまには多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

平成30年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 中野 三智男






## 例 言

- 1 本書は、平成28年度のハッ場(やんば)ダム建設工事に伴う上ノ平1(うえのたいら いち)遺跡の発掘調査報告書の第3集である。
- 2 今回の発掘調査の範囲は、群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑 266、267、268-1、269-1、269-2、271、272、273、274-1、275-1、293-1、293-2、293-3、294-2、295-1、295-2、296、297-1、297-2、298-2、299-2、306-2、318-1、318-3番地である。  
本遺跡の名称は、長野原町教育委員会が実施した分布調査報告書『長野原町の遺跡』1990 に基づく。  
(遺跡ID1120、県文化財システム遺跡番号 長野原町0005、ハッ場ダム関係埋蔵文化財遺跡番号 YD1-07)
- 3 発掘調査は、国土交通省関東地方整備局により、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。本遺跡の発掘調査時の組織体制は次の通りである。  
期 間 平成28年(2016)5月1日～7月31日・平成28年(2016)11月25日～11月30日  
面 積 4,350㎡  
調査担当 第1年度 小林茂夫(主任調査研究員)・宮下 寛(主任調査研究員)
- 4 発掘資料の整理および報告書の作成は、国土交通省関東地方整備局の委託により、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。整理・報告書の作成期間・体制は次の通りである。  
期 間 平成29年4月1日～平成29年9月30日 担 当 麻生敏隆(第3冊刊行)
- 5 本書の編集に伴う整理作業体制は次の通りである。  
編集・本文執筆 麻生敏隆 遺構写真 小林茂夫・宮下 寛 遺物写真 麻生敏隆 遺物観察 麻生敏隆  
写真図版作成 齊田智彦・デジタル班 保存処理 関 邦一・板垣泰之
- 6 本遺跡の発掘調査、及び整理作業については、下記の機関に協力を頂いた。  
埋蔵文化財遺跡掘削工事 株式会社調研、技研コンサル株式会社、瑞穂建設株式会社、吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体  
遺構測量 株式会社調研 石器実測・トレース シン技術コンサル株式会社  
石材同定 飯島静男氏(群馬地質研究会)
- 7 本遺跡の出土遺物及び遺構・遺物の図面・写真類は、一括して群馬県埋蔵文化財センターで保管する。
- 8 本遺跡に関して、本報告以前にその概要が収録・公表されたのは下記の書籍である。  
『年報36』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2017 『遺跡は今 25』ハッ場ダム調査事務所 2017
- 9 発掘調査および本書の作成にあたり、下記の機関・諸氏よりご協力・ご助言を得た。記して感謝の意を表したい。(敬称略)  
国土交通省関東地方整備局ハッ場ダム工事事務所 群馬県教育委員会文化財保護課 長野原町教育委員会  
富田孝彦 川原畑区

## 凡 例

- 1 本書で使用した国家座標は、世界測地系によるものである。本調査ではその数値をそのままグリッドとして使用した。
- 2 本書における遺構番号は算用数字で、調査時に付されたものをそのまま使用した。
- 3 遺構図・遺物図の縮尺は、原則として以下の通りである。縮尺の異なるものが併載される場合は、それぞれにスケールを付すか、遺物番号に縮尺率を併記した。  
遺構図 竪穴住居 1:60 住居竪 1:30 掘立柱建物 1:60 土坑・溝・ピット 1:60 その他は明記  
遺物図 土師器・須恵器・灰釉陶器・中近世陶磁器 1:3、1:4 石製品 1:2、1:3、1:4  
古銭・鉄製品 1:1、1:2、1:3
- 4 遺物番号は本文・挿図・表・写真図版と一致する。
- 5 竪穴住居等の面積は、住居の周縁をプランメーター（タニタ プラニックス7）を用いて3回測定し、その平均値を記した。
- 6 挿図中の方位は調査時に使用したグリッドに準拠したものであるが、本文中の軸方向記載で用いた方位には、真北を用いた補正を行っている。
- 7 遺物観察表の出土位置の数字は調査時の取り上げ番号である。
- 8 遺物観察表の計測値には次の略語を使用した。  
「底部径」→「底」 「重さ」→「重」 「口縁部径」→「口」 「長さ」→「長」  
「厚さ」→「厚」 「高さ・器高」→「高」
- 9 遺物の長さ・重量の計測にあたっては、製品、製造会社名、商品名、目量を表記する。  
パーソナル電子天びん 株式会社エー・アンド・デイ EK-i/EW-iシリーズ 計測0.1g単位  
上皿自動はかり 株式会社タニタ 2098 計測100g単位  
自動はかり 株式会社タニタ HAシリーズ 計測500g単位  
カーボンファイバーノギス 株式会社田島製作所 BLACK-15 計測0.01cm単位
- 10 各地図について、使用した原図類の名称については、その都度記載している。
- 11 遺構図に使用したスクリーントーンは以下のことを示す。

石器磨り面		灰釉陶器施釉		油煙付着	
焼土		炭化物			

# 目 次

口絵

序

例言 凡例

目次 挿図目次 表目次 写真目次

第1章 調査の方法と経過	1
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の方法	2
第3節 発掘調査の経過	3
第4節 整理の方法と経過	6
第2章 遺跡の環境	7
第1節 地理	7
第2節 地形と地質	8
第3節 歴史	8
第4節 基本土層	14
第3章 検出された遺構と遺物	16
第1節 遺跡の概要	16
第2節 縄文時代	21
(1) 遺構	21
(2) 出土遺物	35
第3節 平安時代	46
(1) 遺構	46
(2) 出土遺物	94
第4節 中近世	95
(1) 遺構	95
(2) 出土遺物	150
第4章 まとめ	155
第1節 遺構と遺物	155
第2節 石器	158
第3節 陥し穴	164
第4節 石臼	167

遺構一覧表 遺物観察表

写真図版

報告書抄録

奥付 付図

# 挿図目次

第1図	上ノ平1遺跡位置図	1	第63図	301・302号土坑、出土遺物	72
第2図	調査区の設定	2	第64図	303・304・306号土坑、出土遺物	73
第3図	段丘面分布図	7	第65図	307・308・313号土坑、313号土坑出土遺物	75
第4図	周辺道路	11	第66図	314・315号土坑	76
第5図	基本土層	15	第67図	316・318・321号土坑、318号土坑出土遺物	77
第6図	上ノ平1遺跡全体図	17	第68図	322・323・325・326号土坑、322・325・326号土坑出土遺物	79
第7図	上ノ平1遺跡縄文時代遺構分布図	18	第69図	328・329号土坑、出土遺物	80
第8図	上ノ平1遺跡平安時代遺構分布図	19	第70図	330・331号土坑	81
第9図	上ノ平1遺跡中近世以降遺構分布図	20	第71図	333・336・340・344号土坑	83
第10図	33号住居(1)	21	第72図	345・347号土坑、347号土坑出土遺物	84
第11図	33号住居(2)	22	第73図	351・353号土坑、351号土坑出土遺物	86
第12図	33号住居出土遺物	22	第74図	354・356・360号土坑	87
第13図	35号住居(1)	23	第75図	364・367号土坑、364・365・367号土坑出土遺物	88
第14図	35号住居(2)	24	第76図	369・374・375・381号土坑	90
第15図	35号住居(3)	25	第77図	384・391・395・396号土坑、384・395・396号土坑出土遺物	94
第16図	35号住居出土遺物(1)	25	第78図	397・398・400号土坑、397・400号土坑出土遺物	92
第17図	35号住居出土遺物(2)	26	第79図	407・408・421・424号土坑、408・421号土坑出土遺物	93
第18図	35号住居出土遺物(3)	27	第80図	426号土坑、出土遺物	94
第19図	51号住居(1)	28	第81図	412号土坑、出土遺物(1)	96
第20図	51号住居(2)	29	第82図	412号土坑出土遺物(2)	97
第21図	51号住居出土遺物	30	第83図	263・270号土坑、268・269号土坑出土遺物	98
第22図	56号住居(1)	31	第84図	272・275・285・287号土坑	100
第23図	56号住居(2)	32	第85図	290・292・293・295・309・311号土坑、 295号土坑出土遺物	101
第24図	56号住居出土遺物	32	第86図	312・317・319・320・324・327・332号土坑、 319・327号土坑出土遺物	103
第25図	57号住居	33	第87図	334・335・337・339・341・342号土坑、 334号土坑出土遺物	105
第26図	57号住居出土遺物	34	第88図	343・348・350・355・357号土坑、 343・355号土坑出土遺物	107
第27図	409号土坑、出土遺物	34	第89図	358・359・361・363・368・370号土坑、 361・368号土坑出土遺物	108
第28図	遺構外出土遺物(1)	36	第90図	371・373・376・377号土坑、 371・376・377号土坑出土遺物	110
第29図	遺構外出土遺物(2)	37	第91図	378・380・382号土坑、378・379号土坑出土遺物	111
第30図	遺構外出土遺物(3)	38	第92図	383・385・390号土坑、383・386号土坑出土遺物	113
第31図	遺構外出土遺物(4)	39	第93図	392・394・399・401・402号土坑、 392・401・402号土坑出土遺物	115
第32図	遺構外出土遺物(5)	40	第94図	403・406・410・411・413・414号土坑、 405・413号土坑出土遺物	117
第33図	遺構外出土遺物(6)	41	第95図	415・420・422号土坑、419・422号土坑出土遺物	118
第34図	遺構外出土遺物(7)	42	第96図	423・425号土坑、423号土坑出土遺物	119
第35図	遺構外出土遺物(8)	43	第97図	62・64・66・67・69・72・77・81・84・86号ピット、 64号ピット出土遺物	120
第36図	遺構外出土遺物(9)	44	第98図	87・88・90・91・95・98・100・101・105・107号ピット、 87号ピット出土遺物	121
第37図	遺構外出土遺物(10)	45	第99図	108・113・115・123号ピット、109号ピット出土遺物	122
第38図	32号住居	46	第100図	125・139号ピット、130・139号ピット出土遺物	123
第39図	52号住居(1)	47	第101図	140・141・143・147・149・155・158・159号ピット	124
第40図	52号住居(2)	48	第102図	160・165・174号ピット、174号ピット出土遺物	125
第41図	52号住居(3)	49	第103図	175・192号ピット、177号ピット出土遺物	126
第42図	52号住居出土遺物	50	第104図	193・207号ピット、201号ピット出土遺物	127
第43図	53号住居(1)	51	第105図	208・213・214・217・227・231号ピット、 214・221号ピット出土遺物	128
第44図	53号住居(2)	52	第106図	232・234・236・238・241・248・250・251号ピット、 244号ピット出土遺物	129
第45図	53号住居出土遺物	53	第107図	252・255号ピット	130
第46図	54号住居(1)	54	第108図	1号掘立柱建物(1)	131
第47図	54号住居(2)	55	第109図	1号掘立柱建物(2)	132
第48図	54号住居出土遺物	55	第110図	1号掘立柱建物(1)	133
第49図	55号住居(1)	56	第111図	2号掘立柱建物(2)	134
第50図	55号住居(2)	57	第112図	2号礎石建物(1)	135
第51図	55号住居(3)	58	第113図	1号礎石建物(1)	136
第52図	55号住居出土遺物	59	第114図	2号欄	137
第53図	261・262号土坑、出土遺物	60	第115図	3号欄	138
第54図	271・276号土坑、271号土坑出土遺物	61	第116図	4号欄	139
第55図	277・278号土坑、出土遺物	63			
第56図	279・281号土坑、279号土坑出土遺物	64			
第57図	280・282・283号土坑	65			
第58図	284・288号土坑、284号土坑出土遺物	66			
第59図	280・291・305号土坑、289号土坑出土遺物	67			
第60図	294・296号土坑、294号土坑出土遺物	68			
第61図	297・298号土坑、出土遺物	69			
第62図	299・300号土坑、300号土坑出土遺物	71			

第117図	5号棚、出土遺物	140
第118図	4～6号集石、6号集石出土遺物	141
第119図	7・8号集石、出土遺物	142
第120図	1号石皿、出土遺物	143
第121図	21～28号焼上、23・27号焼上出土遺物	145
第122図	29～34号焼上	146
第123図	35～38号焼上、38号焼上出土遺物	147
第124図	1～5号溝	148
第125図	1号谷地	149
第126図	2号谷地	151
第127図	遺構外出土遺物(1)	152
第128図	遺構外出土遺物(2)	153
第129図	遺構外出土遺物(3)	154
第130図	長野原地域の地質図	161
第131図	打製石畿未成品分類図	163
第132図	陥し穴模式図	165
第133図	陥し穴埋没状況図	165
第134図	挽き臼比較図	168
第135図	石臼の数値分布図	170

## 表目次

表1	平成28年度 調査作業工程表	5
表2	周辺道路一覧表	12
表3	縄文石器器種別一覧表	35
表4	遺構数一覧表	155
表5	出土遺物集計表	156
表6	珪質変質岩集計表	158
表7	石畿未成品一覧表	162
表8	陥し穴集計表	165
表9	石臼一覧表	169
表10	遺構一覧表	171
表11	遺物観察表	178

## 写真目次

P.L. 1	1. 遺跡遺景(東から)	
	2. 1区西部2区東部1面全景(南から)	
	3. 1区1面全景(北から)	
	4. 1区西部西1面(南から)	
	5. 1区中央部北1面(南から)	
P.L. 2	1. 1区西部西2面(南から)	
	2. 1区中央部2面(南から)	
	3. 2区中央部1面全景(南から)	
	4. 2区西部2面全景(南から)	
	5. 2区中央部東1面西2面(南から)	
	6. 2区東部1面(南から)	
	7. 2区東部2面(東から)	
	8. 2区東部2面(南から)	
P.L. 3	1. 33号住居西側断面(南から)	
	2. 33号住居東側断面(南から)	
	3. 33号住居遺物出土状態(南東から)	
	4. 33号住居P断面(東から)	
	5. 33号住居P断面(東から)	
	6. 33号住居P断面(南から)	
	7. 33号住居1号土坑断面(南東から)	
P.L. 4	1. 33号住居P14断面(南東から)	
	2. 33号住居P14全景(南東から)	
	3. 33号住居P15断面(南東から)	
	4. 33号住居P15全景(南東から)	
	5. 33号住居P16断面(南東から)	
	6. 33号住居P16全景(南東から)	

	7. 33号住居P17断面(南東から)	
	8. 33号住居P17全景(南東から)	
	9. 33号住居P18断面(南東から)	
	10. 33号住居P18全景(南東から)	
	11. 35号住居断面(東から)	
	12. 35号住居断面(西から)	
	13. 35号住居断面(南から)	
	14. 35号住居遺物出土状態(南から)	
P.L. 5	1. 35号住居遺物出土状態(南から)	
	2. 35号住居全景(南から)	
	3. 35号住居P断面(南から)	
	4. 35号住居P断面(東から)	
	5. 35号住居P全景(東から)	
	6. 35号住居P埋設土器出土状態(南から)	
	7. 35号住居P埋り方全景(南から)	
	8. 35号住居床下土坑1全景(南西から)	
P.L. 6	1. 35号住居P6断面(南から)	
	2. 35号住居P6全景(南から)	
	3. 35号住居P7断面(南から)	
	4. 35号住居P7全景(南から)	
	5. 35号住居P8断面(南から)	
	6. 35号住居P8全景(南から)	
	7. 35号住居P9断面(南東から)	
	8. 35号住居P9全景(南から)	
	9. 35号住居P10・P11断面(南から)	
	10. 35号住居P10・P11全景(南から)	
	11. 35号住居P12断面(南から)	
	12. 35号住居P12全景(南から)	
	13. 35号住居P13断面(南から)	
	14. 35号住居P13全景(南から)	
	15. 35号住居P14断面(南から)	
	16. 35号住居P15断面(北東から)	
	17. 35号住居P15全景(東から)	
	18. 35号住居P16・P17断面(南から)	
	19. 35号住居P16・P17全景(南から)	
	20. 35号住居P18断面(南から)	
	21. 35号住居P18全景(南から)	
P.L. 7	1. 51号住居断面(南から)	
	2. 51号住居遺物出土状態(南から)	
	3. 51号住居遺物出土状態(南から)	
	4. 51号住居遺物出土状態(南から)	
	5. 51号住居掘り方断面(南から)	
	6. 51号住居掘り方全景(南から)	
P.L. 8	1. 51号住居P1断面(南から)	
	2. 51号住居P1全景(南から)	
	3. 51号住居P2断面(東から)	
	4. 51号住居P2全景(東から)	
	5. 51号住居P3・P4断面(東から)	
	6. 51号住居P3・P4全景(東から)	
	7. 51号住居P5全景(南から)	
	8. 51号住居P6断面(南から)	
	9. 51号住居P6全景(南から)	
	10. 51号住居P7断面(南から)	
	11. 51号住居P7全景(南から)	
	12. 51号住居P8断面(南から)	
	13. 51号住居P8全景(南から)	
	14. 51号住居P9断面(東から)	
	15. 51号住居P9全景(南から)	
	16. 51号住居P10断面(南から)	
	17. 51号住居P10全景(南から)	
	18. 51号住居P11断面(南東から)	
	19. 51号住居P11全景(南東から)	
	20. 51号住居P12断面(西から)	
	21. 51号住居P12全景(西から)	
	22. 51号住居P13断面(西から)	
	23. 51号住居P13全景(西から)	

	24. 51号住居P14全量(西から)		8. 52号住居床下土抗1断面(北から)	
P L. 9	1. 56号住居全量(南東から)	P L. 14	1. 52号住居床下土抗1全量(北から)	
	2. 56号住居切斷面(南東から)		2. 52号住居床下土抗2全量(東から)	
	3. 56号住居切斷面(北西から)		3. 52号住居P1断面(西から)	
	4. 56号住居切斷り方断面(南東から)		4. 52号住居P1全量(西から)	
	5. 56号住居P1断面(北から)		5. 52号住居P2断面(南から)	
	6. 56号住居P1全量(南東から)		6. 52号住居P2全量(南から)	
	7. 56号住居P2断面(南から)		7. 52号住居P3断面(西から)	
	8. 56号住居P2全量(南西から)		8. 52号住居P3全量(西から)	
	9. 56号住居P3断面(南から)		9. 52号住居P4断面(西から)	
	10. 56号住居P3全量(南から)		10. 52号住居P4全量(西から)	
	11. 56号住居P4断面(南東から)		11. 52号住居P5断面(西から)	
	12. 56号住居P4全量(南東から)		12. 52号住居P5全量(西から)	
	13. 56号住居P5断面(南東から)		13. 52号住居炭化物出土状態(西から)	
	14. 56号住居P5全量(南東から)		14. 53号住居断面(東から)	
	15. 56号住居P6断面(南から)		15. 53号住居断面(南から)	
P L. 10	16. 56号住居P6全量(南から)	P L. 15	1. 53号住居全量(南西から)	
	1. 56号住居P7断面(東から)		2. 53号住居カマド遺物出土状態(南西から)	
	2. 56号住居P7全量(東から)		3. 53号住居カマド全量(南西から)	
	3. 56号住居P8断面(南から)		4. 53号住居カマド断面(西から)	
	4. 56号住居P8全量(南から)		5. 53号住居カマド断面(西から)	
	5. 56号住居P9断面(南東から)		6. 53号住居カマド掘り方全量(南西から)	
	6. 56号住居P9全量(南東から)		7. 53号住居ビット全量(南西から)	
	7. 56号住居P10・P11断面(南東から)		P L. 16	1. 53号住居P1断面(南東から)
	8. 56号住居P10・P11全量(南東から)			2. 53号住居P1全量(南東から)
	9. 56号住居P12断面(南東から)			3. 53号住居P2断面(南東から)
	10. 56号住居P12全量(南から)			4. 53号住居P2全量(南東から)
	11. 57号住居断面(西から)			5. 53号住居P3断面(南東から)
	12. 57号住居全量(南から)			6. 53号住居P3全量(南東から)
	13. 57号住居掘り方断面(西から)			7. 53号住居P4断面(南東から)
	14. 57号住居掘り方全量(東から)			8. 53号住居P4全量(南東から)
P L. 11	1. 57号住居切斷面(東から)	9. 53号住居P5断面(南東から)		
	2. 57号住居切斷面(北から)	10. 53号住居P5全量(南東から)		
	3. 57号住居切斷り方断面(東から)	11. 54号住居断面(南西から)		
	4. 57号住居切斷り方全量(東から)	12. 54号住居遺物出土状態(北東から)		
	5. 57号住居P1断面(南から)	13. 54号住居全量(北東から)		
	6. 57号住居P1全量(南から)	14. 54号住居掘り方全量(北東から)		
	7. 57号住居P2断面(南から)	P L. 17		1. 54号住居カマド断面(北東から)
	8. 57号住居P2全量(南から)		2. 54号住居カマド遺物出土状態(北東から)	
	9. 57号住居P3断面(南から)		3. 54号住居カマド全量(北東から)	
	10. 57号住居P3全量(南から)		4. 54号住居P1断面(南東から)	
	11. 409号土抗断面(東から)		5. 54号住居P1全量(南東から)	
	12. 409号土抗掘り出土状態(東から)		6. 54号住居P2断面(南東から)	
	13. 409号土抗全量(東から)		7. 54号住居P2全量(南東から)	
	P L. 12		1. 32号住居全量(北東から)	8. 54号住居P3断面(南から)
			2. 32号住居周溝断面(北西から)	9. 54号住居P3全量(南から)
3. 32号住居ビット・周溝掘り方全量(南から)			10. 54号住居P4断面(南から)	
4. 32号住居P7断面(北東から)			11. 54号住居P4全量(南から)	
5. 32号住居P7全量(北東から)			P L. 18	1. 55号住居断面(北東から)
6. 32号住居P8断面(北東から)				2. 55号住居断面(南西から)
7. 32号住居P8全量(北東から)				3. 55号住居遺物出土状態(南西から)
8. 32号住居P9断面(南東から)				4. 55号住居遺物出土状態(東から)
9. 32号住居P9全量(南東から)		5. 55号住居遺物出土状態(北東から)		
10. 32号住居P10断面(南東から)		6. 55号住居全量(南西から)		
11. 32号住居P10全量(南東から)		7. 55号住居カマド全量(東から)		
12. 32号住居P11断面(北東から)		8. 55号住居カマド全量(南西から)		
13. 32号住居P11全量(北東から)		P L. 19		1. 55号住居貯蔵穴・P3断面(西から)
14. 32号住居P12断面(西から)				2. 55号住居貯蔵穴遺物出土状態(西から)
15. 32号住居P12全量(西から)				3. 55号住居P1断面(南東から)
P L. 13	1. 52号住居断面(南から)			4. 55号住居P1全量(南東から)
	2. 52号住居断面(東から)			5. 55号住居P2断面(南東から)
	3. 52号住居全量(西から)			6. 55号住居P2全量(南東から)
	4. 52号住居カマド断面(西から)			7. 55号住居P3全量(西から)
	5. 52号住居カマド断面(南から)		8. 55号住居P4断面(南東から)	
	6. 52号住居カマド全量(西から)		9. 55号住居P4全量(南東から)	
	7. 52号住居カマド掘り方全量(西から)		10. 261号土抗断面(南から)	

	11. 261号土坑全景(東から)	2. 326号土坑断面(北東から)
	12. 262号土坑断面(南から)	3. 326号土坑全景(北東から)
	13. 262号土坑全景(南東から)	4. 328号土坑断面(北東から)
	14. 271号土坑断面(南東から)	5. 328号土坑全景(東から)
	15. 271号土坑全景(南東から)	6. 329号土坑断面(南から)
P L. 20	1. 276号土坑断面(南から)	7. 329号土坑全景(南から)
	2. 276号土坑全景(南から)	8. 330号土坑断面(北から)
	3. 277号土坑断面(南東から)	9. 330号土坑全景(北東から)
	4. 277号土坑全景(南東から)	10. 331号土坑断面(南西から)
	5. 278号土坑断面(南東から)	11. 331号土坑全景(西から)
	6. 278号土坑全景(北東から)	12. 333号土坑断面(南から)
	7. 279号土坑断面(北西から)	13. 333号土坑全景(南東から)
	8. 279号土坑全景(南東から)	14. 336号土坑断面(南から)
	9. 281号土坑断面(南東から)	15. 336号土坑全景(南から)
	10. 283号土坑断面(南から)	P L. 25
	11. 283号土坑全景(南から)	1. 340号土坑断面(南から)
	12. 284号土坑断面(北から)	2. 340号土坑全景(南東から)
	13. 284号土坑全景(南から)	3. 340号土坑P1断面(南東から)
	14. 288号土坑断面(南西から)	4. 340号土坑P1全景(南東から)
	15. 289号土坑断面(南から)	5. 344号土坑断面(南東から)
P L. 21	1. 289号土坑全景(南から)	6. 344号土坑全景(南東から)
	2. 291号土坑断面(北西から)	7. 345号土坑断面(南東から)
	3. 291・305号土坑全景(北西から)	8. 346号土坑断面(南から)
	4. 294号土坑断面(南から)	9. 346号土坑全景(南から)
	5. 294号土坑全景(北から)	10. 347号土坑断面(南西から)
	6. 296号土坑断面(南から)	11. 347号土坑全景(南から)
	7. 296号土坑全景(南から)	12. 351号土坑断面(南から)
	8. 297号土坑断面(南から)	13. 351号土坑全景(南から)
	9. 297号土坑全景(南から)	14. 352号土坑断面(北から)
	10. 298号土坑断面(南東から)	15. 353号土坑断面(東から)
	11. 298号土坑全景(南東から)	P L. 26
	12. 299号土坑断面(南西から)	1. 353号土坑全景(南から)
	13. 299号土坑全景(南東から)	2. 354号土坑断面(東から)
	14. 300号土坑断面(南西から)	3. 354号土坑全景(東から)
	15. 300号土坑全景(南から)	4. 356号土坑断面(南東から)
P L. 22	1. 301号土坑断面(南から)	5. 356号土坑全景(東から)
	2. 301号土坑全景(南から)	6. 360号土坑断面(南西から)
	3. 302号土坑断面(南から)	7. 364号土坑断面(北から)
	4. 302号土坑全景(北から)	8. 364号土坑全景(北から)
	5. 303号土坑断面(北西から)	9. 365号土坑断面(南から)
	6. 303号土坑全景(北西から)	10. 365号土坑全景(南から)
	7. 304号土坑断面(南から)	11. 366号土坑断面(南から)
	8. 304号土坑全景(南西から)	12. 366号土坑全景(南から)
	9. 306号土坑断面(南西から)	13. 367号土坑断面(北東から)
	10. 306号土坑全景(南から)	14. 367号土坑全景(北東から)
	11. 306号土坑北壁小ビット検出状態(西から)	15. 369号土坑断面(東から)
	12. 307号土坑断面(北西から)	P L. 27
	13. 307号土坑全景(北西から)	1. 369号土坑全景(西から)
	14. 308号土坑断面(北西から)	2. 374号土坑断面(南から)
	15. 308号土坑全景(南東から)	3. 374号土坑全景(南西から)
P L. 23	1. 313号土坑断面(南から)	4. 375号土坑断面(南西から)
	2. 313号土坑全景(北から)	5. 375号土坑全景(南西から)
	3. 314号土坑断面(南西から)	6. 381号土坑断面(北東から)
	4. 314号土坑全景(北西から)	7. 381号土坑全景(南東から)
	5. 315号土坑全景(北から)	8. 384号土坑断面(西から)
	6. 316号土坑断面(北西から)	9. 384号土坑全景(西から)
	7. 316号土坑全景(北西から)	10. 391号土坑断面(南から)
	8. 318号土坑断面(南東から)	11. 391号土坑全景(南から)
	9. 318号土坑全景(南東から)	12. 395・396号土坑断面(南東から)
	10. 321号土坑断面(北西から)	13. 395・396号土坑全景(南東から)
	11. 321号土坑遺物出土状態(北西から)	14. 397・398号土坑断面(北東から)
	12. 322号土坑全景(南東から)	15. 397・398号土坑全景(南東から)
	13. 323号土坑断面(南から)	P L. 28
	14. 323号土坑全景(南から)	1. 400号土坑断面(北東から)
	15. 325号土坑断面(南から)	2. 400号土坑全景(南から)
P L. 24	1. 325号土坑全景(南東から)	3. 407号土坑断面(南東から)
		4. 408号土坑断面(南東から)
		5. 408号土坑遺物出土状態(南東から)
		6. 408号土坑全景(南から)
		7. 421号土坑断面(南東から)

	8. 421号土坑全景(南から)		14. 337号土坑断面(東から)
	9. 424号土坑断面(北から)		15. 337号土坑全景(北東から)
	10. 424号土坑全景(北から)	P L. 33	1. 338号土坑断面(南西から)
	11. 426号土坑断面(南東から)		2. 338号土坑全景(南西から)
	12. 426号土坑全景(南東から)		3. 339号土坑断面(南東から)
	13. 263号土坑断面(北西から)		4. 339号土坑全景(南東から)
	14. 263号土坑全景(北西から)		5. 341号土坑断面(南から)
P L. 29	15. 264 ~ 267号土坑断面(南西から)		6. 341号土坑全景(南から)
	1. 264号土坑全景(南から)		7. 342号土坑断面(南西から)
	2. 265号土坑全景(南から)		8. 342号土坑全景(南西から)
	3. 266号土坑全景(南から)		9. 343号土坑断面(南東から)
	4. 267号土坑全景(南から)		10. 343号土坑調査出土状態(南東から)
	5. 268号土坑断面(北から)		11. 343号土坑全景(南東から)
	6. 268号土坑全景(北から)		12. 348号土坑断面(南東から)
	7. 269号土坑断面(北から)		13. 348号土坑全景(南東から)
	8. 269号土坑全景(北から)		14. 349号土坑断面(北から)
	9. 270号土坑断面(北東から)		15. 349号土坑全景(北から)
	10. 272号土坑断面(南東から)	P L. 34	1. 350号土坑断面(南西から)
	11. 272号土坑全景(南東から)		2. 355号土坑断面(東から)
	12. 273号土坑断面(南東から)		3. 355号土坑全景(東から)
	13. 273号土坑全景(南東から)		4. 357号土坑断面(南から)
	14. 274号土坑断面(南東から)		5. 357号土坑全景(南から)
	15. 274号土坑全景(南東から)		6. 358号土坑断面(南から)
P L. 30	1. 275号土坑断面(南から)		7. 358号土坑全景(南東から)
	2. 275号土坑全景(南から)		8. 359号土坑断面(南から)
	3. 280・282・283号土坑断面(南から)		9. 361号土坑断面(南東から)
	4. 280号土坑全景(南から)		10. 361・362号土坑全景(西から)
	5. 282号土坑全景(北から)		11. 363号土坑断面(北から)
	6. 285号土坑断面(東から)		12. 368号土坑断面(南東から)
	7. 285号土坑全景(東から)		13. 368号土坑全景(南東から)
	8. 286号土坑断面(南東から)		14. 370号土坑断面(南東から)
	9. 286号土坑全景(南東から)		15. 370号土坑全景(北西から)
	10. 287号土坑断面(南東から)	P L. 35	1. 371号土坑断面(南東から)
	11. 287号土坑全景(南東から)		2. 371号土坑全景(南東から)
	12. 290号土坑断面(南東から)		3. 372号土坑断面(南東から)
	13. 290号土坑全景(南から)		4. 372号土坑全景(南東から)
	14. 292号土坑断面(南西から)		5. 373号土坑断面(南から)
	15. 292号土坑全景(南から)		6. 373号土坑全景(南西から)
P L. 31	1. 293号土坑断面(南東から)		7. 376号土坑断面(南西から)
	2. 293号土坑全景(南東から)		8. 376号土坑全景(南西から)
	3. 295号土坑断面(南東から)		9. 377号土坑断面(南から)
	4. 295号土坑全景(南東から)		10. 377号土坑全景(南から)
	5. 309号土坑断面(南東から)		11. 378号土坑断面(南東から)
	6. 309号土坑全景(南東から)		12. 378号土坑全景(南東から)
	7. 310号土坑断面(北東から)		13. 379号土坑断面(南東から)
	8. 310号土坑全景(北東から)		14. 379号土坑遺物出土状態(南東から)
	9. 311号土坑断面(北東から)		15. 379号土坑全景(南東から)
	10. 311号土坑全景(南から)	P L. 36	1. 380号土坑断面(南東から)
	11. 312号土坑断面(南西から)		2. 380号土坑全景(南東から)
	12. 312号土坑全景(南西から)		3. 382号土坑断面(南東から)
	13. 317号土坑断面(西から)		4. 382号土坑全景(南東から)
	14. 317号土坑全景(西から)		5. 383号土坑断面(西から)
	15. 319号土坑断面(南東から)		6. 383号土坑遺物出土状態(西から)
P L. 32	1. 319号土坑全景(南東から)		7. 383号土坑全景(西から)
	2. 320号土坑断面(南から)		8. 385号土坑断面(北東から)
	3. 320号土坑全景(南から)		9. 385号土坑全景(北東から)
	4. 324号土坑断面(南から)		10. 386号土坑断面(東から)
	5. 324号土坑全景(南から)		11. 386号土坑遺物出土状態(東から)
	6. 327号土坑断面(北東から)		12. 386号土坑全景(東から)
	7. 327号土坑全景(北東から)		13. 387号土坑断面(北東から)
	8. 332号土坑断面(南東から)		14. 387号土坑全景(北東から)
	9. 332号土坑全景(南東から)		15. 388号土坑断面(北東から)
	10. 334号土坑断面(北東から)	P L. 37	1. 388号土坑全景(北東から)
	11. 334号土坑全景(北東から)		2. 389号土坑断面(北東から)
	12. 335号土坑断面(北東から)		3. 390号土坑断面(北東から)
	13. 335号土坑全景(北東から)		4. 389・390号土坑全景(北東から)



5. 392号土坑断面(北東から)
6. 392号土坑全景(北東から)
7. 393号土坑断面(北から)
8. 393号土坑全景(北から)
9. 394号土坑断面(南東から)
10. 394号土坑全景(南東から)
11. 399号土坑断面(南東から)
12. 399号土坑全景(南東から)
13. 401号土坑断面(南西から)
14. 401号土坑全景(南西から)
15. 402号土坑断面(南から)

P L. 38

1. 402号土坑全景(南から)
2. 403号土坑断面(北東から)
3. 404号土坑断面(南東から)
4. 404号土坑全景(南東から)
5. 405号土坑断面(南東から)
6. 405号土坑全景(南東から)
7. 406号土坑断面(南東から)
8. 406号土坑全景(南東から)
9. 410号土坑断面(西から)
10. 410号土坑全景(西から)
11. 411号土坑断面(東から)
12. 411号土坑全景(東から)
13. 412号土坑断面(東から)
14. 412号土坑全景(南から)
15. 413号土坑断面(南東から)

P L. 39

1. 413号土坑全景(南東から)
2. 414号土坑断面(南から)
3. 414号土坑全景(南から)
4. 415号土坑断面(南から)
5. 415号土坑全景(南から)
6. 416号土坑断面(南から)
7. 416号土坑全景(南東から)
8. 417号土坑断面(南東から)
9. 417号土坑全景(南東から)
10. 418号土坑断面(南東から)
11. 418号土坑全景(南東から)
12. 419号土坑断面(南東から)
13. 419号土坑全景(北東から)
14. 420号土坑断面(北東から)
15. 420号土坑全景(東から)

P L. 40

1. 422号土坑・254号ビット断面(南西から)
2. 422号土坑・254号ビット全景(南西から)
3. 423号土坑断面(東から)
4. 423号土坑全景(南から)
5. 425号土坑断面(東から)
6. 425号土坑全景(東から)
7. 62号ビット断面(南から)
8. 62号ビット全景(南から)
9. 63号ビット断面(南東から)
10. 63号ビット全景(南東から)
11. 64号ビット断面(東から)
12. 64号ビット全景(東から)
13. 66号ビット断面(西から)
14. 66号ビット全景(西から)
15. 67号ビット断面(西から)
16. 69号ビット断面(南から)
17. 69号ビット全景(南から)
18. 70号ビット断面(南から)

P L. 41

1. 70号ビット全景(南から)
2. 71号ビット断面(南から)
3. 71号ビット全景(南から)
4. 72号ビット断面(南東から)
5. 72号ビット全景(南東から)
6. 77号ビット断面(北西から)
7. 77号ビット全景(北西から)

8. 81号ビット断面(南東から)
9. 81号ビット全景(南東から)
10. 84号ビット断面(南から)
11. 84号ビット全景(南から)
12. 85号ビット断面(南から)
13. 85号ビット全景(南から)
14. 86号ビット全景(北西から)
15. 87号ビット断面(南から)
16. 87号ビット全景(北から)
17. 88号ビット断面(南東から)
18. 88号ビット全景(南東から)
19. 90号ビット断面(南から)
20. 90号ビット全景(南から)
21. 91号ビット断面(南東から)
22. 91号ビット全景(南東から)
23. 95号ビット断面(南東から)
24. 96号ビット断面(南東から)

P L. 42

1. 96号ビット全景(南から)
2. 97号ビット断面(南東から)
3. 97号ビット全景(南東から)
4. 98号ビット断面(南東から)
5. 98号ビット全景(南東から)
6. 100号ビット断面(西から)
7. 101号ビット断面(南から)
8. 101号ビット全景(南から)
9. 105号ビット断面(南東から)
10. 106号ビット断面(南から)
11. 106号ビット全景(南から)
12. 107号ビット断面(南東から)
13. 107号ビット全景(南東から)
14. 108号ビット断面(南から)
15. 108号ビット全景(南から)
16. 109号ビット断面(東から)
17. 109号ビット全景(東から)
18. 110号ビット断面(北東から)
19. 110号ビット全景(北東から)
20. 111号ビット断面(南から)
21. 111号ビット全景(南から)
22. 112号ビット断面(南から)
23. 112号ビット全景(南から)
24. 113号ビット断面(南東から)

P L. 43

1. 113号ビット全景(南東から)
2. 115号ビット断面(北から)
3. 115号ビット全景(北から)
4. 116号ビット断面(南から)
5. 116号ビット全景(南から)
6. 117号ビット断面(北から)
7. 117号ビット全景(北から)
8. 118号ビット機出土態(西から)
9. 118号ビット断面(北から)
10. 118号ビット全景(北から)
11. 119号ビット断面(南東から)
12. 119号ビット全景(南東から)
13. 120号ビット断面(南から)
14. 120号ビット全景(南から)
15. 121号ビット断面(東から)
16. 121号ビット全景(東から)
17. 122号ビット断面(南から)
18. 122号ビット全景(南から)
19. 123号ビット断面(南東から)
20. 123号ビット全景(南東から)
21. 125号ビット全景(南から)
22. 126号ビット断面(南東から)
23. 126号ビット全景(南東から)
24. 127号ビット断面(南東から)

P L. 44

1. 127号ビット全景(南東から)

2.	128号ビット断面(北から)	20.	175号ビット全景(南東から)
3.	129号ビット断面(北東から)	21.	176号ビット全景(南東から)
4.	130号ビット断面(南から)	22.	177号ビット断面(南東から)
5.	130号ビット全景(北から)	23.	177号ビット全景(南東から)
6.	131号ビット断面(北東から)	24.	178号ビット断面(南東から)
7.	131号ビット全景(南西から)	P L. 47	1. 178号ビット全景(南東から)
8.	132号ビット断面(西から)	2.	179号ビット断面(北東から)
9.	132号ビット全景(西から)	3.	179号ビット全景(北東から)
10.	133号ビット断面(北西から)	4.	180号ビット断面(北東から)
11.	133号ビット全景(北西から)	5.	180号ビット全景(北東から)
12.	134号ビット断面(西から)	6.	181号ビット断面(南から)
13.	134号ビット全景(西から)	7.	181号ビット全景(南から)
14.	135号ビット断面(南から)	8.	182号ビット断面(南から)
15.	135号ビット全景(南から)	9.	182号ビット全景(南から)
16.	136号ビット断面(南から)	10.	183号ビット断面(南から)
17.	136号ビット全景(南から)	11.	183号ビット全景(南から)
18.	137号ビット断面(南から)	12.	184号ビット断面(南から)
19.	137号ビット全景(南から)	13.	184号ビット全景(南から)
20.	138号ビット断面(南から)	14.	185号ビット断面(東から)
21.	138号ビット全景(南から)	15.	185号ビット全景(東から)
22.	139号ビット断面(東から)	16.	186号ビット断面(南東から)
23.	139号ビット全景(東から)	17.	186号ビット全景(南東から)
24.	140号ビット断面(西から)	18.	187号ビット断面(西から)
P L. 45	1. 140号ビット全景(西から)	19.	187号ビット全景(西から)
2.	141号ビット断面(西から)	20.	188号ビット断面(東から)
3.	141号ビット全景(西から)	21.	188号ビット全景(東から)
4.	141号ビット石出土状態(西から)	22.	189号ビット断面(南から)
5.	143・144号ビット断面(南西から)	23.	189号ビット全景(南から)
6.	143・144号ビット全景(南西から)	24.	190号ビット断面(南東から)
7.	145号ビット断面(南から)	P L. 48	1. 190号ビット全景(南東から)
8.	145号ビット全景(南から)	2.	191号ビット断面(東から)
9.	146号ビット断面(南東から)	3.	192号ビット断面(南から)
10.	146号ビット全景(南東から)	4.	192号ビット全景(南から)
11.	147号ビット断面(南東から)	5.	193号ビット断面(南から)
12.	147号ビット全景(南東から)	6.	193号ビット全景(南から)
13.	149号ビット断面(西から)	7.	194号ビット断面(東から)
14.	149号ビット全景(西から)	8.	194号ビット全景(東から)
15.	150号ビット断面(南から)	9.	195号ビット断面(西から)
16.	150号ビット全景(南から)	10.	195号ビット全景(西から)
17.	151・152号ビット断面(西から)	11.	196号ビット断面(南東から)
18.	151・152号ビット全景(西から)	12.	196号ビット全景(南東から)
19.	153号ビット断面(西から)	13.	197号ビット断面(南東から)
20.	153号ビット全景(西から)	14.	197号ビット全景(南東から)
21.	154号ビット断面(南西から)	15.	198号ビット断面(南東から)
22.	154号ビット断面(南東から)	16.	198号ビット全景(南東から)
23.	154・155号ビット全景(南東から)	17.	199号ビット断面(南東から)
24.	158号ビット断面(西から)	18.	199号ビット全景(南東から)
P L. 46	1. 158号ビット全景(西から)	19.	200・201号ビット断面(南東から)
2.	159号ビット断面(南から)	20.	204号ビット断面(南西から)
3.	159号ビット全景(南から)	21.	200・201・204号ビット全景(東から)
4.	160号ビット断面(南から)	22.	202号ビット断面(南東から)
5.	160号ビット全景(南から)	23.	202号ビット全景(南東から)
6.	161号ビット断面(南から)	24.	203号ビット断面(南東から)
7.	161号ビット全景(南から)	P L. 49	1. 203号ビット全景(南東から)
8.	162号ビット断面(南から)	2.	205号ビット断面(南から)
9.	162号ビット全景(南から)	3.	205・206号ビット全景(南西から)
10.	163号ビット断面(南から)	4.	207号ビット断面(南から)
11.	163号ビット全景(南から)	5.	207号ビット全景(南から)
12.	164号ビット断面(南東から)	6.	208号ビット断面(南東から)
13.	164号ビット全景(南東から)	7.	208号ビット全景(南東から)
14.	165号ビット断面(南東から)	8.	213号ビット断面(南東から)
15.	165号ビット全景(南東から)	9.	213号ビット全景(南東から)
16.	174号ビット遺物出土状態(南から)	10.	214号ビット断面(南東から)
17.	174号ビット断面(南から)	11.	214号ビット全景(南東から)
18.	174号ビット全景(南から)	12.	217号ビット断面(南東から)
19.	175号ビット断面(南東から)	13.	217号ビット全景(南東から)

	14. 218号ビッド断面(南東から)		13. 1号掘立柱建物P 7 全景(南から)
	15. 218号ビッド全景(南東から)		14. 1号掘立柱建物P 9 断面(南から)
	16. 219号ビッド断面(南東から)		15. 1号掘立柱建物P 9 全景(南東から)
	17. 220号ビッド断面(南東から)	P L. 53	1. 1号掘立柱建物P 9 全景(南東から)
	18. 219・220号ビッド全景(南東から)		2. 1号掘立柱建物P 10断面(南西から)
	19. 221号ビッド断面(南東から)		3. 1号掘立柱建物P 10全景(南西から)
	20. 221号ビッド全景(南東から)		4. 2号掘立柱建物P 10断面(東から)
	21. 222・223号ビッド断面(東から)		5. 2号掘立柱建物P 10 断面(西から)
	22. 222・223号ビッド全景(東から)		6. 2号掘立柱建物P 1 全景(西から)
	23. 224号ビッド断面(東から)		7. 2号掘立柱建物P 2 断面(南から)
	24. 224号ビッド全景(南東から)		8. 2号掘立柱建物P 2 全景(南から)
P L. 50	1. 225号ビッド断面(南東から)		9. 2号掘立柱建物P 3 断面(東から)
	2. 225号ビッド全景(南東から)		10. 2号掘立柱建物P 3 全景(東から)
	3. 226号ビッド断面(南東から)		11. 2号掘立柱建物P 4 断面(東から)
	4. 226号ビッド全景(南東から)		12. 2号掘立柱建物P 5 断面(東から)
	5. 227号ビッド断面(南東から)		13. 2号掘立柱建物P 5 全景(東から)
	6. 227号ビッド全景(南東から)		14. 2号掘立柱建物P 6 断面(南東から)
	7. 231号ビッド断面(南東から)		15. 2号掘立柱建物P 6 全景(南東から)
	8. 231号ビッド全景(南東から)	P L. 54	1. 2号掘立柱建物P 7 断面(南から)
	9. 232号ビッド断面(南東から)		2. 2号掘立柱建物P 7 全景(南から)
	10. 234号ビッド断面(南東から)		3. 2号掘立柱建物P 8 断面(南から)
	11. 234号ビッド全景(南東から)		4. 2号掘立柱建物P 8 全景(南から)
	12. 235号ビッド全景(東から)		5. 2号掘立柱建物P 9 断面(北東から)
	13. 236号ビッド断面(南東から)		6. 2号掘立柱建物P 9 全景(北東から)
	14. 236号ビッド全景(南東から)		7. 2号礎石建物P 9 全景(南東から)
	15. 238号ビッド断面(南東から)		8. 2号礎石建物西側全景(北東から)
	16. 241号ビッド断面(南東から)		9. 2号礎石建物礎石 2 (北東から)
	17. 241号ビッド全景(南東から)		10. 2号礎石建物礎石 2 (北東から)
	18. 242号ビッド断面(南東から)		11. 2号礎石建物礎石 3 (北東から)
	19. 242号ビッド全景(南東から)		12. 2号礎石建物礎石 4 (北東から)
	20. 243号ビッド断面(南東から)		13. 2号礎石建物礎石 5 (北東から)
	21. 243号ビッド全景(南東から)		14. 2号礎石建物礎石 2 完備(北東から)
	22. 241～243号ビッド全景(南東から)		15. 2号礎石建物礎石 3 完備(北東から)
	23. 244号ビッド断面(南東から)	P L. 55	1. 2号礎石建物礎石 4 完備(北東から)
	24. 244号ビッド全景(南東から)		2. 2号礎石建物礎石 5 完備(北東から)
P L. 51	1. 245号ビッド断面(西から)		3. 1・2号櫓全景(南東から)
	2. 245号ビッド全景(南西から)		4. 1・2号櫓全景(南西から)
	3. 246号ビッド断面(南東から)		5. 1号櫓P 1 断面(南東から)
	4. 247号ビッド断面(南東から)		6. 1号櫓P 1 全景(南東から)
	5. 247号ビッド全景(南東から)		7. 1号櫓P 2 断面(北西から)
	6. 248号ビッド断面(南東から)		8. 1号櫓P 2 全景(南から)
	7. 248号ビッド全景(南東から)		9. 1号櫓P 3 断面(南東から)
	8. 250号ビッド断面(南から)		10. 1号櫓P 3 全景(南東から)
	9. 250号ビッド全景(南から)		11. 1号櫓P 4 断面(南東から)
	10. 251号ビッド断面(南から)		12. 1号櫓P 4 全景(南東から)
	11. 251号ビッド全景(南から)		13. 1号櫓P 5 断面(南東から)
	12. 252号ビッド断面(南から)		14. 1号櫓P 5 全景(南東から)
	13. 252号ビッド全景(南から)		15. 1号櫓P 6 断面(南東から)
	14. 253号ビッド断面(南から)	P L. 56	1. 1号櫓P 6 全景(南東から)
	15. 253号ビッド全景(南から)		2. 2号櫓P 1 断面(南東から)
	16. 255号ビッド断面(南東から)		3. 2号櫓P 1 全景(南東から)
	17. 255号ビッド全景(南東から)		4. 2号櫓P 2 断面(南東から)
	18. 1号掘立柱建物P 1 断面(北西から)		5. 2号櫓P 2 全景(南東から)
	19. 1号掘立柱建物P 1 断面(南東から)		6. 2号櫓P 3 断面(南東から)
P L. 52	1. 1号掘立柱建物P 1 全景(南東から)		7. 2号櫓P 3 全景(南東から)
	2. 1号掘立柱建物P 2 断面(南東から)		8. 2号櫓P 4 断面(北から)
	3. 1号掘立柱建物P 2 全景(南東から)		9. 2号櫓P 4 全景(南から)
	4. 1号掘立柱建物P 3 断面(南東から)		10. 3号櫓全景(西から)
	5. 1号掘立柱建物P 3 全景(南東から)		11. 3号櫓P 1 断面(南から)
	6. 1号掘立柱建物P 4 断面(南東から)		12. 3号櫓P 1 全景(南から)
	7. 1号掘立柱建物P 4 全景(南東から)		13. 3号櫓P 2 断面(北東から)
	8. 1号掘立柱建物P 5 断面(南東から)		14. 3号櫓P 2 全景(北東から)
	9. 1号掘立柱建物P 5 全景(南東から)		15. 3号櫓P 3 断面(南東から)
	10. 1号掘立柱建物P 6 断面(南東から)	P L. 57	1. 3号櫓P 3 全景(南東から)
	11. 1号掘立柱建物P 6 全景(南東から)		2. 3号櫓P 4 断面(南東から)
	12. 1号掘立柱建物P 7 断面(南から)		3. 3号櫓P 4 全景(南東から)

4. 4号櫓全景(北東から)  
 5. 4号櫓P1断面(南東から)  
 6. 4号櫓P2断面(南東から)  
 7. 4号櫓P3断面(南東から)  
 8. 4号櫓P3全景(南東から)  
 9. 4号櫓P4断面(南東から)  
 10. 4号櫓P4全景(南東から)  
 11. 4号櫓P5断面(南東から)  
 12. 4号櫓P5全景(東から)  
 13. 4号櫓P6断面(南東から)  
 14. 4号櫓P6全景(南東から)  
 15. 4号櫓P7断面(南東から)
- P L. 58 1. 4号櫓P7全景(南東から)  
 2. 5号櫓全景(南東から)  
 3. 5号櫓P1断面(南東から)  
 4. 5号櫓P1全景(南東から)  
 5. 5号櫓P2断面(南東から)  
 6. 5号櫓P2全景(南東から)  
 7. 5号櫓P3全景(南から)  
 8. 5号櫓P4断面(南東から)  
 9. 5号櫓P4全景(南東から)  
 10. 5号櫓P5断面(南東から)  
 11. 5号櫓P5全景(南東から)  
 12. 5号櫓P6断面(南東から)  
 13. 5号櫓P6全景(南東から)  
 14. 5号櫓P7断面(南東から)  
 15. 5号櫓P7全景(南東から)
- P L. 59 1. 4号集石断面(北東から)  
 2. 5号集石礎出土状態(北から)  
 3. 5号集石全景(東から)  
 4. 6号集石礎出土状態(南から)  
 5. 6号集石断面(北から)  
 6. 6号集石全景(北から)  
 7. 7号集石礎出土状態(東から)  
 8. 7号集石断面(東から)  
 9. 7号集石全景(東から)  
 10. 8号集石断面(北東から)  
 11. 1号石垣全景(南から)  
 12. 1号石垣全景(西から)  
 13. 1号石垣断面(西から)  
 14. 1号石垣断面(南西から)  
 15. 21号焼土確認面(東から)
- P L. 60 1. 21号焼土断面(南から)  
 2. 21号焼土全景(南から)  
 3. 22号焼土断面(南から)  
 4. 22号焼土全景(南から)  
 5. 23号焼土確認面(東から)  
 6. 23号焼土断面(西から)  
 7. 23号焼土全景(西から)  
 8. 24号焼土確認面(東から)  
 9. 24号焼土全景(南から)  
 10. 25号焼土出土状態(西から)  
 11. 25号焼土断面(西から)  
 12. 25号焼土全景(西から)  
 13. 26号焼土確認面(南から)  
 14. 26号焼土断面(南から)  
 15. 26号焼土全景(南から)
- P L. 61 1. 27号焼土出土状態(北東から)  
 2. 27号焼土断面(南東から)  
 3. 27号焼土全景(南西から)  
 4. 28号焼土出土状態(北東から)  
 5. 28号焼土断面(南東から)  
 6. 28号焼土全景(南西から)  
 7. 29号焼土出土状態(南から)  
 8. 29号焼土断面(南から)  
 9. 29号焼土全景(南から)
10. 30号焼土出土状態(南から)  
 11. 31号焼土出土状態(南から)  
 12. 32号焼土出土状態(東から)  
 13. 32号焼土断面(東から)  
 14. 32号焼土全景(東から)  
 15. 33号焼土出土状態(南東から)
- P L. 62 1. 33号焼土断面(南東から)  
 2. 33号焼土全景(南東から)  
 3. 34号焼土石礎出土状態(北東から)  
 4. 34号焼土断面(北東から)  
 5. 34号焼土全景(北東から)  
 6. 35号焼土出土状態(北西から)  
 7. 35号焼土断面(南東から)  
 8. 36号焼土確認面(南西から)  
 9. 36号焼土断面(南東から)  
 10. 36号焼土全景(南西から)  
 11. 37号焼土出土状態(東から)  
 12. 37号焼土断面(北東から)  
 13. 37号焼土全景(北東から)  
 14. 38号焼土確認面(南東から)  
 15. 38号焼土断面(南東から)
- P L. 63 1. 38号焼土遺物出土状態(南東から)  
 2. 1号講断面(西から)  
 3. 1号講全景(西から)  
 4. 2号講断面(西から)  
 5. 2号講全景(西から)  
 6. 3号講断面(東から)  
 7. 3号講全景(東から)  
 8. 4号講全景(東から)  
 9. 5号講断面(東から)  
 10. 5号講全景(東から)
- P L. 64 33号住居出土遺物・35号住居出土遺物(1)  
 P L. 65 35号住居出土遺物(2)・51号住居出土遺物(1)  
 P L. 66 51号住居出土遺物(2)・56号住居出土遺物・57号住居出土遺物・土坑(縄文時代)出土遺物  
 P L. 67 遺構外出土遺物(縄文・弥生時代)(1)  
 P L. 68 遺構外出土遺物(縄文・弥生時代)(2)  
 P L. 69 遺構外出土遺物(縄文・弥生時代)(3)  
 P L. 70 遺構外出土遺物(縄文・弥生時代)(4)  
 P L. 71 遺構外出土遺物(縄文・弥生時代)(5)  
 P L. 72 遺構外出土遺物(縄文・弥生時代)(6)  
 P L. 73 52号住居出土遺物・53号住居出土遺物・54号住居出土遺物・55号住居出土遺物  
 P L. 74 土坑(陥穴)出土遺物(1)  
 P L. 75 土坑(陥穴)出土遺物(2)  
 P L. 76 土坑(近世)出土遺物・土坑(中近世)出土遺物(1)  
 P L. 77 土坑(中近世)出土遺物(2)・ビット出土遺物(1)  
 P L. 78 ビット出土遺物(2)・5号櫓出土遺物・集石出土遺物・1号石垣出土遺物  
 P L. 79 焼土出土遺物・遺構外出土遺物(平安時代以降)(1)  
 P L. 80 遺構外出土遺物(平安時代以降)(2)

## 第1章 調査の方法と経過

### 第1節 発掘調査に至る経緯

ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、建設省関東地方建設局と群馬県教育委員会、長野原町教育委員会、東吾妻町教育委員会が、その実施に関する協議を重ね、建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長が、平成6年3月18日に「ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」を締結し、ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業の実施計画が決定され、いよいよ発掘調査が開始される事となった。実施計画書に示された調査組織等の役割は、調査調整機関が群馬県教育委員会、発掘調査機関が財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。

この協定をふまえて、同年4月1日に関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長により発掘調査受託契約を、同日に群馬県教育委員会教育長と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長により発掘調査受託契約を締結し、平成6年度からハツ場ダム進入路関連遺跡を調査箇所とするハツ場ダム埋蔵文化財発掘調査が開始された。

その後、平成11年4月1日に「ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定の一部を変更する協定書」が締結され、現在の調査体制に至っている。

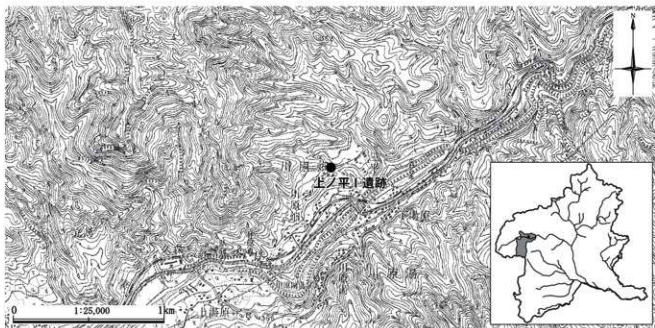
さらに、平成17年4月1日に期間変更の協定書変更がなされ、平成28年度末までに第5回の変更を行い、継続されている。

上ノ平1遺跡は吾妻川左岸の吾妻郡長野原町川原畑にあり、縄文時代・平安時代などを中心とする周知の埋蔵文化財包蔵地である。

上ノ平1遺跡は、平成18年度に川原畑地区代替地造成工事に伴う発掘調査が行われ、その成果は平成20年度に「上ノ平1遺跡(1)」として刊行された。平成19年度にも発掘調査が行われ、その成果は平成28年度に「上ノ平1遺跡(2)」として刊行された。さらに、今回は平成28年度の調査成果を「上ノ平1遺跡(3)」として刊行することとなった。

遺跡全体では当初は約15,000㎡が対象であったが、工事に絡む関係で開始の時期を計3か年、3次に分割して実施した。各年度の期間、調査面積は平成18年度が4月から12月までの9か月、平成19年度が6月から11月までの6か月、平成28年度が4月から7月までの4か月、合計で15,302㎡である。さらに、電柱等の撤去作業後にその部分の追加調査を11月下旬に数日実施した。なお、各年次の調査範囲は第6図に表示したとおりである。

これまでに2冊の報告書がそれぞれ刊行されているが、第3冊目となる本書をもってすべての成果の公表が終了することとなる。



第1図 上ノ平1遺跡位置図(国土地理院1/25,000地形図「長野原」・「群馬原町」使用)

## 第2節 発掘調査の方法

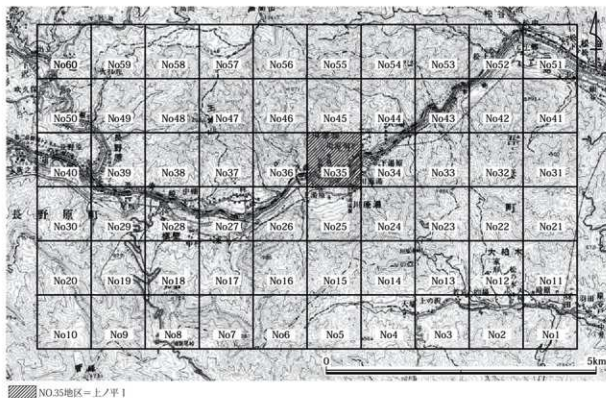
平成6年度から始まったハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査においては遺跡名称の略号、調査区(グリッド)の設定については「ハッ場ダム関係埋蔵文化財発掘調査方法」に基づき実施されてきた。本報告でもこれに準じ必要箇所について記載する事とする。

発掘調査における遺跡番号はハッ場ダム建設にかかわる長野原町の大字5地区(1. 川原畑、2. 川原湯、3. 横壁、4. 林、5. 長野原)ごとに番号を付与し、ハッ場ダム建設に伴う略称「YD」の後ろに続けた。略称、地区

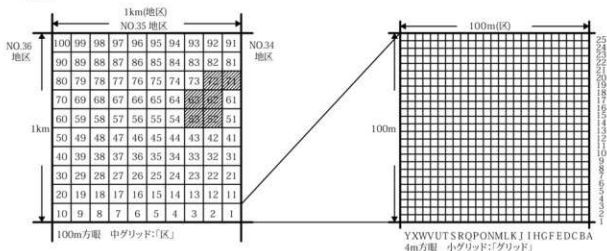
番号の次にはハイフン(-)を記入し、その次に各地区内に所在する遺跡に対して発掘調査順に通し番号を付与して遺跡略称とした。上ノ平1遺跡の場合は(YD1-07)である。

調査区(グリッド)については、ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財対象地域内を国家座標(2002年4月改正以前の日本測地系)の日本平面直角座標IX系を使用し、吾妻郡吾妻町(現東吾妻町)大柏木の東部付近を基点(X=58000.00、Y=-97000.00)とした。

この基点から国家座標に準じて西・北方向に座標を設



NO.35地区=上ノ平1



第2図 調査区の設定

定した。ハットダム建設に伴う埋蔵文化財対象地域内は基点から西へ10km、北へ6kmの広範囲に所在する事から1km四方の大区画(地区と呼称)を西へ10区画、北へ6区画の計60区画を設定した。

この大区画の内部を100m四方の中区画(区と呼称)に区分し、東南角から南列を西に1区、2区、10区とし、次の列を11区～20区のように100区まで設定した。

さらに、この中区画の内部は4m四方の625個の小区画に細分した。この細分した区画は南東を基点に西へはA～Yまでのアルファベット、北へは1～25までの数字を付与して各区画を区分した。すなわち、上ノ平1遺跡の所在する35地区52・53・62・63・71・72区の基点となる小区画は35地区52区A-1と呼称される事になる。

原則として、この小区画を基にして遺構図測量、遺物取り上げ、旧石器時代等の試掘調査を実施する際の基準として使用した。

なお、国家座標の日本測地系は平成14年4月1日から世界測地系に切り替わっているが、本報告書の抄録では、世界測地系を記している。

### 第3節 発掘調査の経過

上ノ平1遺跡の発掘調査は工事工程の関係から、平成18・19・28年と、延べ3か年にまたがると共に、ハットダム関連の他の遺跡と同様に冬季閉鎖による調査中断を挟み、継続して発掘調査が出来ない事から、1月から3月に基礎整理等を実施する形をとってきた。しかし、代替造成地工事の進捗状況に合わせて、平成28年度の冬季は先行して発掘調査する箇所の表土掘削を随時開始する事となった。そのため、その排出土については周辺の場所に一時盛り土保管場所として対応し、その後は発掘調査が終了した場所を随時置き場にした。また、発掘調査は基本的に以下の調査方法で行われた。

1. 掘削機(バックホー)による基本土層の第I層の暗褐色土層の掘削を行う。表土剥ぎ。
2. 第II層の中近世遺構確認・検出面、及び第III層の平安時代確認・検出面、さらにその下位からの縄文時代の遺構は人手による遺構確認作業を行い、個々の調査を行う。(I・II・III面)
3. 遺構調査終了後、62区・72区を中心に基本土層の第V層から下位の地層に対しての試掘を実施し、より古い時代の遺構確認作業を行った。(VI面)

検出した遺構については平面、土層観察断面等の測量、写真撮影による記録を作成した。遺跡全体図や遺構個別図の測量は多くを委託した。また、遺跡全体図や広範囲におよぶ遺構図については航空写真撮影による測量にて対応した。

遺跡全景や遺構個別写真等の記録写真の撮影には中型と小型カメラを併用して、基本的に6×7版白黒と35mmのカラー・白黒(モノクロ)兼用デジタルカメラで行い、遺構全景の撮影にはモニタリングカメラ、ローリングタワーを場合によって併用し、各段階での全体写真の撮影にはラジコンヘリ(主としてドローン:『PHANTOM(ファントム)4』)を使用して、上空からの航空写真や高所からの俯瞰写真を撮影した。

各年度共に、すべての作業が終了後に埋め戻し作業を行い、工事側への区画の引き渡しをした。

第1章 調査の方法と経過

上ノ平1遺跡発掘調査日記抄録

平成28年(2016)

4月

- 1日(金) 発掘作業開始準備。
- 4日(月) 遺跡発掘調査関係者打ち合わせ。
- 20日(水) 事務所用地及び駐車場整地作業。基準点測量。
- 25日(月) 東側調査区(1区中央部東側)と1区中央部西側の表土掘削、遺構確認作業開始。
- 26日(火) 1区中央部東側旧石器確認作業、東壁で基本土層掘削、1区北部表土掘削開始。
- 27日(水) 1区中央部東側埋め戻し。

5月

- 2日(月) 1区中央部西側土坑群・焼土調査。1区北部東側遺構確認作業。1区北部西側表土掘削開始。
- 6日(金) 1区中央部西側土坑・ピット群調査。1区北部西側表土掘削、1区北部東側1面遺構確認作業。
- 9日(月) 1区中央部中央土坑調査。1区北部東側1面、土坑・ピット群調査。2区表土掘削開始。

10日(火) 1区中央部中央旧石器確認掘削開始。

- 16日(月) 1区北部中央遺構確認、土坑調査。
- 18日(水) 1区北部東側2面掘削開始。2区遺構確認。平成19年度調査遺構の位置確認。

- 19日(木) 1区北部東側2面遺構確認。土坑ピット調査。
- 24日(火) 1区北部中央部1面土坑調査。

- 25日(水) 1区南部東側1面表土掘削開始。
- 26日(木) 1区南部東側1面調査。1区南部中央表土掘削開始。1区北部中央空撮。

- 30日(月) 1区北部中央1面掘削開始。1区北部東側埋め戻し開始。1区南部中央1面遺構確認。

31日(火) 1区北部中央2面遺構確認。

6月

- 3日(金) 1区北部中央西・東側2面遺構調査。1区南部中央1面土坑・ピット調査。2区西部1面遺構確認。

- 6日(月) 2区東側2面調査。1区北部中央南・北側2面遺構調査。1区西部1面表土掘削開始。1区南部中央3面遺構調査。

9日(木) 1区西部1面遺構確認調査。

- 14日(火) 2区東部1面遺構確認調査。
- 16日(木) 1区中央部南部2面遺構確認、ピット調査。
- 20日(月) 1区西部1面空撮、2区東部1面空撮。

- 21日(火) 2区東部2面遺構確認。
- 28日(火) 1区西部2面遺構調査。
- 29日(水) 2区中央部東側1面遺構調査。

7月

- 1日(金) 2区中央部遺構調査。
- 19日(火) 2区西部2面遺構確認開始。2区西端1面表土掘削・遺構確認調査開始。

27日(水) 1区北東部斜面地遺構確認調査開始。

8月

- 1日(月) 2区住居・土坑調査。
- 12日(金) 2区埋め戻し終了、1区埋め戻し開始。
- 24日(水) 1区埋め戻し終了

11月

- 25日(金) 1区陥し穴調査。
- 28日(月) 1区住居調査。産廃仕分け作業。
- 29日(火) 埋め戻し作業開始。
- 30日(水) 埋め戻し作業終了。

なお、発掘調査時に調査区を便宜上北東部が「1区」、南西部が「2区」と呼称したが、本報告書では発掘調査日記や調査作業工程表に表記されるだけで、実際には基本のグリッドの名称を用いた。



表1 平成28年度 調査作業工程表

作業地点	面	第一四半期			第二四半期			第三四半期			備考
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
1区 中央部 東側	1 2 3	↔								↔	中近世 平安 縄文
1区 中央部 西側	1 2 3	←				→				↔	中近世 平安 縄文
1区 中央部 南側	1 2 3						←				中近世 平安 縄文
1区 中央部 中央	1 2 3		←			→					中近世 平安 縄文
1区 北部 東側	1 2 3		←			→				↔ ↔	中近世 平安 縄文
1区 北部 中央	1 2 3		←			→				↔	中近世 平安 縄文
1区 北東部	1 2 3					↔					中近世 平安 縄文
1区 南部 東側	1 2 3		←			→					中近世 平安 縄文
1区 南部 中央	1 2 3		←			→					中近世 平安 縄文
1区 西部	1 2 3		←			→				↔	中近世 平安 縄文
2区	1 2 3					↔ ↔					中近世 平安 縄文
2区 中央部 東側	1 2 3				←	→					中近世 平安 縄文
2区 中央部	1 2 3				←	→					中近世 平安 縄文
2区 東	1 2 3		←			→					中近世 平安 縄文
2区 西	1 2 3		←			→					中近世 平安 縄文
2区 西端	1 2 3					↔					中近世 平安 縄文

#### 第4節 整理の方法と経過

上ノ平1遺跡の整理作業は、平成28年度に引き続き、平成29年の4月から9月までの6か月の計画に基づいて、上ノ平1遺跡の発掘調査の成果の最終報告である第3冊目の編集・刊行を目指して、ハツ場ダム調査事務所を開始した。

一般的に整理作業では、遺跡の発掘調査での出土品である遺物、遺構図や遺構記録類を、報告書編集・作成をする上での材料として使用することとなる。

この整理作業にあたっては、測量した遺構図及び撮影した写真は、「公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団資料管理マニュアル」、「発掘調査報告書デジタル編集のための手引きVer.2.2デジタル編集マニュアル編集班用(2012年6月版)」に従って基礎整理を実施した。

まず、土器や石器・石製品などの遺物については、外部発注による洗浄・注記などの基礎整理を既に行っていたために、洗浄・注記の有無の確認、取り上げ番号などのチェックなどを行った。

次に、遺構別・層別別・地点別分類・区分けの後に接合・復元作業を開始し、実測個体の選び出しと実測・トレース作業を行った。さらに、図面類については原因全体の確認・台帳化と、使用原因の選び出しと鉛筆によるトレース素図とトレース図作成を実施した。また、出土した遺物の図面上での位置の確認などを行った。そして、仕上がりの確認とともに、レイアウトの作成、遺構や遺物、それに関連する資料の図版作成を行った。

なお、金属器・金属製品については整理作業時に図の作成、写真撮影が可能な状態になるように保存処理を行い、整理作業後は本部にて保管する予定である。

写真関係では、現場で撮影したデジタル35ミリと6×7の個々の白黒写真については、出土状態など写真の種類などの確認、記録カード・台帳化を行った。特に、デジタルは保存用と活用用の2種類への振り分け編集作業を実施し、報告書刊行後の利用に備える準備をした。

遺物は選び出し個体の写真撮影から行った。これらの作業がほぼ終了した時点で、レイアウトの作成、遺物・遺構・写真図版の作成を開始した。

同時に、報文原稿については整理担当者を中心に執筆したが、一部については発掘調査担当者や各時代・各遺構・遺物を専門分野とする職員らの助言・協力を得た。

これらの作業をすべて行い、印刷原稿などが揃い入札を行い、印刷工程を経て刊行となった。

## 第2章 遺跡の環境

## 第1節 地理

吾妻郡長野原町は群馬県の西部、長野県との県境に位置する浅間山の北東に位置する。

行政区画としては、東は吾妻郡東吾妻(ひがしがつま)町、北は同郡中之条(なかのじょう)町、北西は同郡草津(くさつ)町、西は同郡嬭恋(つまごい)村、南は長野県軽井沢(かるいざわ)町、南東は高崎(たかさき)市にそれぞれ接する。

周囲は標高1,000m～1,800m級の山々が連なり、南東部の高崎市との境に鼻曲(はなまがり：標高1,655m)と浅間隠(あさまかくし：標高1,756.7m)、東の東吾妻町との境に高間(たかま：標高1,341.7m)、西部に浅間隠・菅峰(すがみね：標高1,473.5m)・高間・笹崎(ささき)や：標高1,756.7m)、北部に吾嬭(かづま：標高1,181.5m)・薬師(やくし：標高974.4m)等の山々が存在する。

河川では、吾妻郡嬭恋村大字田代と長野県との境界に位置する鳥居峠(とりいとうげ：1,362m)付近から流れ出す吾妻川が東流し、それに万座川や白砂川、それに熊

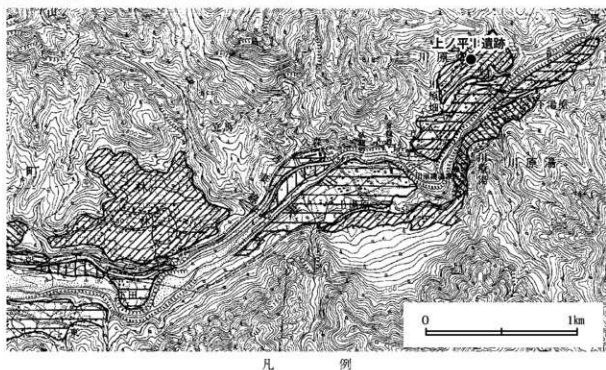
川等の小河川が左岸側から南流、あるいは右岸側から北流して、それぞれ吾妻川に合流する。

山間地特有の河川の蛇行により主に右岸側のみが幅が狭くなっており、一部では溪谷を作り出している。本遺跡が立地する段丘は最上位面で関東ロームが堆積しており、その形成時期は更新世の終末期の時期と考えられる。この緩やかな傾斜の段丘やその下位の丘陵上に縄文時代から平安時代にかけての遺跡がいくつも存在しており、現在でも住宅地や水田、畑として利用されている。

長野原町内の主な集落は吾妻川の河岸段丘上にある。吾妻川の谷は長野原地区付近ではその幅がやや広く、河岸に何段かの河岸段丘が発達しており、川原湯・川原畑地区より東では基盤の第三紀層を刻み込んで吾妻溪谷を形成している。

本遺跡の所在する上ノ平地区は、北側に山々を抱き、南に位置する吾妻川が左右両岸に段丘が形成され、東を東沢、西をさかえ沢に区切られた東西に細長い地形を呈し、南に緩やかに傾斜している。

参考文献  
長野原町誌編纂委員会編 1976『長野原町誌』上。



第3図 段丘面分布図(国土地理院発行2.5万分の1地形図「長野原」を使用)

## 第2節 地形と地質

長野原町の地形・地質に大きな影響を与えたのは、現在も噴火活動を続けている浅間火山で、町域の北西部、長野県境に位置し、黒斑・仏岩・前掛山・釜山の4つの火山体で構成される標高2,568mの成層火山である。約21,000年前の黒斑火山の噴火では、岩屑流と「応桑泥流」と呼ばれる泥流が発生している。この泥流堆積物は、当時の河床を数十mの厚さで埋めている。その後この堆積物によって吾妻川の浸食が進み、兩岸に最上位と上位の段丘面が形成されている。浅間山は、この後も多くの火山堆積物を堆積させているが、特に町域では浅間一草津黄色軽石(As-YPk, 10,500～11,500年前)の堆積が顕著である。また、天明3年(1783)の前掛山の噴火により発生した火砕流は吾妻川に流れ込んで泥流となり、今も「天明泥流」として下位段丘や中位段丘を数m～数十mの厚さで覆っている。

平地は吾妻川に沿って僅かに分布しており、階段状の河岸段丘の上位にある。ここはこの地区の主な居住区であり、農業生産の中心地にもなっている。

この段丘は、吾妻川からの比高の差を基準に下位段丘・中位段丘・上位段丘・最上位段丘の4つに分類されている。各段丘面の現在の吾妻川からの平均的な比高は、下位段丘で約10～15m、中位段丘で約30m、上位段丘で約60～65m、最上位段丘で約80～90mとなっている。このうちの上位・最上位の段丘面は約21,000年前に噴出した応桑泥流堆積物を基盤とし、その上に重なる関東ローム層中には、約11,000年前に噴出したと考えられるAs-YPkが最上位面で約2m堆積している。

川原如地域では、上ノ平Ⅰ遺跡の所在する上ノ平地区が最上位段丘面、三平Ⅰ遺跡・三平Ⅱ遺跡の所在する三平地区、二社平遺跡の所在する二社平地区が上位段丘面に、西宮遺跡の所在する西宮地区、東宮遺跡の所在する東宮地区、石畑遺跡の所在する石畑地区が中位段丘面にそれぞれ相当する。吾妻川左岸の川沿いの低い一部が下位段丘面に相当する。上ノ平Ⅰ遺跡はその最上位段丘面に急な傾斜地特有の崩落土壌による扇状地形が組み合わさったものである。

さらに、東から八ッ場沢、六山沢、東沢、さかえ沢、みょうが沢が吾妻川に向かって南流しており、上ノ平Ⅰ遺跡はその東沢とさかえ沢に挟まれた緩い傾斜部分に位置する。

## 第3節 歴史

この地域の歴史については、既に長野原町教育委員会の富田氏や、事業団の各報告書の執筆担当によって詳細な記述がなされており、それを参考に記述する事とするが、各時代の主要な遺跡については最新の発掘調査の結果をも含めて説明する事とする。

長野原町教育委員会が八ッ場ダム建設計画に先行して、1987(昭和62)年から3か年にわたり実施した遺跡分布調査において、183か所の埋藏文化財包蔵地が確認された。これに石造物などの指定文化財や名勝・天然記念物などを含めると文化財総数は199を数える。1994(平成6)年以降に八ッ場ダム建設に係わる発掘調査の進展に伴い、包蔵地はさらに増加している。

**旧石器時代** 現在までにこの時代の遺跡は確認されていない。ただし、遺構外ながら柳沢城跡で細石器文化に伴うと考えられる珪質頁岩の削器が1点出土している。長野原一本松遺跡でも尖頭器が出土している。

**縄文時代** 縄文時代になると遺跡数は増大する。この時代の遺跡の主なものとして本遺跡以外に、石畑岩陰遺跡、坪井遺跡、長畝Ⅱ遺跡、暮理遺跡、立馬Ⅱ遺跡、横壁中村遺跡、長野原一本松遺跡、西久保Ⅰ遺跡、幸神遺跡、勘場木遺跡、向原遺跡、滝原Ⅲ遺跡等があげられる。草創期の遺跡として表裏縄文土器が出土した石畑岩陰遺跡が著名であるが、横壁勝沼遺跡からも表探ながら草創期の槍先形尖頭器が出土している。最近、国学院大学考古学研究室による居家以岩陰遺跡で隆起縄文や早期の土器、それに早期の人骨が複数体出土している。早期は初頭の燃糸文期の榎木Ⅱ遺跡で20数棟、立馬遺跡で1棟検出されている。前期では坪井遺跡で初頭の花積下層式期の1棟、暮理遺跡で前期前葉の二ツ木式期の2棟、前期中葉～後葉が榎木Ⅱ遺跡で10棟、中期は立馬Ⅱ遺跡で初頭から前半の五領ヶ台式～阿玉台式の9棟、幸神遺跡で完形の阿玉台式土器を埋設した土坑Ⅰ基が検出されている。中期後半が最も多く横壁中村遺跡と長野原一本松遺跡では共に250棟以上の大規模な集落を形成していた事が判明している。この他に林中原Ⅱ遺跡では、遺構は前期初頭からあるものの、中期後葉に大規模な集落、後期は初頭～前葉段階の敷石住居や列石遺構が検出されている。特に焼骨を伴う土坑や伏裏を埋設する土坑等があり、墓塚群としての位置付けが推定されるのが興味深い。そ

の他に坪井遺跡の19棟、幸神遺跡2棟、勘場木遺跡1棟、長畝Ⅱ遺跡2棟が検出されている。後期に至っても横壁中村遺跡と長野原一本松遺跡でも引き続き集落が形成されており、他に向原遺跡で5棟検出されている。晩期は川原湯勝沼遺跡で2個の土器を埋塞した土坑が検出され、再葬墓の可能性が指摘されている。

**弥生時代** この時期の遺跡は極めて希薄であり、前期では横壁中村遺跡で榎王式の甕を埋設した土坑が検出されて再葬墓の可能性が指摘されている。検木Ⅲ遺跡では土器が集中して出土している。中期後半では立馬Ⅰ遺跡で土器棺墓が1基と竪穴住居が2棟、後期の構式は石畑遺跡で土坑が、二社平遺跡で破片が多数出土している。その他に、本遺跡のように遺構は明確でないものの、土器が多少出土するのが何箇所かある。

**古墳時代** 1938(昭和13)年に編纂された『上毛古墳総覧』によれば、長野原町には2基の古墳の存在が記されており、大津の鉄塚と喜喜屋の五輪塚が該当するとされているが、現在までに発掘調査によって確認されたものはひとつも無く、現時点では東吾妻町の岩島地区が吾妻地域の西限である。集落関係では上原Ⅰ遺跡では前期と考えられる住居が1棟、後期では上原Ⅳ遺跡、林宮原Ⅱ遺跡、下原遺跡でそれぞれ1棟が検出されている。遺物では1976(昭和51)年に刊行された『草津温泉誌』第壹号にも長野原町大津の金丸製材所の西地点で出土した壺型土器と高環が掲載されており、これが吾妻川流域の最奥の古墳時代の資料として紹介されている。これらからみても、この時期の遺跡の数が極端に少なく、それぞれの規模も小さいことから古墳が構築される土台がなかった可能性が高いことが言える。

**奈良・平安時代** 10世紀ごろに編纂された『和名類聚抄(わみょうるいじゅうしょう)』によれば、古代律令制での吾妻(阿加豆末:あがつま)郡は、大田(おおた)、東吾妻町太田地区から吾妻川上流の三島までの右岸(一部)郷、伊参(いさま)、中之条町から原町にかけての吾妻川左岸(一部)郷、長田(ながた):中之条町北東部から高山村にかけての名久田川流域郷の三つの郷に区分され、その郡衙(役所)は原町の大宮蔵神社周辺と考えられているが、近年の発掘調査からは疑問視されてきている。一方、長野原町のある西吾妻地区には郷が存在しないとされている。確かに奈良時代の遺構・遺物は極めて希薄で、羽

根尾遺跡や分布調査で僅かに確認されているのみで、これを証明している。

だが、平安時代になると遺跡数は増加する。本遺跡以外では、主な遺跡としては長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡、林宮原遺跡、向原遺跡、長畝Ⅰ遺跡、坪井遺跡、花畑遺跡、下原遺跡、川原湯勝沼遺跡、三平Ⅰ遺跡、三平Ⅱ遺跡、二社平遺跡が挙げられる。各遺跡での竪穴住居の検出数は数棟と少ないものの、検木Ⅱ遺跡では9世紀後半から10世紀前半にかけての竪穴住居が38棟もまとめて検出されており、「三家」などと書かれた墨書土器の存在から、高崎市山名町にある山ノ上碑に記載された「佐野三家」との関連を強く想定させる。さらに、朝廷の直轄地である「みやけ・ミヤケ・屯倉・官家」との関連をも想定される。また、西吾妻地区でも最大規模の竪穴住居の数は、たとえ同時存在ではないにしろ、存続期間が9世紀後半から10世紀前半の約百年と短い期間であることから、古代の律令制における地方行政の最も下位の単位である郷に近い形態の集落の存在が推定される。流通関係でも、須臾器の羽釜に見られる利根郡のみなかみ町の月夜野古窯社を中心に生産され北毛に流通する「月夜野型」と、高崎市西部の丘陵地域で生産され、中毛から西毛にかけて分布する「吉井型」との共存関係などが、吾妻川流域での問題となっている。

また、町内から瓦塔の破片が発見されており、町重要文化財に指定となっているが、詳細な出土地は不明であるものの、仏教の影響を証明している。

**中世** この時代の西吾妻地区の様子は、吾妻氏の拠点である東吾妻地区に比べて不明な点が多いが、『吾妻鏡』によれば、1241(仁治2)年には三原庄が存在したとされ、信濃源氏の末裔とされる海野氏とその一族の下屋・鎌原・西窪・羽尾氏らの支配下にあったとされている。後の戦国期には齋藤氏や真田氏らが活躍したと記されている。特に、林の地については、1563(永禄6)年の9月の長野原城の戦いの際に、齋藤氏が王城山から林の神社(現在の王城)を拠点にして、合戦の地となった事が『加沢記』等にも記載されている。羽尾氏から1566(永禄9)年の御山城攻略に功績のあった湯本氏も20貫文を所領している。その後は、齋藤氏が滅亡すると共に、武田氏による湯本氏への支配が強化されるが、武田氏やその後の北条氏の滅亡後、真田氏が支配する事となる。この時

期の資料としては柳沢城や丸岩城などの城館跡などが中心であったが、近年の発掘調査により掘立柱建物などの屋敷等を検出する遺跡が増えつつある。主な遺跡としては、横壁中村遺跡、尾坂遺跡、二反沢遺跡、林中原Ⅰ遺跡、下原遺跡、下田遺跡等が挙げられる。林中原Ⅰ遺跡では内耳銅が掛けられた柱が検出された竪穴遺構、下原遺跡では中世の畑跡や建物跡が検出されている。二反沢遺跡からは中世の区画跡の他、羽口、鉄滓、椀状滓等の製鉄関連遺物が検出されている。真田の検地では571石と倍増されている。

近世 沼田真田氏による支配の後、1681(天和元年)の真田信直の改易により、この地域の大部分は幕府領や旗本領のいわゆる天領となり、明治維新までその体制が続き、明治以後に林村から1889(明治22)年の1町6村による町村合併により現在の長野原町となった。村高は「寛文郷帳」では125石うち田方14石・畑方111石、「元禄郷帳」では195石、「天保郷帳」と「旧高旧領」では202石である。1857(安政4)年の人別改帳では、戸数73・人数322・馬16と記されている。なお、近世の遺跡の大部分が、1783(天明3)年の浅間山の噴火に伴い噴出した浅間A軽石と泥流堆積物で埋没したものである。主な遺跡としては、下湯原遺跡、東宮遺跡、西宮遺跡、石河原遺跡、川原湯勝沼遺跡、横壁中村遺跡、下田遺跡、中棚Ⅱ遺跡、久々戸遺跡、尾坂遺跡等が挙げられる。特に、久々戸遺跡の6次調査では、江戸時代の街道である「草津道」が検出されている。小林屋敷遺跡からは地区の豪農であった小林家の屋敷の一部が検出されており、文献との照合もなされている。尾坂遺跡や東宮遺跡からも屋敷が検出されている。石川原遺跡や下湯原遺跡では麻畑が広がる地域を東西に横切る道やそれに付随する水路が、さらに石川原遺跡では道に沿って母屋に納屋、倉などが伴う家々が連なって検出されている。上ノ平Ⅰ遺跡のある川原畑村(石高160)の被害は、東宮遺跡や西宮遺跡の範囲で泥押し80石・流出家屋20・流死者4などである。対岸の川原湯村である下湯原遺跡等の状況から、生産基盤としての畑を中心に検出されており、その中に麻の占める割合が高い点、それに対して水田の比率が低い等があげられているが、一部で段丘崖線の湧水を利用した水田が石川原遺跡や上郷岡原遺跡等で検出されている。

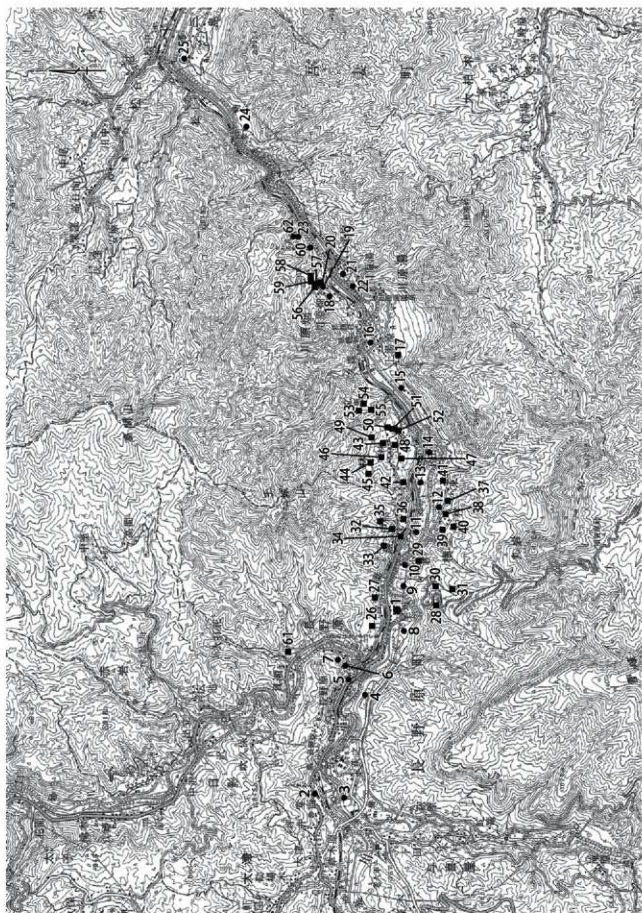
また、下原遺跡などで1742(寛保2)年の洪水の際に

生じた土砂崩れで埋没したと考えられる畑跡も検出されるなど、さらに古い洪水の存在も推定される。

石造物では、1765(明和2)年や1810(文化7)年、1818(文化15)年、1834(天保5)年などがあるが、鎌原の延命寺の門石のように、泥流の被害地域では押し流されたものが多いと考えられる。

#### 参考文献

- (概説書・図録類)  
尾崎喜左衛門監修 1987『日本歴史地名大系10 群馬県の地名』平凡社  
日本地名大辞典編纂委員会編 1988『日本地名大辞典』10 群馬県 角川書店  
中之条町歴史民俗資料館 2003『常設展示解説図録』(県町村史誌)  
群馬県 1938『上毛古墳総覧』群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告第5号  
長野原町誌編纂委員会編 1976『長野原町誌』上  
群馬県史編さん委員会編 1990『群馬県史』通史編 1  
1981『群馬県史』資料編 3



第4図 周辺通跡(国土地理院5万分の1地形図「草津」使用)

## 第2章 遺跡の環境

表2 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	主な時代	概 要	備 考	報告書等
1	尾坂遺跡	長野県町長野原	縄文・弥生・平安 中世・近世	天明三年記流下の畑・建物。中世の孤立柱建物。縄文時代の住居、土坑。弥生時代の再葬墓。土坑。平安時代の住居、土坑等。	平6・7・11・18・19・20・21・23・25・26・28・29年度事業団調査。平23・28に長野原市津川総合整備に伴う調査として一部調査。	②・③・④
2	小林家屋敷跡	長野県町長野原	近世	天明三年記流下の屋根。礎石建物2。土蔵1。石垣等。分置る小林仙左衛門屋敷の一部。	平14年度町教委調査	④
3	日新井村跡	長野県町高原	近世	昭和55年、自衛隊による町民グラウンド造成中に記流で埋没した屋敷が発見された。日付供養箱、石臼、農具などが出土。	「長野県誌」上巻	④
4	向原遺跡	長野県町長野原	縄文・弥生・平安	縄文時代中期後半～後期の住居3棟・敷石住居1棟・土坑等。弥生時代中期の土坑。平安時代の住居10棟を抽出。	平5年度町教委調査	④
5	町遺跡	長野県町長野原	近世	天明三年記流下の畑。	平23～25年度事業団調査	④
6	長野原城跡	長野県町長野原	中世	土塁や堀切、物見台などが残る。長野原合戦の舞台となる。	平23年度事業団調査	④
7	船木1遺跡	長野県町長野原	近世	天明三年記流下の畑。中・近世の陶磁器片。	平16年度町教委調査	④
8	久々戸遺跡	長野県町長野原	近世	天明三年記流下の畑。建物。縄文時代晩期の土器片。	平7・9・10・11・15・26～28年度事業団調査	③・④・⑤・⑥
9	西久保内遺跡	長野県町横壁	縄文・近世	天明三年記流下の畑。縄文時代の土坑等。	平21・23年度事業団調査	④
10	西久保V遺跡	長野県町横壁	縄文・古墳・中世・近世	縄文時代中期～後期から古墳時代前期の遺物抽出。天明三年記流下の水田。	平28・29年度事業団調査	④
11	中權日遺跡	長野県町林	平安・中世・近世	天明三年記流下の畑。および安永九年と考えられる埋没埋蔵。	平11・13・15・28・29年度事業団調査	③・④・⑤
12	横壁中村遺跡	長野県町横壁	縄文・弥生・平安 中世	縄文時代中期後半から後期後半を中心とする集落跡。縄文時代晩期、弥生時代の土器片。平安・中世の遺構・遺物。	平8～17年度事業団調査	③・④・⑤・⑥・⑧・⑨・⑩・⑪・⑫・⑬・⑭・⑮・⑯・⑰・⑱・⑲・⑳・㉑・㉒
13	下原遺跡	長野県町林	古墳・近世	天明三年記流下の畑。中世の畑。古墳時代の住居。平安時代の土器片等。	平12・15・16・29年度事業団調査	③・④
14	下田遺跡	長野県町林	平安・近世	天明三年記流下の畑。江戸・中世の建物。平安時代の住居。陥し穴。縄文時代の孤立柱建物。	平25・26・28・29年度事業団調査	②・⑤
15	川原崎川原遺跡	長野県町川原崎	縄文・平安・近世	縄文時代晩期の埋没土器。古墳時代の遺物。平安時代の住居。天明三年記流下の畑。	平15・16・28年度事業団調査	②・③・④・⑤・⑥・⑧・⑨・⑩・⑪・⑫・⑬・⑭・⑮・⑯・⑰・⑱・⑲・⑳・㉑・㉒
16	石川原遺跡	長野県町川原崎	縄文・平安・近世	天明三年記流下の畑。縄文時代中期の住居、列石、穴倉。平安時代の住居。陥し穴。近世の畑。	平20・25～29年度事業団調査	④・⑤・⑥
17	川原崎中原遺跡	長野県町川原崎	縄文・平安・近世	縄文時代の穴状住居。縄文時代と平安時代から近世にかけての土坑。	平28年度事業団調査	④
18	西宮遺跡	長野県町川原崎	平安・近世	天明三年記流下の建物復元。酒蔵。道。石垣。井戸。畑等。	平20・26～29年度事業団調査	④・⑤
19	東宮遺跡	長野県町川原崎	近世	天明三年記流下の畑。大型の建物良好な状態で抽出。土台。大床。瓦板等多くの建築材が残る。また、下駄や付録。石臼等の当時の道具も多く出土。	平7・9・19～21・26～29年度事業団調査	②・④・⑤・⑥・⑧・⑨・⑩・⑪・⑫・⑬・⑭・⑮・⑯・⑰・⑱・⑲・⑳・㉑・㉒
20	三ツツ堂遺跡	長野県町川原崎	江戸	江戸時代中期以前の集落跡。	平28年度事業団調査	④
21	西ノ上遺跡	長野県町川原崎	近世	天明三年記流下の畑。平安時代の陥し穴。弥生時代の土坑等。	平14・27・29年度事業団調査	④・⑤
22	下高田遺跡	長野県町川原崎	縄文・弥生・平安 中世・近世	縄文時代中期の土坑。平安時代の住居。天明三年記流下の畑。	平14・27年度事業団調査	④・⑤
23	石畑遺跡	長野県町川原崎	縄文	天明三年記流下の畑。	平9・10・29年度事業団調査	②
24	上郷高田遺跡	町直妻町	平安・近世	弥生時代前期の土坑。平安時代の住居。	平19年度事業団調査	④
25	上郷高田遺跡	町直妻町	縄文・近世	天明三年記流下の畑。水田。礎石建物等。近世の墓石。平安時代の住居。縄文時代の住居、土坑。	平14・15・17～19年度事業団調査	④・⑤・⑥
26	長野原一本松遺跡	長野県町長野原	縄文・平安	縄文時代中期～後期にかけての集落跡。大型の孤立柱建物。敷石住居などを抽出。平安時代の住居。中世の孤立柱建物や多くの土坑等が抽出されている。	平6～17・19・20年度事業団調査	①・③・④・⑤・⑥・⑧・⑨・⑩
27	幸神遺跡	長野県町長野原	縄文	縄文時代中期の住居・土坑。陥し穴。	平8・9・14・17・18年度事業団調査	④
28	横沢城跡	長野県町横壁	中世	別荘一部石垣と呼ばれる特殊な構造。曲輪。堀。土居などの石坑。常滑。瀬戸。美濃。珠洲焼。さらには中国陶磁などが出土。	平5年度町教委調査	④
29	西久保1遺跡	長野県町横壁	縄文	縄文時代後期の住居。水場を抽出。中・近世の礎石建物。	平6・10・12・29年度調査	②
30	西久保日遺跡	長野県町横壁	平安	築布地。		
31	西久保留遺跡	長野県町横壁	縄文	築布地。		
32	船木1遺跡	長野県町林	縄文	縄文時代の土坑。散布地。	平10・21年度事業団調査	④
33	船木日遺跡	長野県町林	縄文	縄文時代早期の集落。前期。中期の住居。平安時代の住居。	平11・13・16・17年度事業団調査	④・⑤
34	船木日遺跡	長野県町林	縄文・弥生	縄文時代前期～後期。弥生時代の宮倉跡。	平9年度事業団調査	②
35	2反沢遺跡	長野県町林	中世・近世	中世の石垣を伴う造成跡(旧大乗院跡)。近世水路地。	平12年度事業団調査	④
36	中權日遺跡	長野県町林	縄文・平安・中世・近世	縄文時代早期の遺物。平安時代の住居。	平23年度町教委。平29年度事業団調査	④
37	山廻1遺跡	長野県町横壁	縄文・平安	散布地。磨製石斧。石鏃。石棒などの石器出土。		
38	山廻日遺跡	長野県町横壁	平安・近世	平安時代の散布地。		
39	山廻留遺跡	長野県町横壁	縄文・近世	縄文時代中期後半の住居。土坑等。	平10・13・18年度事業団調査	②・③
40	山廻内遺跡	長野県町横壁	縄文・近世	縄文～平安時代散布地。		
41	横壁新川遺跡	長野県町横壁	縄文	縄文時代中期～後期の土器片。槍先形土器器出土。	平6・7年度事業団調査	②
42	林宮遺跡	長野県町林	古墳・平安	古墳時代の住居1。平安時代の住居6。土坑6。	平15・20年度町教委。平24・27年度事業団調査	町教委2004・⑧・⑨・⑩
43	上原1遺跡	長野県町林	縄文	縄文時代前期初頭の住居。中期の住居。平安時代の住居。陥し穴等。	平15年度町教委。平24年度事業団調査	④



No.	遺跡名	所在地	主な時代	概 要	備 考	報告書等
44	上原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代中期の住居。	平16年度事業団、平23年度町教委調査	88
45	上原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	平安時代の住居、竊盜遺構、陥し穴群。	平23年度町教委、平25・27年度事業団調査	88・89
46	上原IV遺跡	長野原町林	縄文・近世	縄文時代後期の敷石住居、配石遺構。	平15・21年度事業団、平20・24年度町教委調査	88・89・90
47	林中Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文・弥生・中世・近世	縄文時代前期～後期の住居、配石等。中・近世の独立柱建物。	平15・20・21年度町教委、平19～21年度事業団調査	88・89・90
48	林中Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文・弥生・中世・近世	縄文時代後期の集落跡。敷石住居、陶甕の土器片。弥生時代中期の住居、土坑。中・近世の独立柱建物。	平15・20・21年度町教委調査	88・89・90
49	花畑遺跡	長野原町林	縄文・平安	平安時代の住居、陥し穴群。	平9～12年度事業団調査	2
50	東原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代土器片、陥し穴。	平6・9・20・21年度事業団調査	3
51	東原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代後期土器片、石器出土。	平10・20・21年度事業団調査	3
52	東原Ⅲ遺跡	長野原町林	平安・近世	縄文時代早期～後期の包含層。中・近世の独立柱建物。内土器、古銅等出土。江戸時代の礎石建物。	平20・21年度事業団調査	90
53	立馬Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代早期～晩期の住居。弥生時代中期後の土器器基。	平13・14・17年度事業団調査	11
54	立馬Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代早期～前期の土器・石器。中期初期～前半の住居9棟、中期後半の住居1棟。平安時代前後の陥し穴等。	平14・15年度事業団調査	8
55	立馬Ⅲ遺跡	長野原町林	縄文・平安	縄文時代早期の集落。前期、中期の住居。平安時代の陥し穴。	平19年度事業団調査	88
56	上ノ平Ⅰ遺跡	長野原町川原	縄文・平安	縄文時代中期の集落。平安時代の住居、陥し穴。	平18・19・28年度事業団調査	89・90・91・本報告
57	上ノ平Ⅱ遺跡	長野原町川原	縄文・平安	縄文、平安時代の敷布地。		
58	三平Ⅰ遺跡	長野原町川原	縄文・弥生・平安	縄文時代早期～前期の集落。弥生時代中期の土坑、平安時代の陥し穴。	平16・17・24・25年度事業団、平20年度町教委調査	13・88
59	三平Ⅱ遺跡	長野原町川原	縄文・平安	縄文時代早期～前期の包含層、独立柱建物等。	平16年度事業団調査	13
60	二井平遺跡	長野原町川原	近世	天明三年記述下の遺。遺	平28・29年度事業団調査	10
61	居家山岩陰遺跡	長野原町長野原	縄文・弥生・古墳・近世	縄文時代早期～晩期。	平26～29年度両学院大学考古学研究所調査	88
62	石塚山岩陰遺跡	長野原町川原	縄文・中世・近世	縄文時代前期～中世の遺物。天明三年記述下の遺。	平29年度事業団調査	89

※第4図上の●は天明記述下遺構検出遺跡

## 参考文献

- ① 長野県一本松遺跡(1) (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書 第287集 (以下 (財)群馬文2集) 2002
- ② 八ヶ岳多文化圏調査成果(1) 新宮・石塚・川原湯遺跡・横塚遺跡・西久保1・山田遺・下田・花畑・橋本遺・尻尾 (財)群馬文203集 2003
- ③ 久々戸遺跡・中樞Ⅱ遺跡・下原・横塚中村遺跡 (財)群馬文139集 2003
- ④ 久々戸遺跡(2)・中樞Ⅱ遺跡(2)・西ノ上・土郷A遺跡 (財)群馬文149集 2004
- ⑤ 横塚中村遺跡(2) (財)群馬文355集 2005
- ⑥ 川原湯湯沼遺跡(2) (財)群馬文356集 2005
- ⑦ 横塚中村遺跡(3) (財)群馬文368集 2006
- ⑧ 立馬Ⅰ遺跡 (財)群馬文375集 2006
- ⑨ 土郷Ⅰ遺跡・廣石A遺跡・二反沢遺跡 (財)群馬文379集 2006
- ⑩ 横塚中村遺跡(4) (財)群馬文381集 2006
- ⑪ 立馬Ⅰ遺跡 (財)群馬文388集 2006
- ⑫ 下原遺跡 (財)群馬文389集 2007
- ⑬ 三平Ⅰ・Ⅱ遺跡 (財)群馬文401集 2007
- ⑭ 横塚中村遺跡(5) (財)群馬文406集 2007
- ⑮ 長野県一本松遺跡(2) (財)群馬文408集 2007
- ⑯ 上郷阿原遺跡(1) (財)群馬文410集 2007
- ⑰ 山田遺跡(2)・土原IV遺跡・幸神遺跡 (財)群馬文429集 2008
- ⑱ 橋本Ⅱ遺跡(1) (財)群馬文432集 2008
- ⑲ 長野県一本松遺跡(3) (財)群馬文433集 2008
- ⑳ 横塚中村遺跡(6) (財)群馬文436集 2008
- ㉑ 上郷阿原遺跡(2) (財)群馬文438集 2008
- ㉒ 横塚中村遺跡(7) (財)群馬文439集 2008
- ㉓ 上ノ平Ⅰ遺跡(1) (財)群馬文440集 2008
- ㉔ 長野県一本松遺跡(4) (財)群馬文441集 2008
- ㉕ 上郷西遺跡 (財)群馬文448集 2008
- ㉖ 立馬Ⅱ遺跡 (財)群馬文457集 2009
- ㉗ 橋本Ⅱ遺跡(2) (財)群馬文438集 2009
- ㉘ 長野県一本松遺跡(5) (財)群馬文461集 2009
- ㉙ 横塚中村遺跡(8) (財)群馬文462集 2009
- ㉚ 横塚中村遺跡(9) (財)群馬文466集 2009
- ㉛ 上郷阿原遺跡(3) (財)群馬文471集 2009
- ㉜ 土郷A遺跡(2) (財)群馬文473集 2009
- ㉝ 横塚中村遺跡(10) (財)群馬文488集 2010
- ㉞ 横塚中村遺跡(11) (財)群馬文492集 2010
- ㉟ 東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡 (財)群馬文502集 2010
- ㊱ 東宮遺跡(1) (財)群馬文514集 2011
- ㊲ 横塚遺跡(12) (財)群馬文536集 2012
- ㊳ 東宮遺跡(2) (財)群馬文536集 2012
- ㊴ 橋本Ⅰ遺跡・上原IV(2)遺跡・西久保IV遺跡 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書 第549集(以下 (公財)群馬文2集) 2012
- ㊵ 長野県一本松遺跡(6) (公財)群馬文554集 2013
- ㊶ 横塚中村遺跡(13) (公財)群馬文559集 2013
- ㊷ 長野県一本松遺跡(7) (公財)群馬文578集 2014
- ㊸ 長野原城跡・林中Ⅰ遺跡 (公財)群馬文586集 2014
- ㊹ 横塚中村遺跡(14) (公財)群馬文587集 2014
- ㊺ 町遺跡 (公財)群馬文593集 2014
- ㊻ 上原Ⅰ遺跡・上原Ⅱ遺跡・林宮原遺跡 (公財)群馬文604集 2016
- ㊼ 尾坂遺跡 社会資本整備総合交付金事業 長野県早稲川郡吉敷町に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (公財)群馬文546集 2012
- ㊽ 林中Ⅱ遺跡(2) (公財)群馬文617集 2016
- ㊾ 上ノ平Ⅰ遺跡(2) (公財)群馬文623集 2017
- ㊿ 年報25 (公財)群馬文 2016
- ① 年報26 (公財)群馬文 2017
- ② 日新井村跡 長野県埋蔵文化財調査報告書(以下 長野60第2集) 長野県埋蔵文化財調査センター調査報告書(以下 町教委) 1990
- ③ 向原遺跡 長野第5集 向原遺跡 町教委 1996
- ④ 小林家原遺跡 長野第12集 小林家原遺跡 町教委 2005
- ⑤ 嶋本Ⅰ遺跡 長野第15集 町内内線V 町教委 2005
- ⑥ 林中Ⅰ遺跡 長野第20集 町教委 2010
- ⑦ 林中Ⅱ遺跡 長野第21集 町内内線X 町教委 2011
- ⑧ 林宮原遺跡 長野第23集 町教委 2011
- ⑨ 三平Ⅰ遺跡 長野第26集 町教委 2013
- ⑩ 上原Ⅱ遺跡 長野第30集 林地区遺跡群 町教委 2017
- ⑪ 上原Ⅲ遺跡 長野第30集 林地区遺跡群 町教委 2017
- ⑫ 上原IV遺跡 長野第30集 林地区遺跡群 町教委 2017
- ⑬ 中樞Ⅰ遺跡 長野第30集 林地区遺跡群 町教委 2017
- ⑭ 林中Ⅰ遺跡X 長野第30集 林地区遺跡群 町教委 2017
- ⑮ 林中Ⅱ遺跡X 長野第30集 林地区遺跡群 町教委 2017
- ⑯ 長野原町「長野原町法」上巻 1976
- ⑰ 長野原町「長野原町の自然」1988
- ⑱ 居家山岩陰遺跡 國學院大学文学部考古学実習報告書53集 2014

## 第4節 基本土層

上ノ平1遺跡は吾妻川左岸に最上位段丘面に立地する。発掘調査で確認された基本土層は、浅間草津黄色軽石(As-YPk)、黄褐色ローム、ローム漸移層、黒色土層等である。基本的には長野原町の吾妻川左岸に位置する遺跡と同様であるが、同地区内、遺跡内でも場所によって若干の違いがある。特に、傾斜地特有の崩落堆積層が部分的に認められ、尾根状部分と谷地部分では地形の変化に応じて、堆積状況が大きく異なる。

## 上ノ平1遺跡の基本土層

- 1層 現表土 耕作土。層厚10～20cm。浅間A軽石(As-A)を含む。現代から近世にかけての堆積土。(1区1層・2区1・2層と同じ)
- II層 暗褐色土 細粒の黄色軽石をまばらに含む。平安時代から近世までの堆積土。浅間C軽石(As-C)・D軽石(As-D)。
- III層 黒褐色土 比較的粗粒の黄色軽石を多く含む。縄文時代中期。浅間六合軽石(As-Kn)。上面が平安

時代の確認面。

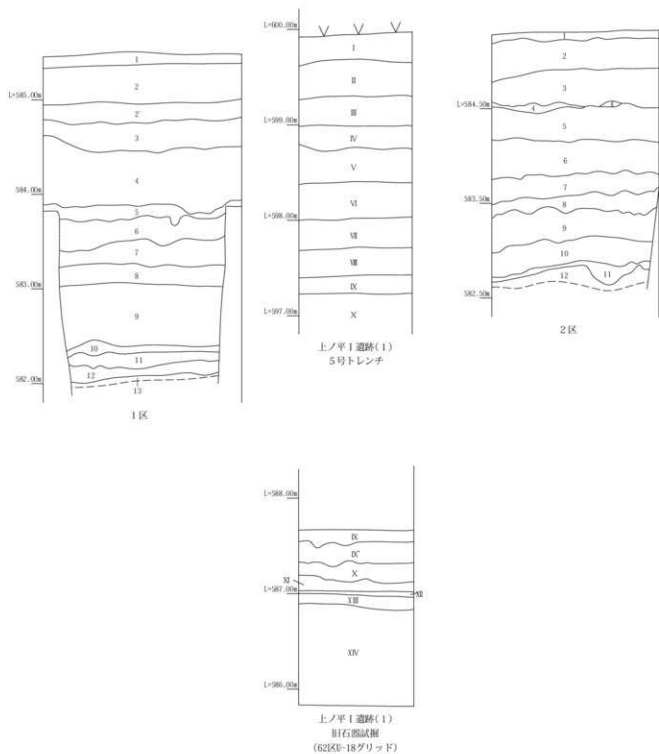
- IV層 暗褐色土～黒褐色土 黄色軽石を多く含む。色調が特に暗い。主に縄文時代前期から中期。
- V層 にぶい黄褐色土 暗褐色土にローム土を含む。
- VI層 縄文時代の堆積土。
- VII層 縄文時代に発生したと思われる斜面崩落による堆積土。
- VIII層 明るい色調で浅間草津黄色軽石(As-YPk)粒を多く含む。
- IX層 黄褐色土 ローム漸移層。縄文時代早期。浅間総社軽石(As-Sj)。(1区5層・2区8層と同じ)
- X層 黄褐色ローム。ソフト化。
- XI層 ローム土ににぶい黄褐色土をブロック状に含む。
- XII層 浅間草津黄色軽石(As-YPk)に伴う火山灰層。部分的に硬化。
- XIII層 黄褐色ローム。
- XIV層 浅間草津黄色軽石(As-YPk)純層(1区13層・2区12層と同じ)

## 1区基本土層

1. 現表土・盛土
2. 黒褐色土(10YR3/1) 礫1.0cm大多量。暗褐色土を含む。崩落土か、締り弱、粘性弱。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 第2層に類似し礫0.5cm少量。暗褐色土を含む。崩落土か、締り弱、粘性弱。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 褐色土小塊を含む。As-YPk微量。締まりやや弱、粘性あり。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 灰黄褐色土小塊を含む。As-YPk微量。遺物を含む。締りあり、粘性あり。第1面遺構確認面。
5. 灰褐色土(10YR4/2) ローム漸移層。ローム粒・塊多量。As-YPkを含む。締りやや弱、粘性あり。
6. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 褐灰色粘塊状に含む。As-YPk1.0～3.0cm約30%。締りややあり、粘性なし。
7. 黄褐色土(10YR5/6) ローム層。As-YPk微量。締りあり、粘性強。
8. 黄褐色土(10YR5/6) ～にぶい黄褐色土(10YR7/3) 礫状に堆積。細粒。締り強、粘性なし。
9. 灰白色土(10YR8/2) ～にぶい黄褐色土(10YR5/4) As-YPk約0.5～1.0cm幅状に多量に堆積。締り強、粘性なし。
10. にぶい赤褐色土(2.5YR5/3) 砂質土。締りあり。粘性ややあり。
11. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 砂質土。ややザラツキあり。締り強、粘性ややあり。
12. 明黄褐色土(10YR5/6) 粘質土。下層は硬化、粘性弱。
13. As-YPk層

## 2区基本土層

1. 黒褐色土(10YR3/2) 現表土。
2. 黒褐色土(10YR2/2) 盛土。小礫を含む。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 褐色土・小礫を含む。締り弱、粘性あり。褐色土質土を含む。浅間船川テフラの可能性もある。締り弱、粘性弱。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 褐色土塊を含む。As-YPk・灰白色軽石微量。締りややあり、粘性強。
5. 黒褐色土(10YR3/1) 第5層よりAs-YPk多量。小礫多量。締りあり、粘性強。
7. 黒褐色土(10YR3/2) ローム小塊・粒多量。As-YPk微量。第6層より締りあり、粘性強。
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム漸移層。ローム小塊・粒多量。締りややあり、粘性あり。
9. 明黄褐色土(10YR6/6) ローム層。締り強、粘性なし。
10. 明黄褐色土(10YR6/6) As-YPk約1.0～3.0cm少量。灰白色砂質土を含む。明赤褐色土と礫状に堆積。締り強でザラツキあり、粘性なし。
11. 明黄褐色土(10YR6/8) 粘質土。As-YPk約1.0cm多量。締りやや弱、粘性あり。
12. As-YPk層



第5図 基本土層

## 第3章 検出された遺構と遺物

### 第1節 遺跡の概要

本遺跡の発掘調査の対象地全域は、吾妻川左岸の最上位河岸段丘面である。ここ川原畑地区では下位段丘には天明泥流を被った集落や畑等が埋没しているが、上位には応永泥流を含む関東ロー層終末期からの堆積以後の土壌が堆積している。その中には年代の層層となる軽石や火山灰も堆積しているが、大部分は厚く堆積した純層ではなく、積もった後に攪拌された状態であり、文化層の把握がやや難しい状態である。

今回の発掘調査による調査面は2面(一部3面)である。確認できた遺構は、古い順に縄文時代、平安時代、及び中近世に属するものである。種類としては居住機能としての竪穴住居跡が中心である。遺物は縄文時代、弥生時代、平安時代、及び中近世のものである。今回の調査面積は単面で4,350㎡であるが、部分的に複数の文化面を有する地域もあるので、それに対応して数値が増す事となる。

次に、先に刊行した『上ノ平1遺跡(1)』、及び『上ノ平1遺跡(2)』に収録したのと同様に、平成28年度調査部分を報告することとし、縄文時代、平安時代と中近世に関する事で、特徴的な遺構と遺物については後で記述する。

本章では時期の古い順にそれぞれ遺構の種類別に項目を設定し、個々の遺構について説明を加えた。そのため、遺構に付けられた番号順になっていない場合もある。次に、各時代毎の遺構・遺物にその特徴を見ていく事とする。

調査の順番としては最後になるが、まずは旧石器時代について試掘トレンチを設定し確認調査をした。As-Ypk(浅間草津黄色軽石)を確認したものの、遺構や遺物は検出されなかった。

次に、縄文時代は基本土層のⅢ層からⅣ層にかけて、遺構として竪穴住居、土坑が検出されている。竪穴住居は前回の報告分に引き続き33・35号と51・56・57号の合計5棟の竪穴住居が出土し、土坑は縄文土器が出土した409号土坑の1基だけが、新規の縄文として認知された。遺物としては、早期初頭の撫糸文、前期前半の黒浜式、後半の諸磯式、中期前半の五領ヶ台式、勝坂式、阿玉台

式、後半の加曾利E式、さらには後期の加曾利B式などの土器や、打製石鏃、打製石斧、スタンプ形石器等の石器が出土している。

弥生時代は、遺構は確認されていないものの、中期前半の土器が少量出土している。

古墳時代は、遺構も遺物も確認されなかった。

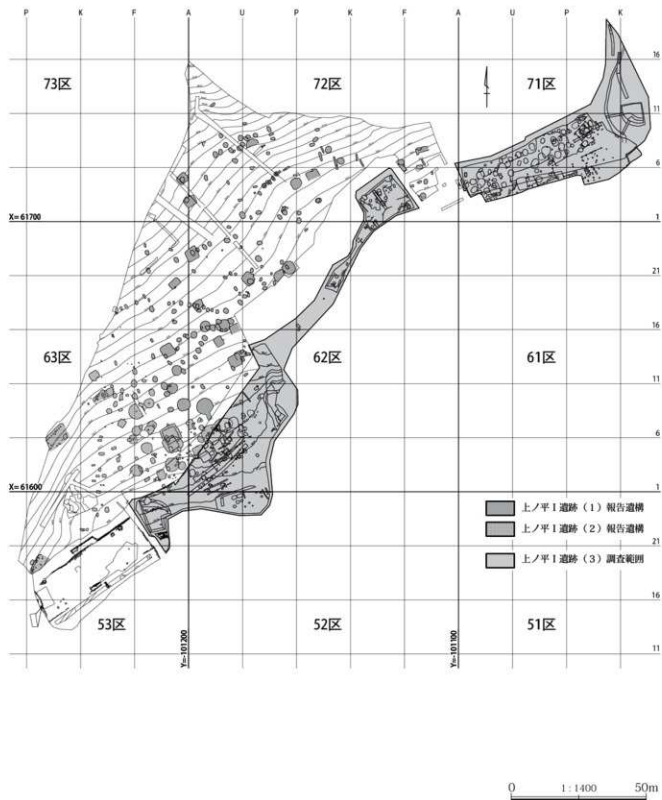
平安時代では、南側への傾斜する地形のために住居の南壁の残りが悪いものの、基本土層のⅡ層からⅢ層にかけて、何棟もの竪穴住居などが検出されているが、今回は5棟を報告する。

また、浅間Bテフラと呼ばれる1108(天仁元)年の浅間山給源の軽石や火山灰は明確ではないものの、基本土層のⅢ層の中に混じり込んでいる。さらに、浅間一泊川軽石と呼ばれる1128(大治3)年に降り積もった火山灰が、埋没途中の陥し穴の堆積層中で検出されている事から、少なくとも平安時代の陥し穴が存在したと考えられる。

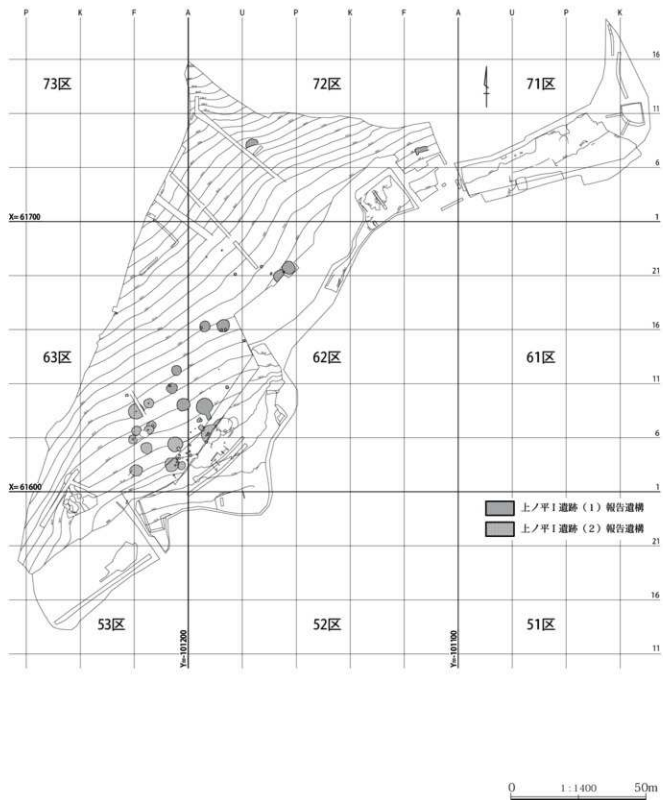
中世以降から近世にかけては、基本土層のⅡ層からⅢ層を掘り込んだ溝が5条検出され、さらに、傾斜地を3段ほどの雛壇状に造成して、そこに掘立柱建物や礎石建物、柵等を築造されていた。この他に多数の土坑、ピットなどが検出されているが、あるいはこの中に掘立柱建物群に関連するものも存在するのかも知れない。また、石垣を備えたテラスの上に残された焼土と集石等が検出されている。

出土遺物は古いものでは僅かであるが中国からの貿易陶磁である白磁があり、他に播鉢や碗などの陶磁器や内耳などの軟質陶器などの破片がいくつも出土しており、その大部分は16世紀以降のものである。

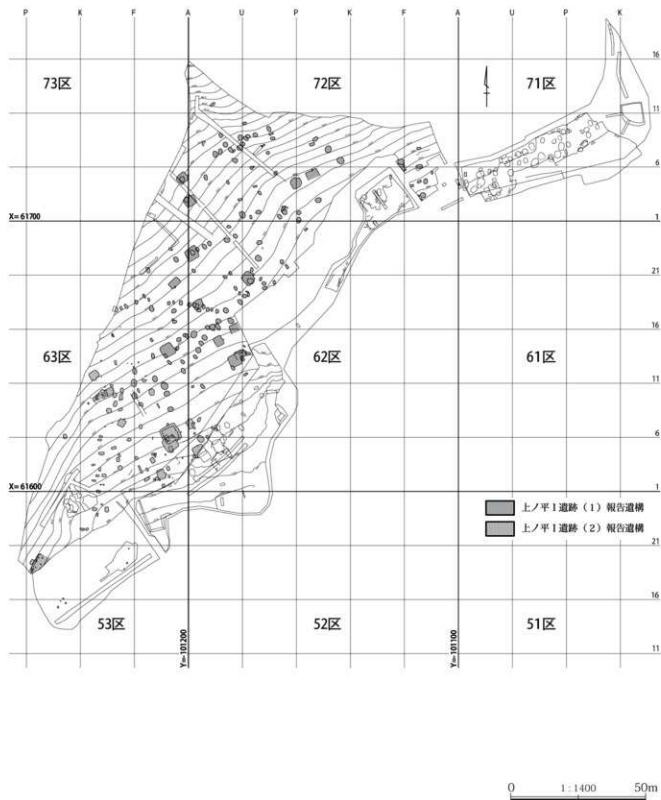
さらに新しい時期の遺構としては、段丘面の扇状地形を利用して、現在の崖部分でAs-Ypk(浅間草津黄色軽石)を露出させて、その部分を石組みした湧水遺構と、そこから吾妻川に向かって南に流れ下る谷地が2か所存在する。



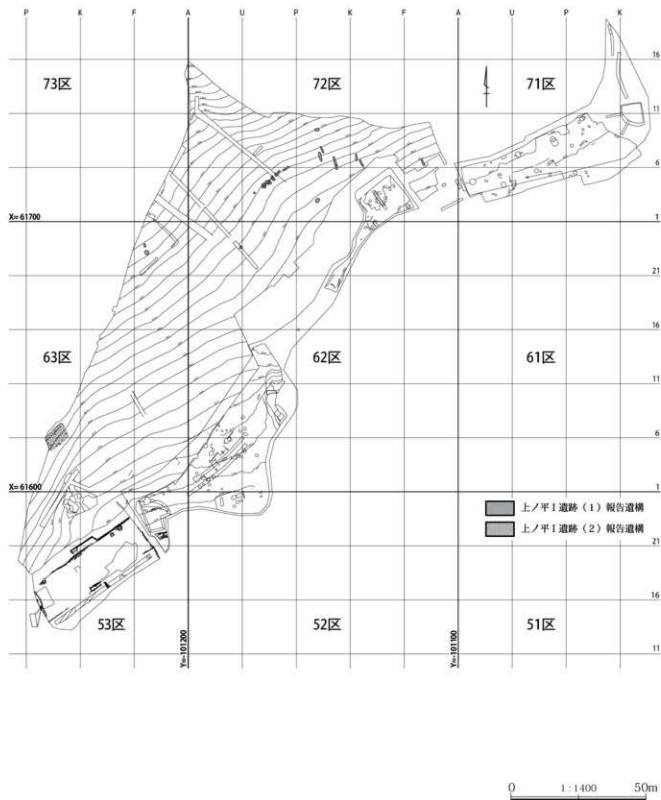
第6図 上ノ平I遺跡全体図



第7図 上ノ平I遺跡縄文時代遺構分布図



第8図 上ノ平1遺跡平安時代遺構分布図



第9図 上ノ平I遺跡中近世以降遺構分布図

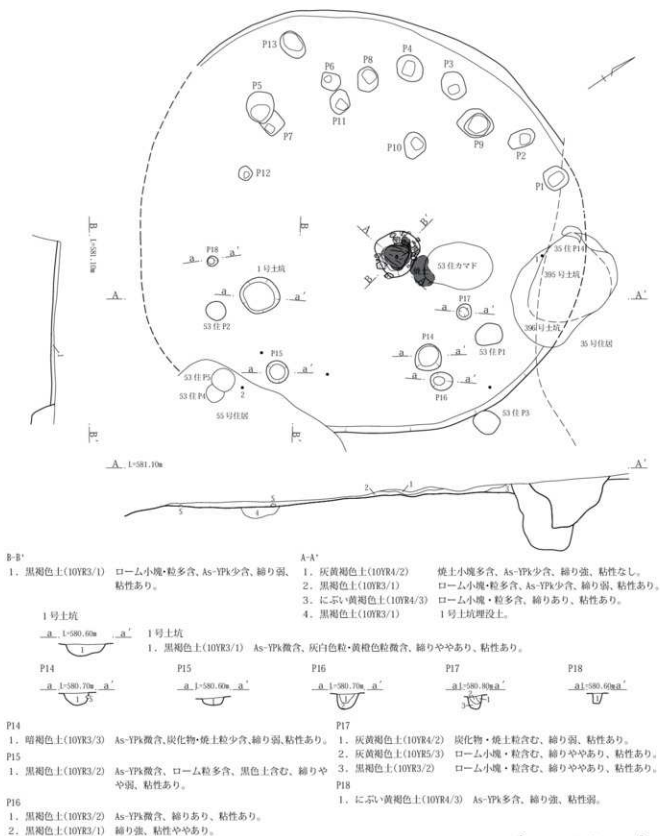


## 第2節 縄文時代

## (1) 遺構

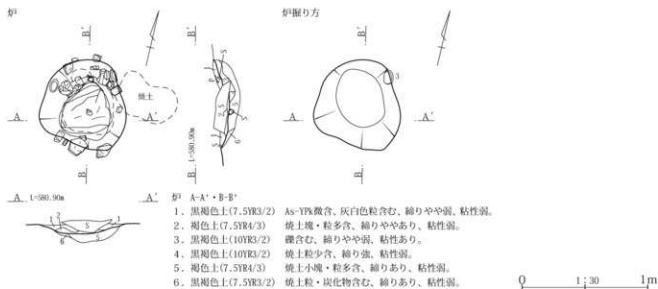
この時期は、文化層の第3面に相当する。確認面・遺

構検出面は主に第Ⅲ層から第Ⅴ層上面にかけてであり、主に基本土層の第Ⅲ層が縄文時代中期以後、Ⅳ層が縄文時代前期の包含層である。検出された遺構は主に竪穴住

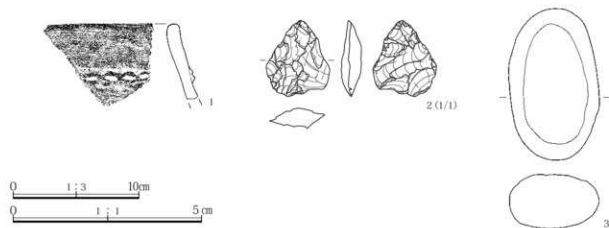


第10図 33号住居(1)

### 第3章 検出された遺構と遺物



第11図 33号住居(2)



第12図 33号住居出土遺物

居であり、縄文時代中期後半から後期前半にかけての5軒、それに縄文時代後期前半の土器が埋納されていた409号土坑が確認されているが、明確なピット・集石・焼土などの遺構は確認されていない。

#### 1 竪穴住居

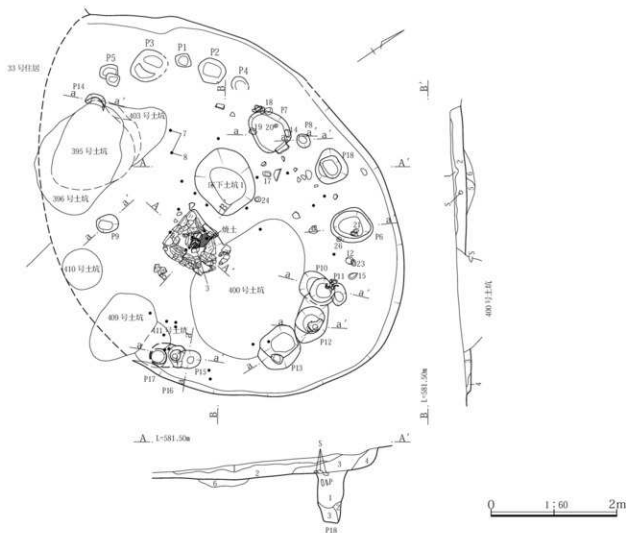
33号竪穴住居(第10～12図、P.L. 3・4・64)

62区W・X-5～7グリッドに位置する。「上ノ平1遺跡(2)」(以後、前回の報告)で報告した部分以外の南東側の半分の調査である。また、北側に存在する35号竪穴住居に北壁付近を壊されている。形状は以前円形で確認されているが、床に敷かれた大小の石の存在から柄鏡形の敷石住居の可能性が高い。規模については、前回の

報告は主体部の推定径を7.6mとしたが、今回の調査で長軸7.40m、短軸6.70m、深さ0.37mと規模が小さく計測され、炉も中央よりやや北東寄りに位置する。重複関係では、縄文時代後期前半の35号竪穴住居、平安時代後期の55号竪穴住居、平安時代の396号土坑、中近世の395号土坑よりも古い。壁は前回の調査で北寄りの部分が35号竪穴住居に壊されているのが分かったが、今回の調査で南東寄りの部分が55号竪穴住居に壊されているのが判明した。壁の高さが前回は北側部分で25～30cmとしたが、今回は6cmと浅く、北から南への緩やかな傾斜による遺構検出面の状況によるもので、発掘調査時の遺構確認面が前回の調査より低かったのが原因である。床面は多少の凹凸を有しながらもほぼ平坦な面をなしていた。

埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心として、一部でⅤ層も含まれる。南壁の一部では床そのものが確認出来なかった。主軸方位はN-35°-Eである。P<sup>2</sup>の位置は中央部からやや東側に、北壁と南壁の一部に石を並べた状態で検出された。ピットは前回の調査でピット1～13を検出しているが、今回の調査ではピット14～18の5基を検出し、総数で18基である。このうち、形状や埋没土の様子から、ピットの10基を柱穴と推定した。いず

れも壁際に位置している。床では前回の調査で小さな礫が敷き詰められた床下土坑を1基確認したが、今回は正方形の深さ約20cmの1基を検出した。出土遺物は、前回報告した縄文土器後期初頭と同一の破片や、縄文土器の磨石などが出土した。時期は縄文時代後期前半の35号竪穴住居より古いことや、出土遺物の土器から縄文時代後期初頭と推定される。



A-A'・B-B'

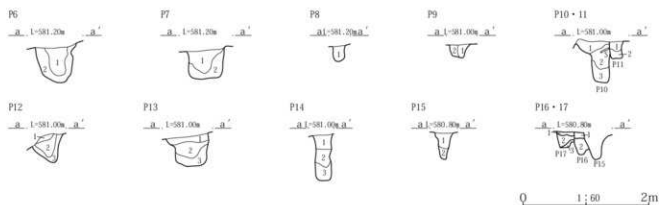
- |                     |                                       |
|---------------------|---------------------------------------|
| 1. 暗褐色土(10YR3/3)    | As-YpK少含、黄褐色粒多含、締りややあり、粘性あり。          |
| 2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) | As-YpK多含、ローム粒多含、締りやや弱、粘性あり。           |
| 3. 暗褐色土(10YR3/3)    | As-YpK約1.0cm多含、黄褐色粒・ローム小塊少含、締り弱、粘性あり。 |
| 4. にぶい黄褐色土(10YR5/3) | ローム塊含む、As-YpK少含、締りあり、粘性あり。            |
| 5. 灰黄褐色土(10YR4/3)   | As-YpK多含、ローム小塊多含、締りあり、粘性弱。            |
| 6. 灰黄褐色土(10YR4/3)   | As-YpK微含、ローム小塊少含、締りあり、粘性弱。            |

P18

- |                     |                                   |
|---------------------|-----------------------------------|
| 1. 灰黄褐色土(10YR4/3)   | 土層に礫含む、灰白色粒均質、ローム小塊・粒少含、締りあり、粘性弱。 |
| 2. 灰黄褐色土(10YR4/3)   | 1層に類似、灰白色粒微含、ローム小塊含む、締り弱、粘性弱。     |
| 3. にぶい黄褐色土(10YR4/2) | ローム小～大塊少含、灰白色粒微含、締り弱、粘性ややあり。      |

第13図 35号住居(1)

### 第3章 検出された遺構と遺物



- |  |   |  |   |   |  |  |   |  |  |   |   |
|--|---|--|---|---|--|--|---|--|--|---|---|
| <p><b>P6</b></p> <p>1. にぶい黄褐色土(10YR4/3)</p> <p>2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)</p> | <p><b>P7</b></p> <p>1. 黒褐色土(10YR3/2)</p> <p>2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)</p> | <p><b>P8</b></p> <p>1. 黒褐色土(10YR3/2)</p> <p>2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)</p> <p>3. にぶい黄褐色土(10YR4/3)</p> | <p><b>P9</b></p> <p>1. 黒褐色土(10YR3/2)</p> <p>2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)</p> | <p><b>P10</b></p> <p>1. 黒褐色土(10YR3/2)</p> <p>2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)</p> <p>3. にぶい黄褐色土(10YR4/3)</p> | <p><b>P11</b></p> <p>1. 黒褐色土(10YR3/2)</p> <p>2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)</p> | <p><b>P12</b></p> <p>1. 灰黄褐色土(10YR4/2)</p> <p>2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)</p> <p>3. にぶい黄褐色土(10YR5/3)</p> | <p><b>P13</b></p> <p>1. 黒褐色土(10YR3/2)</p> <p>2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)</p> <p>3. にぶい黄褐色土(10YR4/3)</p> | <p><b>P14</b></p> <p>1. 灰黄褐色土(10YR4/3)</p> <p>2. にぶい黄褐色土(10YR4/2)</p> <p>3. にぶい黄褐色土(10YR5/4)</p> | <p><b>P15</b></p> <p>1. 暗褐色土(10YR3/3)</p> <p>2. 明黄褐色土(10YR6/5)</p> | <p><b>P16</b></p> <p>1. にぶい黄褐色土(10YR4/3)</p> <p>2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)</p> | <p><b>P17</b></p> <p>1. 灰黄褐色土(10YR4/2)</p> <p>2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)</p> <p>3. 黄褐色土(10YR5/6)</p> |
|--|---|--|---|---|--|--|---|--|--|---|---|

### 第14図 35号住居(2)

35号竪穴住居(第13～18図、P.L. 4～6・64・65)

62区U-7、V・W-6・7グリッドに位置する。重複関係は33号竪穴住居と400・409・410号土坑とである。新旧関係で33号竪穴住居が古く、400・409・410号土坑が新しいと判断される。

住居の規模は平面の確認状況時でははっきりとしなかったが、掘り方でやっと確認できた。東側を33号竪穴住居と重複しているために、楕円形に近い形と推定されるが、規模は長軸(5.70)m、短軸(5.40)m、深さ0.51mである。遺構確認面からの深さは約50cm前後と深く、壁は緩やかに立ち上がる。床面は多少の凹凸を有しながらもほぼ平坦な面をなしていた。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。主軸方位はN-90°-E

である。炉は石囲い炉で、構築材として石を何個も用いられており、残存状態は良い。扁平な大小の礫が長軸約1.0m、短軸約0.8mのやや四角形で、外開き気味にやや傾斜する形で並んでいる。石にはやや焼けた痕跡や煤の付着が認められた。炉は住居の中央部からやや南側に位置し、炉の掘り込みの四方に石が並ぶ石囲い炉である。ピットは18基検出されたが、そのうちのピット10・14・18が埋没土の様子や深さ、形状から柱穴と推定される。さらに、床下土坑が1基確認された。周溝は確認出来なかった。出土遺物は縄文時代後期前半に比定される土器や石器などが出土している。

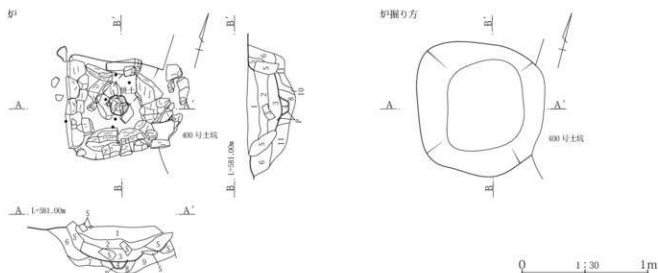
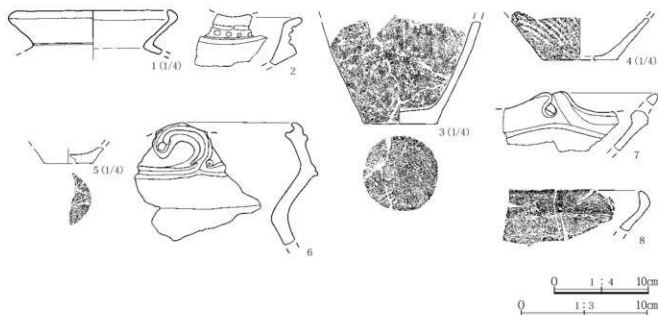


図3 A-A'・B-B'

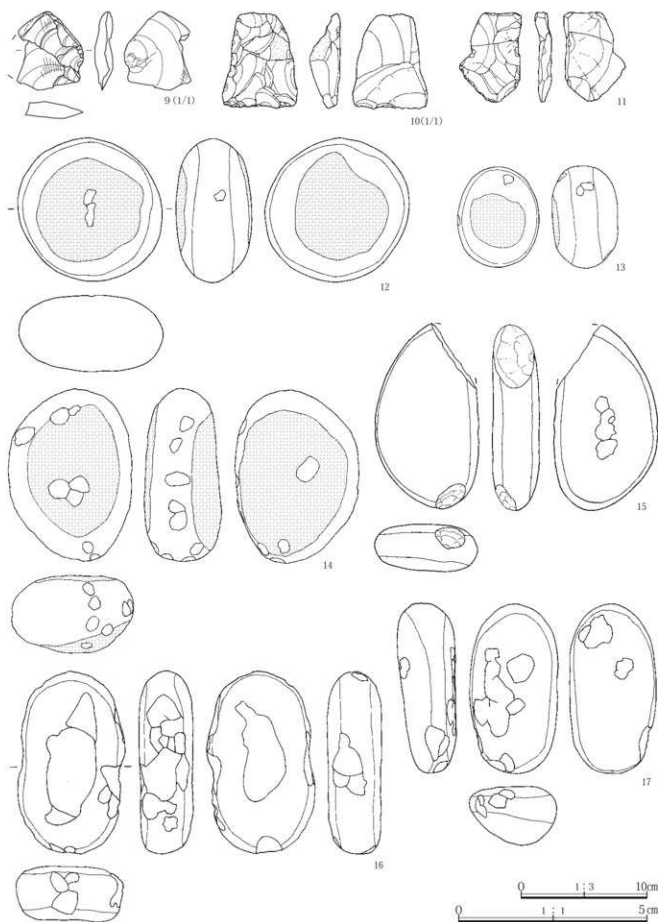
1. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒少含、炭化物微含、締り弱、粘性あり。
2. 暗褐色土(10YR3/2) As-YPK・黄褐色粒少含、炭化物・焼土粒少含、灰白色粒含む、締りややあり、粘性あり。
3. 褐色土(10YR4/4) 焼土粒多含、締りあり、粘性あり。
4. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 8層に類似、色味やや明るい、As-YPK微含、締りややあり、粘性ややあり。
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム小塊含む、締りあり、粘性弱。
6. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 焼土約1.0m塊・ローム粒含む、締りあり、粘性あり。
7. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 焼土約2.0～3.0m塊多含、ローム粒含む、締りややあり、粘性あり。
8. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒含む、ローム粒微含、締りあり、粘性あり。
9. 暗褐色土(10YR3/3) As-YPK0.5cm少含、締りややあり、粘性あり。
10. 褐色土(10YR4/4) As-YPK少含、ローム小塊含む、11層の焼土小塊微含、色味は明るい、締りあり、粘性あり。
11. 褐色土(10YR4/4) 明赤褐色焼土主体、締りあり、粘性弱。

第15図 35号住居(3)



第16図 35号住居出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物

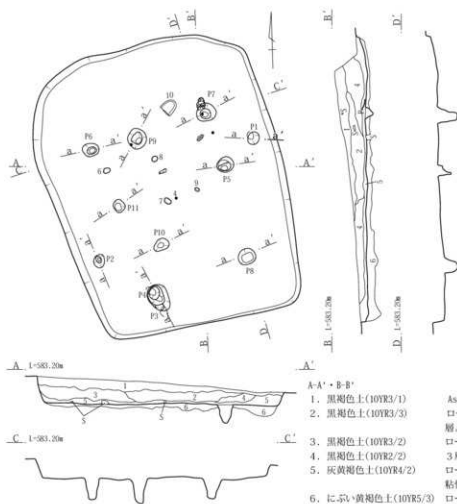


第17図 35号住居出土遺物(2)



0 1:3 10cm

第18回 35号住居出土遺物(3)



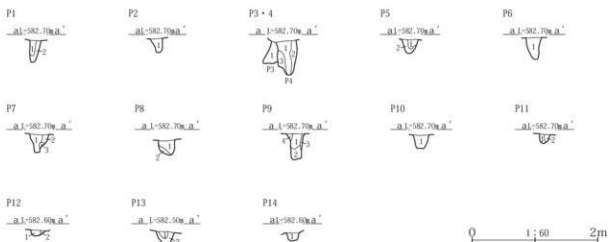
掘り方



0 1:60 2m

第19図 51号住居(1)





- P1  
 1. 黒褐色土(10YR3/1) 締り弱、粘性弱、柱痕小。  
 2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム小塊・粒多含、締り弱、粘性弱。
- P2  
 1. 黒褐色土(10YR4/3) ローム小塊・粒多含、As-YpK少含、締りあり、粘性あり。
- P3  
 1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒少含、締り弱、粘性弱。
- P4  
 1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム小塊少含、締り弱、粘性強。  
 2. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム小～大塊・粒多含、締り弱、粘性弱。  
 3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 締りあり、粘性強。
- P5  
 1. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒多含、締りあり、粘性あり。  
 2. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム塊主体、締りあり、粘性強。
- P6  
 1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊・粒多含、締りあり、粘性弱。
- P7  
 1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒多含、ローム小塊少含、締りややあり、粘性あり。  
 2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒含む、締りややあり、粘性あり。  
 3. 明黄褐色土(10YR6/6) ローム塊、締りあり、粘性弱。
- P8  
 1. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム大塊・粒多含、As-YpK少含、締りややあり、粘性あり。  
 2. 黄褐色土(10YR5/6) ローム塊主体、As-YpK少含、締り強、粘性弱。
- P9  
 1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム小塊・粒多含、締りあり、粘性弱。  
 2. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒多含、締りあり、粘性弱。  
 3. 灰黄褐色土(10YR4/3) ローム粒少含、締りややあり、粘性あり。  
 4. 灰黄褐色土(10YR4/3) 3層に類似、ローム粒微含、締りあり、粘性あり。
- P10  
 1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム小～大塊・粒多含、締りあり、粘性弱。
- P11  
 1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム大塊含む、締りややあり、粘性あり。  
 2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム小塊・粒少含、As-YpK微含、締りあり、粘性あり。
- P12  
 1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒多含、締りあり、粘性あり。  
 2. 黄褐色土(10YR5/6) ローム塊主体、締りあり、粘性強。
- P13  
 1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒多含、締りあり、粘性あり。  
 2. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム小塊多含、締りあり、粘性強。
- P14  
 1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・大塊多含、締りあり、粘性あり。

第20図 51号住居(2)

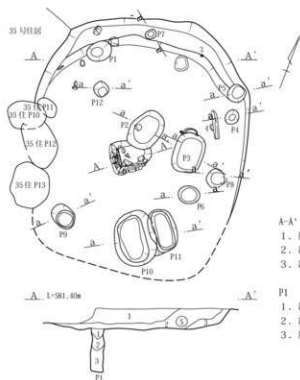
51号竪穴住居(第19～21図、P.L. 7・8・65・66)

71区S・T-3～5グリッドに位置する。重複関係は無い。規模は長軸4.54m、短軸3.70m、深さ0.35mの隅丸長方形である。遺構確認面からの深さは北壁と西壁側が深く、他の遺構と同様に北から南への緩やかな傾斜による遺構検出面の状況によるもので、北壁が約35cmとやや浅いものに対して、南壁は10cm程度とさらに浅く、壁そのものはほとんど斜めの感じで緩やかに立ち上がる。主軸方位はN-13°Wである。埋没土は基本土層の第IV層から第V層を中心としている。埴の存在がはっきりしな

い。ピットは14基検出されているが、柱穴はP4・6～8が四隅との対角線上の位置から該当する。また、床下から6か所以上の窪みが検出されているが、その形状は不定形であることから、竪穴住居の掘り方削除時のものと考えられる。周溝は南東隅から南壁のほぼ中央部にかけて痕跡が認められるが、床下土坑は無い。遺物は、縄文時代前期初頭花植下層式の土器や打製石鏃の未成品、磨石などの石器が出土している。時期は縄文時代前期初頭の可能性が高い。



第21図 51号住居出土遺物

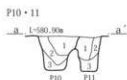


A-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-YpK少含、黄褐色粒微含、締りあり、粘性弱。  
 2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 大礫を含む、ローム小塊多含、締りあり、粘性あり。  
 3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒多含、締りあり、粘性あり。

P1

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム小塊少含、ローム粒多含、締り弱、粘性強。  
 2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒均質、色味は明るい、締り弱、粘性強。  
 3. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒均質、色味は暗い、締り弱、粘性あり。



P2~4

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒少含、As-YpKを含む、締りあり、粘性弱。  
 2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム小塊・粒を含む、As-YpK少含、締りあり、粘性あり。

P5~8

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒少含、締り弱、粘性弱。  
 2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム約1.0cm塊・粒多含、締りあり、粘性強。  
 3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム約1.0~3.0cm塊含む、締りあり、粘性あり。  
 4. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒均質、締り弱、粘性あり。

P9

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒多含、締り強、粘性弱。  
 2. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒均質、締りややあり、粘性あり。  
 3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム小塊少含、締り強、粘性強。  
 4. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 3層に類似、ローム約5.0~10.0cm塊含むローム粒均質、締り強、粘性弱。

P10

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム約3.0~5.0cm塊含む、ローム粒少含、As-YpK微含、締りあり、粘性あり。  
 2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム約1.0cm塊少含、As-YpK微含、締りややあり、粘性あり。  
 3. 黒褐色土(10YR3/1) As-YpK少含、締りあり、粘性あり。

P11

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム約1.0cm塊少含、As-YpK少含、締り強、粘性弱。  
 2. 黒褐色土(10YR3/2) 4層に類似、黄褐色粒少含、締りややあり、粘性あり。  
 3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム約1.0cm塊多含、As-YpK少含、締りあり、粘性あり。

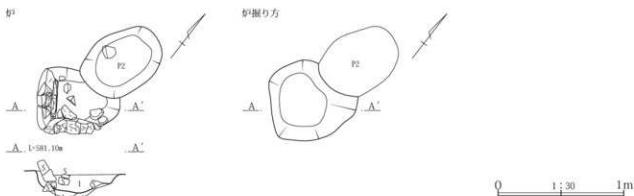
P12

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒含む、締りあり、粘性あり。

0 1:60 2m

第22図 56号住居(1)

### 第3章 検出された遺構と遺物



竪

- |                     |  |
|---------------------|--|
| 1. 暗褐色土(10YR3/3)    | ローム粒多含、ローム小塊右壁際を含む、焼土粒約0.5cm散在、礫含む、締りややあり、粘性弱。 |
| 2. 灰黄褐色土(10YR4/2)   | ローム粒含む、締りややあり、粘性あり。                            |
| 3. に近い黄褐色土(10YR5/4) | ローム小塊・粒多含、締りややあり、粘性あり。                         |

第23図 56号住居(2)



第24図 56号住居出土遺物

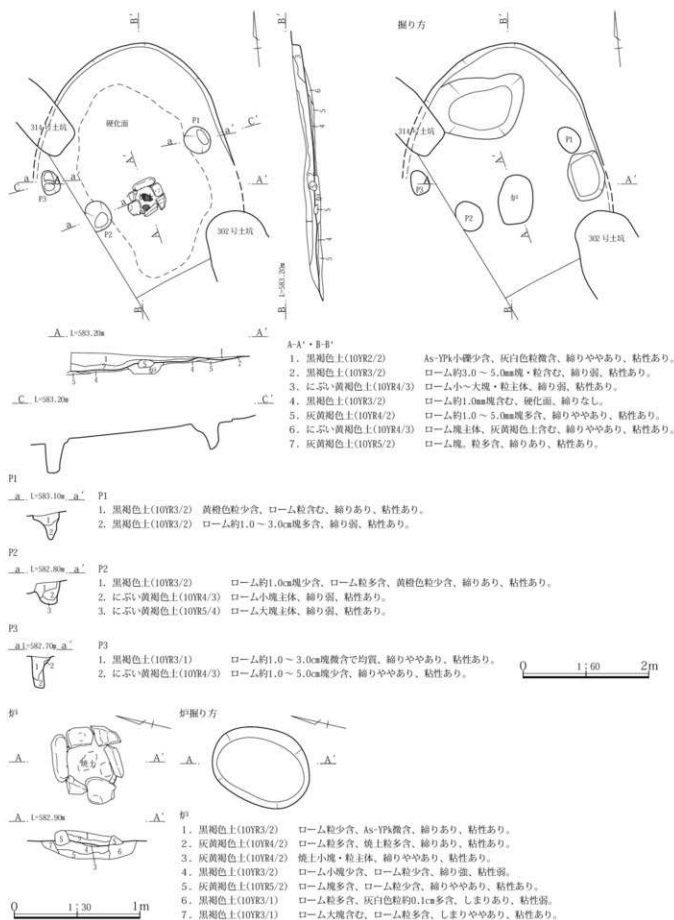
56号竪穴住居(第22～24図、P.L. 9・10・66)

62区U・V-6・7グリッドに位置する。重複関係では35号竪穴住居に西壁が壊されていることから、56号竪穴住居の方が古い。住居の規模は長軸(4.10)m、短軸(3.40)m、深さ0.33mで隅丸長方形、やや楕円形にも近い。遺構確認面からの深さはほぼ中央で約30cmと深い、南壁はほとんどはつきりしない。壁は緩やかな揺鉢状に立ち上がる。主軸方位はN-5°-Wである。埋没土は基本土層の第IV層から第V層を中心としている。竪は、掘り込みの南側から東側に石が並ぶ石囲い竪であるが、北側がP2と重なっており、壊されたかどうか分からない。南側の残存状態は良く、住居のほぼ中心に位置する。掘り方で壁に沿ってほぼ環状に浅いピットが12基も検出されているが、そのうちのP8・9が深さから柱穴と推定される。また、P2・3・10・11が形状から土坑の可

能性がある。周溝は確認できなかった。遺物は縄文時代後期初頭の称名寺I式の土器が出土していることから、縄文時代後期初頭と推定される。

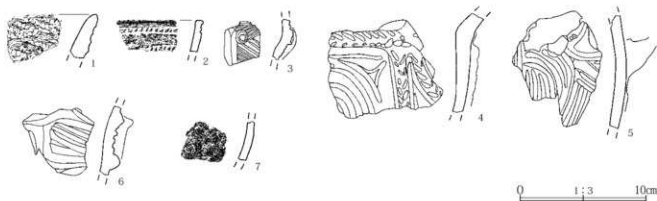
57号竪穴住居(第25～26図、P.L. 10・11・66)

71区O-8、P-8・9グリッドに位置する。重複関係は平安時代の陥し穴314号土坑に北壁、302号土坑に南壁を壊されており、新旧関係では57号竪穴住居が古い。壁は北壁だけがはつきりしており、床面の残存もおおよそ半分だけである。そのため住居の規模は長軸(4.00)m、短軸(3.30)mで楕円形と推定される。遺構確認面からの深さは約40cmと浅く、壁はほとんど斜めの感じで緩やかに立ち上がる。主軸方位はN-5°-Eである。埋没土は基本土層の第III層から第IV層を中心としている。竪はほぼ中央に確認され、掘り込みの四面すべてに大きな石が

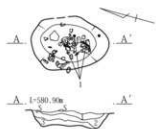


第25図 57号住居

### 第3章 検出された遺構と遺物



第26図 57号住居出土遺物



#### 409号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) As-YPk約0.5cm多含、小礫含む、上面に遺物出土あり、締りあり、粘性弱。
2. 暗褐色土(10YR3/3) As-YPk少含、締りあり、粘性弱。
3. 褐色土(10YR4/4) As-YPk多含、締り強、粘性弱。



第27図 409号土坑、出土遺物

用いられている石囲いである。ピットは3基を確認したが、柱穴と考えられるのはそのうちのP1・3の2基で壁に沿って検出されている。床下に2か所の窪みが検出されたが土坑とは認定されなかった。また、周溝も確認出来なかった。遺物は縄文時代前期後半から中期前半が出土しているが、おそらくは中期前半と考えられる。

#### 2 土坑

166基と検出数が多い土坑の中で、明確に縄文時代と判断されたのは1基だけである。

#### 409号土坑(第27図、P.L.11・66)

62区V-6グリッドに位置する。形状は楕円形で、規模は長軸1.22m、短軸(0.82)m、深さ0.28mである。主

軸方位は、N-15°-Wで、土坑分類は1類。411号土坑と重複し、411号土坑より古い。埋没土は基本土層の第III層から第IV層を中心としている。壁は緩やかに立ち上がり、床はしっかりしていない。1層上面に縄文時代後期前半の土器破片と小さな礫が少量出土している。

## (2) 出土遺物

本遺跡からは、遺構内及び遺構外から多数の遺物が出土している。ここでは、縄文時代に所属する土器・石器について、遺構外を中心に記述する。さらに、少量ながら弥生時代の土器も出土していることから、これらも併せて報告する。

## 1 土器

平成28年度の調査区では、縄文時代早期から晩期までの土器、および弥生時代中期前半までの土器の出土が認められた。土器の出土量は、住居が確認された前期初頭と中期中葉、および後期前半期のものが多いが、今回の調査区からは以前の調査報告でほとんど確認されていない縄文時代早期と晩期の土器も遺構外で少量ながら出土しており、本遺跡の総体を把握する上では貴重な資料が得られている。

第28図1・2は、早期前半の燃糸文系である。いずれも外面に縦位の燃糸文を施し、1では外削状の口唇部に同様の燃糸文を横位に施している。この時期の土器は中近世と判断した295号土坑からも1点(第85図1)出土しているが、これは肥厚する口唇部上面に燃糸文を施しており、前の2点より古く位置付けられる。また、109号ピット出土土器(第99図1)は外面が無文であるが、これも早期前半期の土器であろう。なお、今回の調査区では、燃糸文系土器群に供伴する特徴的な石器として知られるスタンプ形石器も2点出土が確認されており、注目しておきたい。第58図2と第65図1がそれで、いずれも棒状の円礫を半裁したタイプのもので、前者は半裁した平坦面に打痕を伴う擦り痕が、後者には側面と平坦面に同様の擦り痕が認められる。

第28図3～5、7～14、16～17は前期の土器である。5・8・9・11・12は縦位羽状構成の縄文を特徴とする前期初頭花積下層式の一群、7は口縁部をめぐる隆帯と波状沈線を施した前期初頭信州系の土器であろう。13・14・16・17は後期後半期の諸磯b式に比定される。

第28図6・15・18～22、第29図22～40、第30図41～58、第31図60・63・66・67は中期中葉の一群である。このうち、20・25・27・32・45・46・50・56は焼町土器に、31・44・63・66は加曾利E1式に、その他は榎ね勝坂式にそれぞれ比定されよう。

第31図59は後期初頭称名寺2式土器で、おそらく33号

住居出土の土器(第12図1)と同個体であろう。後期ではこの他に335号土坑(第88図1)と386号土坑(第92図)から加曾利B2式土器が出土している。

晩期の土器は、遺構外出土遺物のなかに掲載はないが、347号土坑1(第72図)、384号土坑1(第77図)、397号土坑2(第78図)、408号土坑1・2(第79図)は、いずれも晩期後半期の浮線文系土器に比定されよう。

第31図61・62・64・65・68・69、第37図143～147は弥生時代後期前半期の一群である。この時期の土器は397号土坑1(第78図)、377号土坑2(第90図)、378号土坑1(第91図)からも出土しており、注目される。

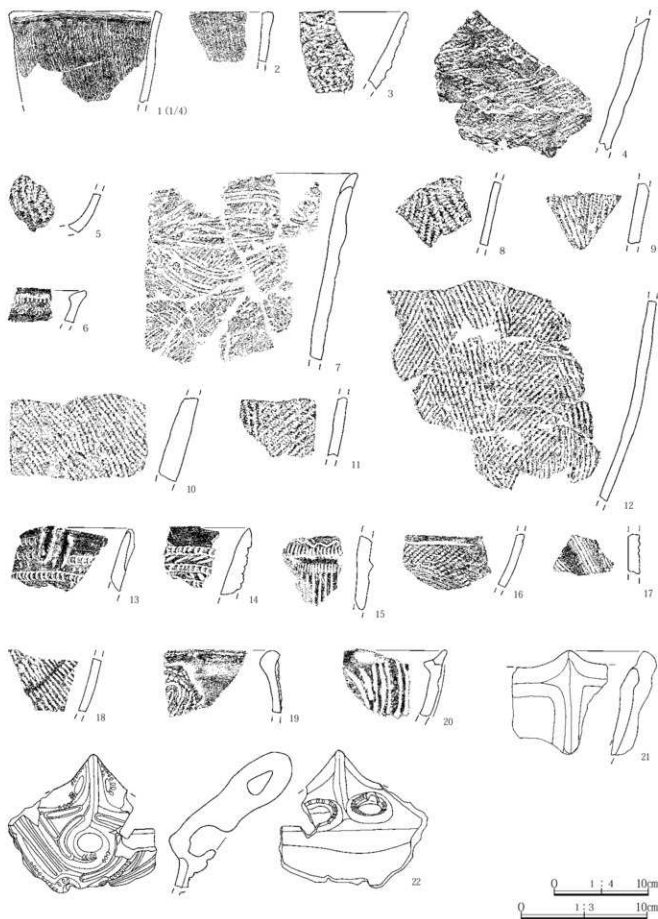
## 2 石器

本遺跡出土の石器は、打製石礫、石匙、削器、打製石斧、磨製石斧、くぼみ石、磨石、石皿、砥石等の石器・石製品が竪穴住居等の遺構や、遺構外とした遺跡内での表採の形で数多く出土している。今回はそのうちの114点について報告することとした。なお、器種分類にあたって、一部でその分類設定に悩み躊躇したものもある。

また、所属の時期について、早期前半の燃糸文と共に出土するスタンプ形石器や、後期以降の分銅形の打製石斧のような特徴的な資料は少なく、時期の判断が難しい。

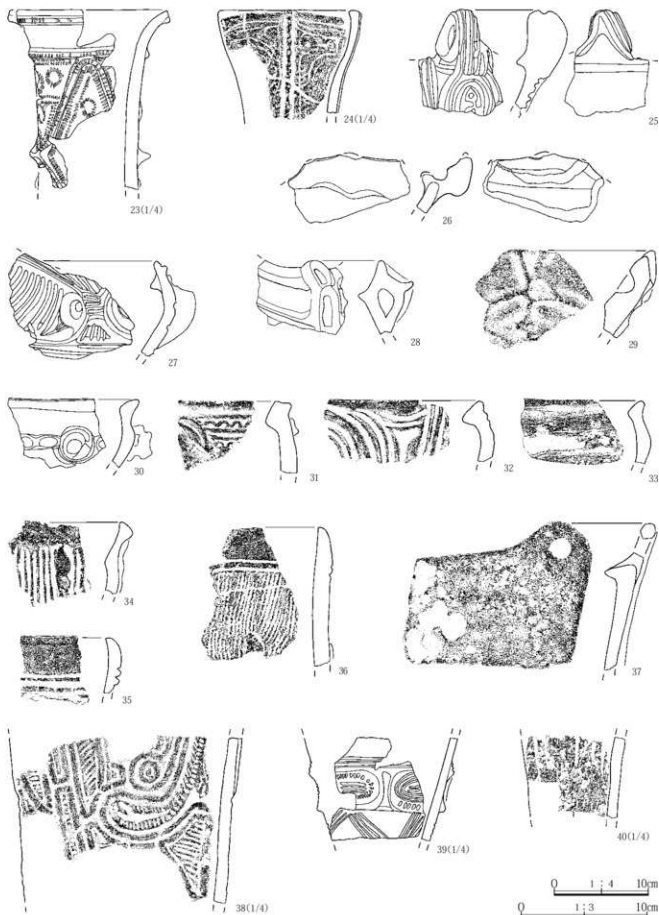
表3 縄文石器器種別一覧表

器種	報告書(1)	報告書(2)	報告書(3)	計
打製石礫	37	16	6	59
打製石匙?		1		1
打製石斧	31	4	15	50
打製石斧?			2	2
磨製石斧	7	2		9
石斧未成品			1	1
スタンプ形石器			2	2
石礫未成品	1	6	10	17
石礫未成品?		1		1
加工痕ある副片	2	6	14	22
使用痕ある副片		6	1	7
副片	1	1	4	6
磨石	9	22	17	48
砥石	23	6	11	40
くぼみ石	12	12	11	35
多孔石		5	1	6
白石	1	2	1	4
石皿	6	2	1	9
石棒		1		1
瘦形石器			1	1
削器	9		6	15
掻器		6		6
石鏝	2	2	1	5
砥石	1	1		2
石核	4	3	6	13
石核?			1	1
石匙	3	2		5
石匙?			1	1
装飾品?			1	1
計	149	107	114	370

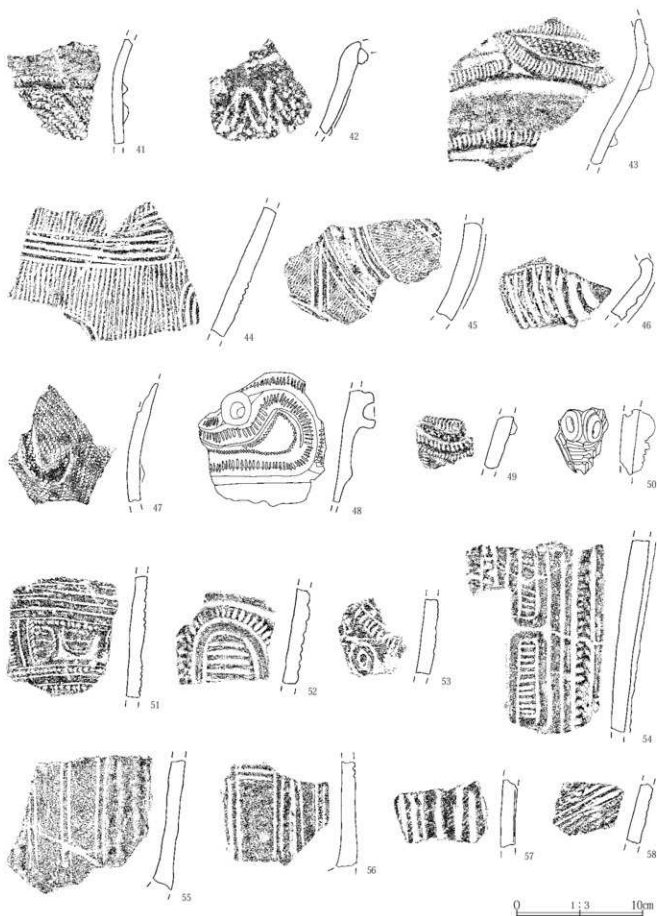


第28図 遺構外出土遺物(1)

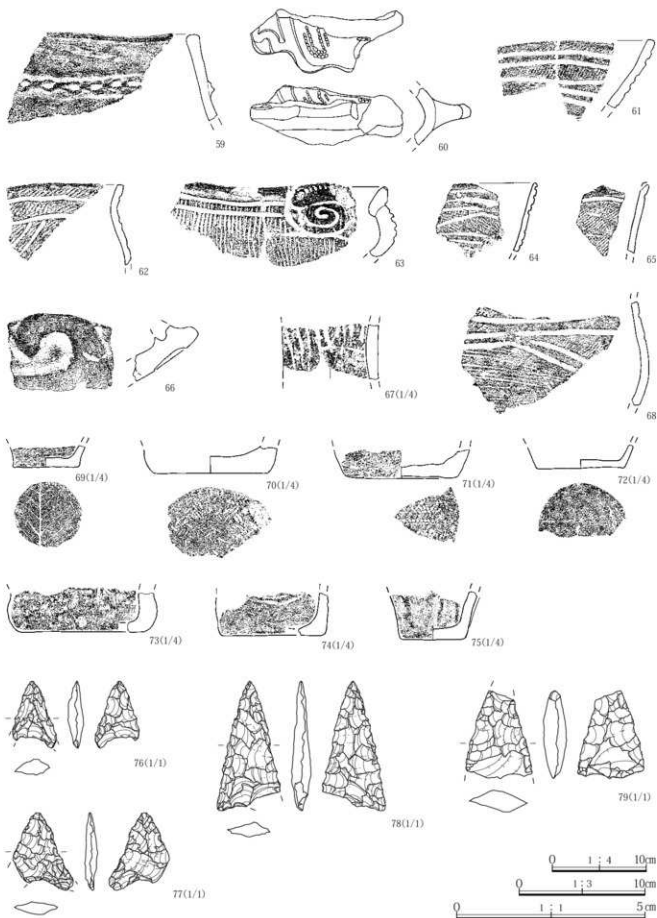




第29回 遺構外出土遺物(2)

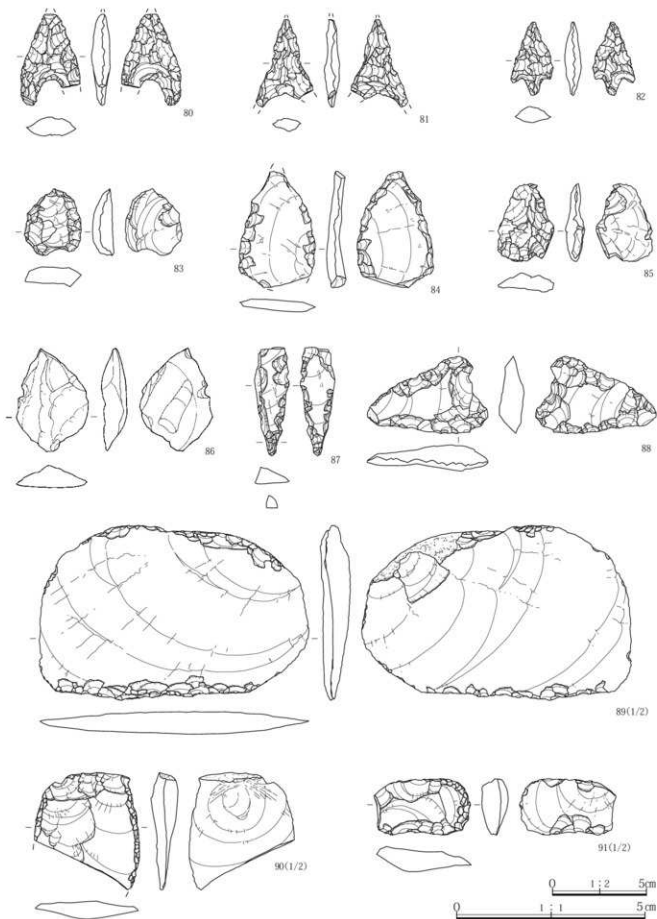


第30図 遺構外出土遺物(3)

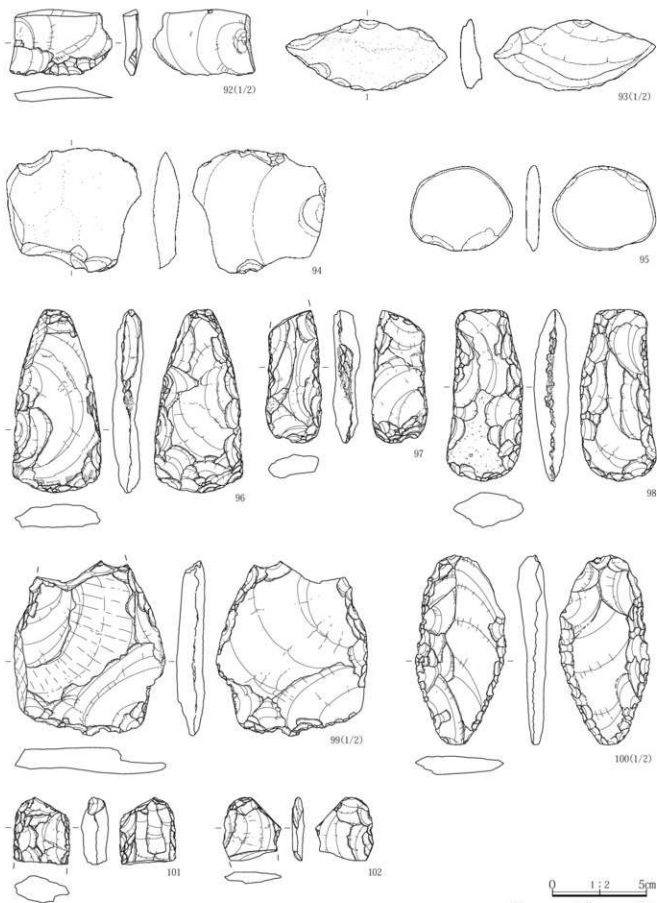


第31図 遺構外出土遺物(4)

第3章 検出された遺構と遺物

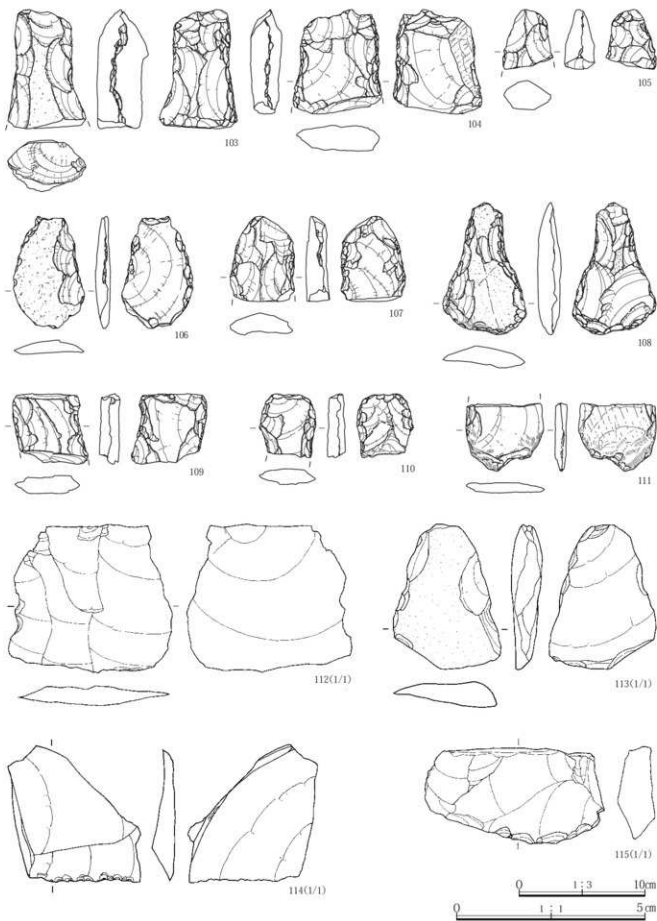


第32図 遺構外出土遺物(5)

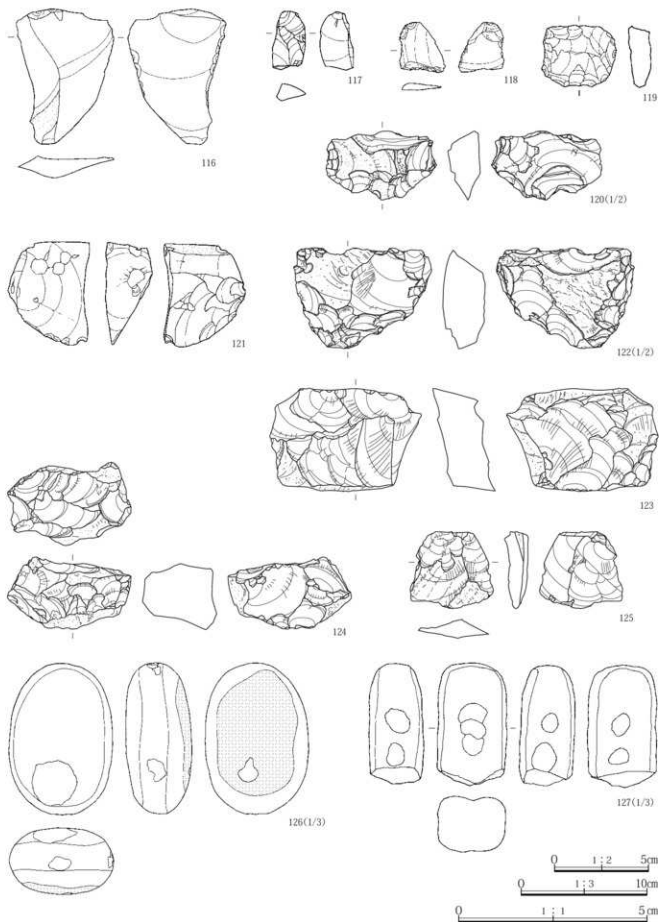


第33図 遺構外出土物(6)

第3章 検出された遺構と遺物



第34図 遺構外出土遺物(7)

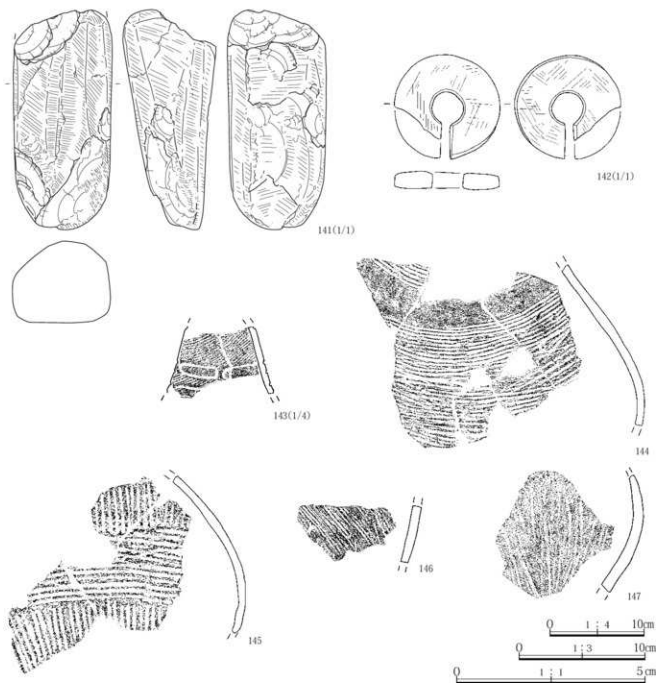


第35図 遺構外出土遺物(8)



第36図 遺構外出土物(9)





第37図 遺構外出土遺物(10)

### 第3節 平安時代

#### (1) 遺構

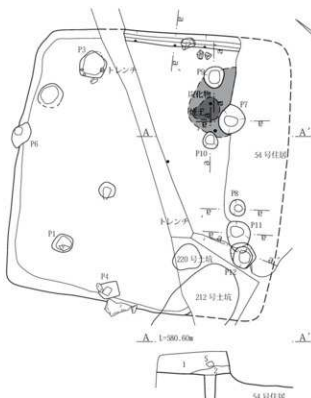
この時期は、文化層の第2面に相当する。確認面・遺構検出面は主に基本土層の第II層下面から第III層上面にかけてであり、第III層が包含層である。検出された遺構は主に竪穴住居後期の5棟や陥し穴を含む土坑72基である。

なお、平安時代の土坑はほとんど2類の陥し穴である。

#### 1 竪穴住居

32号竪穴住居(第28～30図、P.L.12)

62区X・Y-4・5グリッドに位置する。重複関係は54号竪穴住居とで、南壁のすべてと東壁と西壁の一部を壊されていることから、新旧関係は54号竪穴住居の方が



1. 黒褐色土(10YR3/2) にぶい黄褐色粘質土塊を含む、締りあり。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・粒を含む、締り強、粘性強。

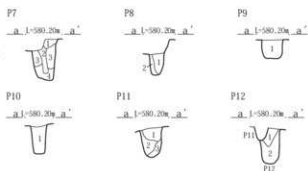
周溝

1:1-500.50m a'



1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊主体、As-YPk微含、黒褐色土含む、締りややあり、粘性強。

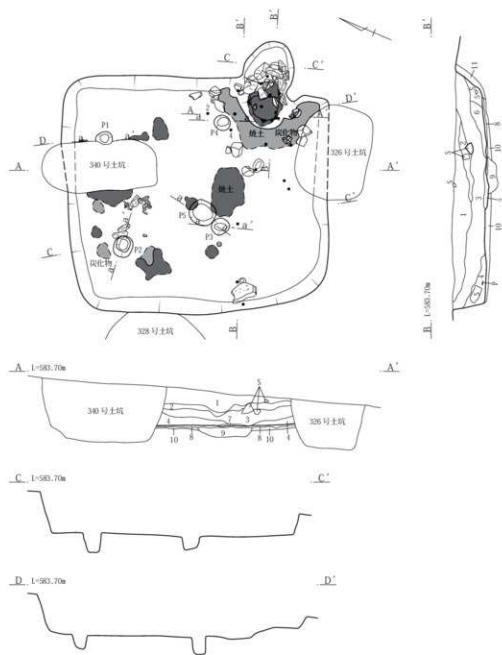
新しい。また、平安時代の212号土坑と中近世の220号土坑に床面を壊されている。形状は前回の調査で、北側半分ははっきりしているものの、南側は壁の大部分が明確でない。おそらくは隅丸方形と推定される。規模は長軸4.40m、短軸(4.20)m、面積は18.1㎡である。壁は深さ35cmと浅く、主軸方位もN-57°-Eと推定され、竪は前回の調査では東壁に推定されていたが、床面の焼土の分布から、おそらくは南東隅、あるいは南壁の東寄りと推定される。ピットは前回の6基と今回の6基の総数12基で、柱穴はP1とP3、それに今回のP12である。床は固く南東部には溜の影響か、炭化物や焼土が多く認められる。周溝は東壁で検出されているが、床下土坑は確認されていない。出土遺物は前回の調査では須恵器の甕や碗が多数出土したが、今回は土師器の甕10点や須恵器の



- P7
1. 黒褐色土(10YR3/1) 小礫約0.5cm少含、As-YPk少含、締りややあり、粘性あり。
  2. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粘微含、締り弱、粘性あり。
  3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 黄褐色粘質土多含、As-YPk少含、締りあり、粘性強。
  4. 黒褐色土(10YR3/1) As-YPk微含、締り弱、粘性あり。
- P8
1. 黒褐色土(10YR3/1) 焼土粒上層に多含、As-YPk微含、締り弱、粘性あり。
  2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 黄褐色粘質土少含、締り弱、粘性あり。
- P9・10
1. 暗褐色土(10YR3/2) As-YPk少含、締りややあり、粘性あり。
- P11
1. 暗褐色土(10YR3/2) As-YPk少含、締りややあり、粘性あり。
  2. 黒褐色土(10YR3/2) As-YPk微含、締りあり、粘性あり。
  3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒を含む、As-YPk微含、締りあり、粘性あり。
- P12
1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・As-YPk多含、締り弱、粘性あり。
  2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム大塊・粒多含、締りあり、粘性あり。

0 1:60 2m

第38図 32号住居



A-A'・B-B'

- |                      |  |
|----------------------|--|
| 1. 暗褐色土(10YR3/3)     | 砂質土、As-YPs微含、灰黄褐色土含む、締りやや弱、粘性あり。                           |
| 2. 暗灰黄色土(2.5Y5/2)    | 浅間稻川テフラの可能性ある火山灰含む、締りやや弱、粘性弱。                              |
| 3. 黒褐色土(10YR3/1)     | 炭化物含む、締りやや弱、粘性あり。  |
| 4. 黒褐色土(10YR3/2)     | 礫・遺物含む、1・3層より締りあり、粘性あり。                                    |
| 5. 黒褐色土(10YR3/2)     | 4層に類似、炭化物含む、締りややあり、粘性あり。                                   |
| 6. 暗褐色土(10YR3/3)     | 焼土粒含む、締りあり、粘性あり。   |
| 7. にぶい黄褐色土(10YR4/3)  | 焼土大塊・炭化物多含、締り弱、粘性ややあり。                                     |
| 8. 黒褐色土(10YR3/1)     | As-YPs約1.0cm多含、床面、硬化、粘性弱。                                  |
| 9. 暗褐色土(10YR3/3)     | 焼土約1.0～3.0cm塊・粒多含、炭化物含む、ローム約1.0cm塊少含、締りややあり、粘性あり、床下土坑2埋没上。 |
| 10. 黒褐色土(10YR3/2)    | ローム粒含む、As-YPs微含、締り弱、粘性あり。                                  |
| 11. にぶい黄褐色土(10YR4/2) | ローム小塊・粒多含、締り弱、粘性あり。  |

0 1; 60 2m

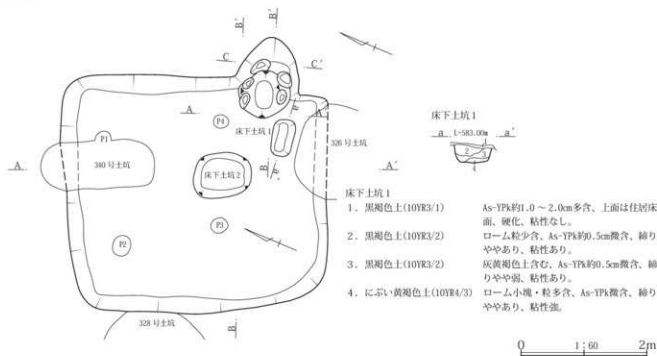
第39図 52号住居(1)

### 第3章 検出された遺構と遺物



- P1**
1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・炭化物含む、締り弱、粘性あり。
  2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム小塊・粒多含、As-YPk含む、締り弱、粘性あり。
- P2**
1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・灰白色粒含む、締りあり、粘性強。
  2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム約0.5cm塊少含、締りややあり、粘性強。
  3. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム塊・粒多含、締り弱、粘性強。
- P3**
1. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒含む、締りあり、粘性あり。
  2. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒均質、締りあり、粘性強。
- P4**
1. 黒褐色土(10YR3/2) As-YPk・焼土粒含む、締りあり、粘性あり。
  2. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒均質、締りあり、粘性強。
- P5**
1. 褐色土(7.5YR6/6) 底部硬化、粘性なし。
  2. 黒色土(10YR2/1) 締りやや弱、粘性強。

掘り方



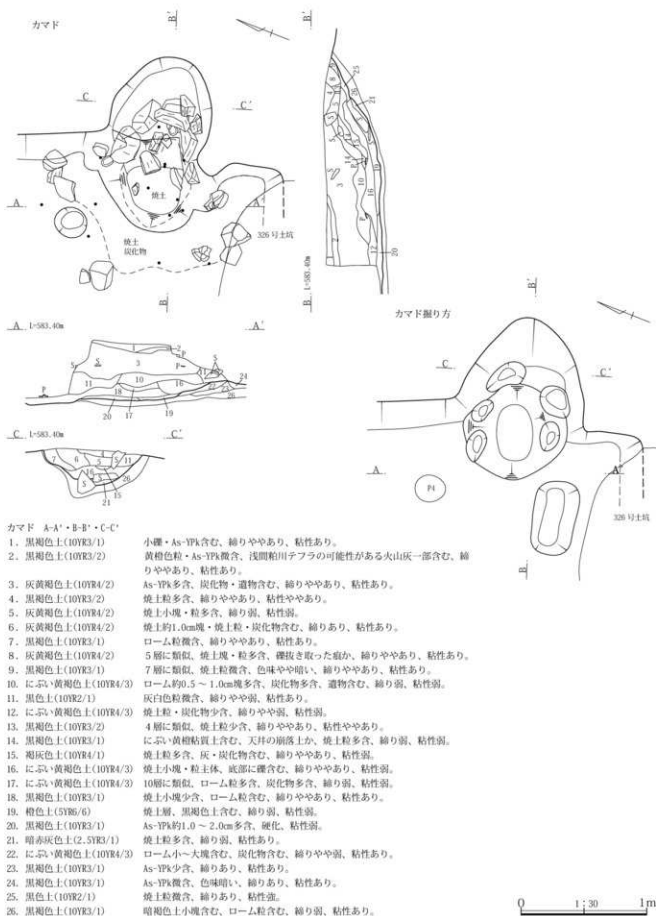
第40図 52号住居(2)

碗3点と少ないうえに、細かな破片だけである。所見としては、出土遺物や竈の設置位置から、平安時代前期の9世紀頃と考えられる。

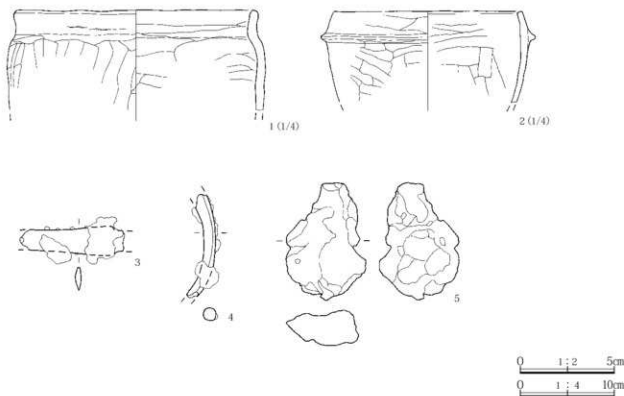
52号竪穴住居(第39～42図、P.L.13・14・73)

71区V・W-3・4グリッドに位置する。重複関係は平安時代の陥し穴である326号土坑に北壁の一部を、340号土坑に北壁の一部を壊されている。規模は長軸4.12m、短軸3.75mの隅丸方形である。面積は15.2㎡である。壁は65cmとかなり深く、東壁は緩やかに立ち上がるが、西壁はやや直に立ち上がる。床はローム土を含む硬化面で、竈の焚口周辺だけでなく、中央部から北壁寄りに焼土や炭化物が多く認められる。主軸方位はN-68°-Eである。

竈は南東隅寄りに設置され、袖から燃焼部に多数の石を利用した石組で、掘り方でも石を据えるための小さな穴が5か所も検出されている。ピットは5基検出されているが、P1・2・3・4の位置が方形になることから、深さが無いものの、柱穴と推定される。出土遺物は土師器の土釜や須恵器の羽釜、それに刀子などの鉄製品や鉄滓である。所見としては、土釜や羽釜などの出土遺物や竈の設置位置から、10世紀後半と考えられる。



第41図 52号住居(3)

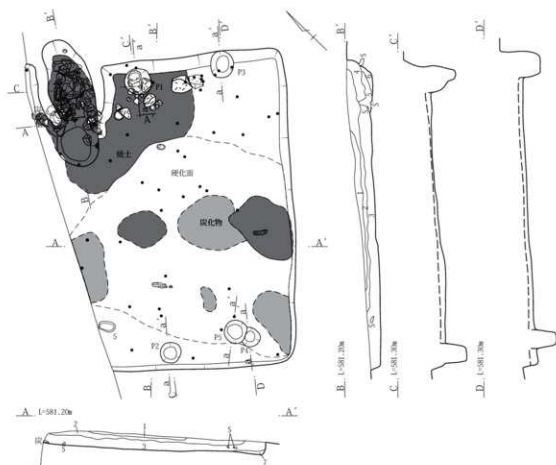


第42図 52号住居出土遺物

53号竪穴住居(第43～45図、P.L.14～16)

62区V-6、W-5・6、X-5グリッドに位置する。重複関係はない。竈の西の北壁から西壁のすべて、それに南壁の一部が失われている。そのため、形状は隅丸正方形か、あるいは隅丸長方形と考えられるが、竈が壁のほぼ中央、あるいは西寄りに位置するかで形状が異なる可能性がある。規模は長軸4.92m、短軸(3.64)mで、面積は17.7㎡以上である。主軸方位はN-42°-Eである。壁の深さは約50cmで、竈は北西寄りで、袖が長く、袖から燃焼部、煙道にかけて石を組み上げている。床はしっかりしている。焼土や炭化物が竈の周辺だけでなく、中央部や東壁際に分布しており、数は少ないものの、炭化材が僅かながら出土していることから、52号竪穴住居のように焼失家屋の可能性がある。また、掘り方があるものの土層の確認や分層がなされていない。ピットは5基検出されているが、P1～3のいずれも北壁や南壁の際、あるいはP4・5のように南東隅から一定の距離を保つ状態で検出されていることから、すべてが柱穴と考えら

れる。床下土坑や周溝は確認されていない。出土遺物は灰軸陶器の碗や土師器の土釜、それに一端に敲打痕、一面に磨り面が見られる台石である。所見としては、土師器の土釜や竈の設置位置から、平安時代前期の10世紀後半と考えられる。



A-A' 1-581.20m

B. 1-581.20m

C. 1-581.20m

D. 1-581.20m

A-A'・B-B'

1. 黒褐色土(10YR3/1)
2. 黒褐色土(10YR3/2)
3. 灰黄褐色土(10YR4/2)
4. 黒褐色土(10YR3/1)
5. 暗褐色土(10YR3/3)
6. にぶい黄褐色土(10YR4/3)
7. 黒褐色土(10YR3/1)

小礫・As-YPK含む、締りややあり、粘性あり。

黄褐色粒・As-YPK微含、浅間船川チフラの可能性ある火山灰を一部含む、締りややあり、粘性あり。

As-YPK多含、炭化物・遺物含む、締りややあり、粘性あり。

焼土粒少含、灰白色粒微含、締りあり、粘性あり。

焼土小〜大塊・粒、炭化物含む、締り弱、粘性あり。

ローム小礫少含、ローム粒多含、締りややあり、粘性あり。

4層に類似、焼土粒・炭化物少含、締りやや弱、粘性あり。

P1



P2



P1

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒多含、締り弱、粘性あり。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム約0.5cm塊・粒多含、締り弱、粘性あり。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム約1.0〜3.0cm塊・粒多含、締りあり、粘性あり。

P2

1. 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色粒少含、As-YPK多含、締りやや弱、粘性あり。
2. 黒褐色土(10YR3/2) As-YPK微含、色味やや暗い、締りあり、粘性あり。

P3

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒少含、締りやや弱、粘性あり。
2. 黒褐色土(10YR3/2) As-YPK少含、炭化物含む、締りあり、粘性あり。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム小塊・粒多含、締りややあり、粘性強。

P4

1. 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色粒少含、As-YPK多含、締りやや弱、粘性あり。
2. 黒褐色土(10YR3/2) As-YPK微含、炭化物・焼土粒含む、締りあり、粘性あり。

P5

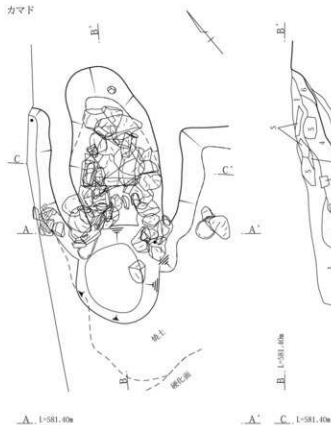
1. 黒褐色土(10YR3/2) As-YPK微含、炭化物少含、ローム粒均質、締りやや弱、粘性あり。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒含む、締りやや弱、粘性あり。

0 1:60 2m

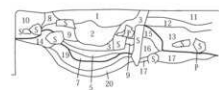
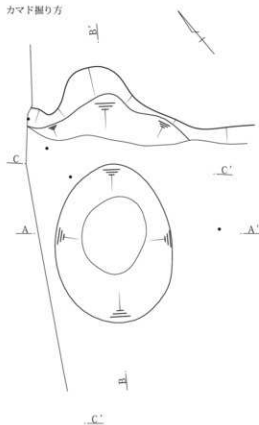
第43図 53号住居(1)

### 第3章 検出された遺構と遺物

カマド



カマド掘り方



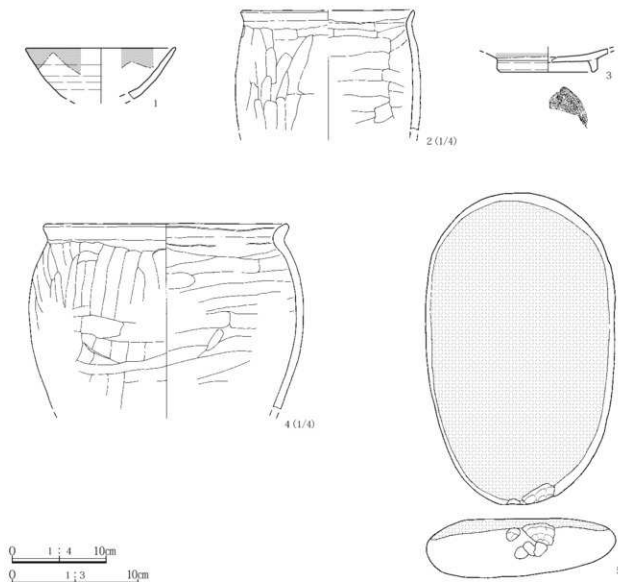
0 1:30 1m

カマド A-A'・B-B'・C-C'

- |                      |                                    |
|----------------------|------------------------------------|
| 1. 黒褐色土(10YR3/1)     | As-YPK・黄褐色粒少含、締りあり、粘性あり。           |
| 2. 灰黄褐色土(10YR4/2)    | 炭化物多含、焼土粒少含、締りやや弱、粘性あり。            |
| 3. 灰黄褐色土(10YR4/2)    | 2層に類似、炭化物・焼土粒含む、締りやや弱、粘性あり。        |
| 4. にぶい黄褐色土(10YR4/3)  | 焼土小塊・粒多含、締り弱、粘性あり。                 |
| 5. 灰黄褐色土(10YR4/2)    | 焼土粒多含、炭化物含む、天井部の崩落土、締り弱、粘性弱。       |
| 6. 黒褐色土(10YR3/2)     | 焼土粘微含、締り弱、粘性あり。                    |
| 7. にぶい黄褐色土(10YR7/2)  | 粘質土、天井部の崩落土、灰黄褐色土含む、締り弱、粘性強。       |
| 8. 暗褐色土(10YR3/4)     | 焼土粒・炭化物少含、小礫含む、締り弱、粘性あり。           |
| 9. 黒褐色土(10YR3/1)     | As-YPK・炭化物少含、締り強、粘性弱。              |
| 10. 黒褐色土(10YR3/1)    | 小礫・As-YPK微含、締り強、粘性あり。              |
| 11. 黒褐色土(10YR3/1)    | 住居埋没上の1層。                          |
| 12. 黒褐色土(10YR3/2)    | 住居埋没上の2層。                          |
| 13. 灰黄褐色土(10YR4/2)   | 住居埋没上の3層。                          |
| 14. 黒褐色土(10YR3/2)    | ローム小塊含む、As-YPK少含、締り強、粘性なし。         |
| 15. にぶい黄褐色土(10YR4/3) | 炭化物少含、ローム粒底部に含む、焼土粒多含、締りややあり、粘性あり。 |
| 16. 褐灰色土(10YR4/1)    | 焼土大塊含む、締りややあり、粘性あり。                |
| 17. にぶい黄褐色土(10YR4/3) | 粘質土、ローム小塊多含、炭化物多含、炭化物微含、締りあり、粘性あり。 |
| 18. 黒褐色土(10YR3/2)    | 小礫含む、灰白色粘微含、締りあり、粘性あり。             |
| 19. 褐灰色土(10YR6/1)    | 焼土上層に多含、締りややあり、粘性弱。                |
| 20. 褐灰色土(7.5YR4/1)   | As-YPK微含、焼土粒含む、締り弱、粘性弱。            |

第44図 53号住居(2)



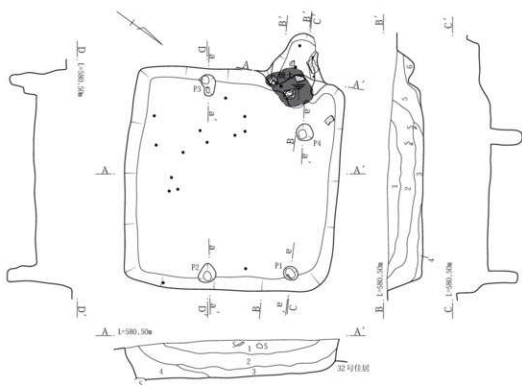


第45図 53号住居出土遺物

54号竪穴住居(第46～48図、P L.16・17・73)

62区W-4、X-3・4、Y-4グリッドに位置する。重複関係は32号竪穴住居とで54号竪穴住居の方が新しい。規模は長軸3.50m、短軸3.40m、深さ0.54mで、面積は11.8㎡である。形状は隅丸方形に近い。主軸方位はN-123°-Wである。遺構確認面からの深さはほぼ中央で約50cmと深い。壁は緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅱ層から第Ⅲ層を中心としている。竈は西壁の北西隅に位置し、袖は僅かに認められ、左袖から燃焼部にかけて僅かながら石を利用している。ピットは4基で、そのうちのP1・2が東壁、P3が西壁の際に位

置し、すべてが柱穴と考えられ、規模こそ違うものの、53号竪穴住居に類似しており、興味深い。床はしっかりしており、掘り方はほとんどない。床下土坑や周溝は確認されていない。出土遺物は須恵器の坏と鉄釘である。所見としては、出土遺物や竈の設置位置から、平安時代前期の9世紀頃と考えられる。



A-A'・B-B'

- |                     |  |
|---------------------|--|
| 1. 黒褐色土(10YR3/2)    | ローム小塊少含、小礫少含、黄褐色小塊多含、締りあり、粘性弱。             |
| 2. 暗褐色土(10YR3/2)    | 1層よりローム小塊多含、焼土粒微含、炭化物含む、締りややあり、粘性あり。       |
| 3. 灰黄褐色土(10YR4/2)   | 焼土粒・炭化物少含、As-YPK細粒微含、締りややあり、粘性弱。           |
| 4. 暗褐色土(10YR3/2)    | 2層に類似、ローム小塊微含、遺物含む、締りあり、粘性弱。               |
| 5. 黒褐色土(10YR3/2)    | A-A'・B-B'上層にAs-YPK・ローム粒多含、小礫微含、締りややあり、粘性弱。 |
| 6. にぶい黄褐色土(10YR4/3) | 焼土小塊・粒多含、締り弱、粘性あり。                         |



P1・2

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム小塊・粒少含、締りあり、粘性あり。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム小塊・粒多含、締り弱、粘性あり。

P3

1. 黒褐色土(10YR3/1) As-YPK微含、締り弱、粘性あり。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒微含、As-YPK少含、締り強、粘性弱。
3. 黒褐色土(10YR3/1) As-YPK・灰白色粒微含、締り強、粘性弱。
4. 黒色土(10YR2/1) As-YPK微含、締り弱、粘性強。



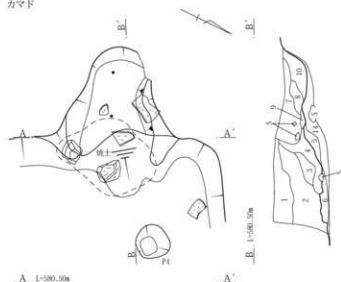
P4

1. 黒褐色土(10YR3/1) As-YPK微含、締り弱、粘性あり。
2. 黒褐色土(10YR3/1) As-YPK・灰白色粒微含、締り強、粘性弱。
3. 黒色土(10YR2/1) As-YPK微含、締り弱、粘性強。

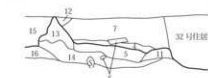
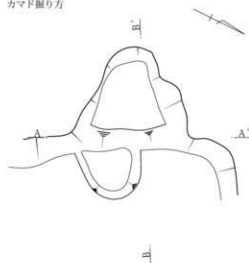
0 1:60 2m

第46図 54号住居(1)

カマド



カマド振り方

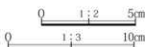


## カマド A-A'・B-B'

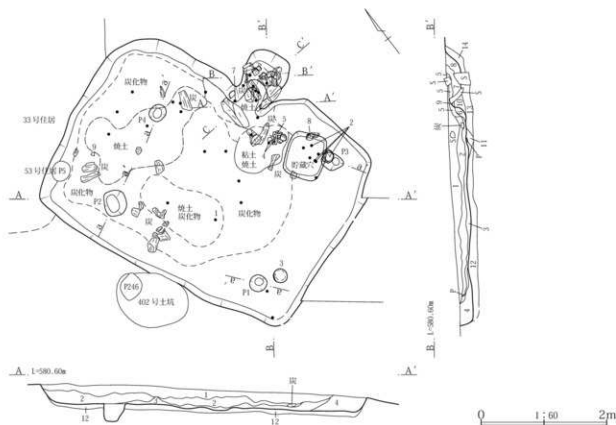
1. 暗褐色土(10YR3/3)
2. 暗褐色土(10YR3/3)
3. 黒褐色土(7.5YR3/2)
4. 灰褐色土(7.5YR4/2)
5. 黒褐色土(10YR3/2)
6. にぶい黄褐色土(10YR5/3)
7. 暗褐色土(10YR3/3)
8. にぶい黄褐色土(10YR5/3)
9. 明黄褐色土(10YR6/6)
10. にぶい黄褐色土(10YR5/4)
11. にぶい黄褐色土(10YR4/3)
12. 灰黄褐色土(10YR4/2)
13. 褐色土(10YR4/6)
14. 褐色土(10YR4/6)
15. 暗褐色土(10YR3/3)
16. 灰黄褐色土(10YR4/2)

- As-YPk約1.0cm微含、黄褐色粒・灰白色粒多含、炭化物含む、締り強、粘性なし。  
 6層よりAs-YPk少含、小礫含む、締りあり、粘性あり。  
 焼土粒含む、黄褐色粒少含、締りややあり、粘性あり。  
 焼土塊・粒多含、締り弱、粘性弱。  
 焼土大塊・粒多含、ローム粒・塊少含、締りやや弱、粘性あり。  
 ローム小塊・粒多含、締りややあり、粘性あり。  
 As-YPk約1.0cm微含、黄褐色粒・灰白色粒多含、締りあり、粘性弱。  
 にぶい黄褐色土小塊含む、天井部の崩落土か、締りやや弱、粘性あり。  
 粘質土、ローム大塊上体、締りややあり、粘性あり。  
 ローム小塊・粒少含、As-YPk微含、締りあり、粘性あり。  
 As-YPk少含、ローム粒含む、締り弱、粘性あり。  
 黄褐色粒微含、色味やや明るい、締り強、粘性あり。  
 明赤褐色焼土粒多含、炭化物含む、締りややあり、粘性弱。  
 As-YPk・小礫少含、締りやや弱、粘性あり。  
 As-YPk少含、締りあり、粘性あり。  
 ローム小塊・粒多含、締りあり、粘性あり。

第47図 54号住居(2)



第48図 54号住居出土遺物



A-A'・B-B'

1. 暗褐色土(10YR3/3)
2. 暗褐色土(10YR3/3)
3. 褐色土(10YR4/4)
4. にぶい黄褐色土(10YR4/3)
5. にぶい黄褐色土(10YR4/3)
6. にぶい黄褐色土(10YR4/3)
7. にぶい黄褐色土(10YR4/3)
8. 黒褐色土(10YR3/1)
9. にぶい黄褐色土(10YR4/3)
10. 灰黄褐色土(10YR4/3)
11. 灰黄褐色土(10YR4/3)
12. 暗褐色土(10YR3/3)
13. 黒褐色土(10YR3/2)
14. 黒褐色土(10YR3/1)

- As-YPk多含、炭化物少含、締りややあり、粘性あり。  
 1層よりAs-YPk少含、炭化物多含、焼土粒少含、締り弱、粘性あり。  
 明赤褐色焼土小一大塊多含、炭化物小一大片多含、締り弱、粘性あり。  
 As-YPk約0.5cm多含、締りあり、粘性あり。  
 焼土粒多含、炭化物少含、As-YPk微含、締り弱、粘性あり、5～8層はカマド覆土。  
 ローム大塊含む、焼土・炭化物微含、締り弱、粘性あり。  
 焼土塊・粒多含で均質、ローム塊・炭化物含む、締りやや弱、粘性あり。  
 焼土粒少含、灰白色粒多含、締りあり、粘性あり。  
 ローム大塊主体少含、焼土小塊・粒少含、締りあり、粘性あり、カマド袖状残存部の粘土。  
 焼土小塊・粒多含、締り強、粘性弱。  
 粘質土、ローム約3.0～5.0cm塊多含、焼土粒多含、締り強、粘性弱。  
 As-YPk・黄褐色粒多含、焼土粒・炭化物含む、締りあり、粘性あり。  
 As-YPk多含、締りあり、粘性あり。  
 黄褐色粒少含、締り弱、粘性あり。

第49図 55号住居(1)

55号竪穴住居(第49～52図、P.L.18・19)

62区V・W-4・5グリッドに位置する。重複関係は33号竪穴住居で、縄文時代後期後半の33号竪穴住居より新しい。規模は長軸4.66mで、短軸は3.40m、深さ0.45m以上で、面積は15.5㎡である。形状は隅丸長方形に近い。遺構確認面からの深さはほぼ中央で約50cmと深い。壁は緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅱ層から第Ⅲ層を中心としている。竈は東壁のほぼ中央に位置し、袖は明確でないもの、燃焼部から煙出し部分にか

けて石を利用しており、長い石が焚口部分に横たわることから、焚口の天井に用いたと考えられる。貯蔵穴が南東隅に位置し、長方形でその規模は約0.7×0.6mで、「コ」の字の裏が出土している。主軸方位はN-67°-Eである。ピットは4基検出されており、住居の四隅から対角線上に位置することから、4基すべてが柱穴と推定される。床はやや凹みが目立ち、しっかりしていないものの、床の大部分に焼土や炭化物が広がっている。また、一部に炭化材が見られることから、焼土家屋の可能性も考えら



- P1
1. にふい・黄褐色土(10YR4/3) 炭化物・焼土粒少含、ローム粒多含、締りあり、粘性あり。
  2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 黒褐色土含む、As-YPrk含、締りあり、粘性あり。



- P2
1. 暗褐色土(10YR3/3) 灰白色粒微含、炭化物含む、締りやや弱、粘性あり。
  2. 褐色土(10YR4/4) As-YPrk多含、黒褐色土塊含む、締りやや弱、粘性あり。
  3. 暗褐色土(10YR3/3) 黒褐色土大塊含む、As-YPrk含、締りやや弱、粘性あり。

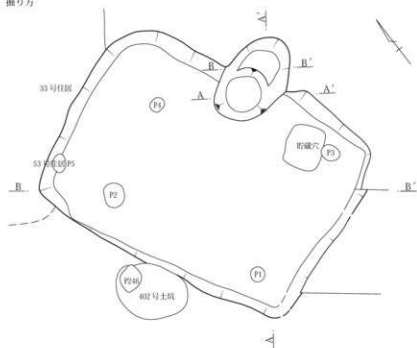


- 貯蔵穴
1. 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物・焼土粒多含、締りややあり、粘性あり。
  2. 黒褐色土(10YR3/1) I層より炭化物・焼土粒少含、遺物含む、締りやや弱、粘性あり。
  3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒多含、黒褐色土含む、締り弱、粘性あり。



- P4
1. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒・炭化物多含、締り弱、粘性強。
  2. 黒褐色土(10YR2/1) As-YPrk含、締りあり、粘性弱。

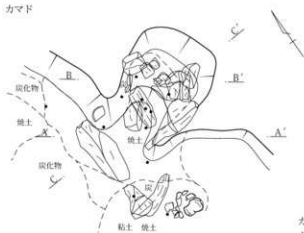
掘り方



第50図 55号住居(2)

### 第3章 検出された遺構と遺物

カマド



A. 1-580.60m



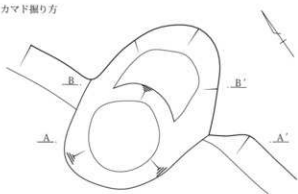
B. 1-580.60m



C. 1-580.60m



カマド振り方



カマド A-A'・B-B'

1. 暗褐色土(10YR3/3)
  2. 灰黄褐色土(10YR4/2)
  3. 暗褐色土(10YR3/3)
  4. 褐色土(10YR4/4)
  5. にぶい黄褐色土(10YR4/3)
  6. にぶい黄褐色土(10YR4/3)
  7. 灰黄褐色土(10YR4/3)
  8. にぶい黄褐色土(10YR4/3)
  9. にぶい黄褐色土(10YR4/3)
  10. にぶい黄褐色土(10YR4/3)
  11. 黒褐色土(10YR3/1)
  12. 暗褐色土(10YR3/3)
  13. 暗褐色土(10YR3/3)
  14. 暗褐色土(10YR3/3)
  15. 暗褐色土(10YR3/3)
  16. 明赤褐色土(2.5Y5/6)
  17. 暗褐色土(10YR3/3)
  18. 黒褐色土(10YR3/2)
- As-YpK多含、炭化物少含、締りややあり、粘性あり。  
As-YpK約0.5cm多含、炭化物含む、締りややあり、粘性あり。  
焼土小塊含む、As-YpK微含、締り弱、粘性あり。  
焼土粒少含、炭化物多含、小礫含む、締りやや弱、粘性強。  
焼土塊主体、締りあり、粘性弱。  
ローム大塊主体少含、焼土小塊・粒少含、締りあり、粘性あり、カマド袖状残存部の粘土、住居埋没上の9層。  
焼土小塊・粒多含、締り強、粘性弱、住居埋没上の10層。  
焼土粒多含、炭化物少含、As-YpK微含、締り弱、粘性あり、住居埋没上の5層。  
焼土塊・粒多含で均質、ローム塊・炭化物含む、締りやや弱、粘性あり、住居埋没上の7層。  
焼土塊・粒多含、ローム塊・炭化物含む、締りやや弱、粘性あり。  
As-YpK少含、褐色土塊含む、締りあり、粘性あり。  
ローム粒多含、黒褐色土塊含む、締りやや弱、粘性あり。  
焼土約1.0~10.0cm大塊多含、炭化物小片含む、締り弱、粘性あり。  
13層に類似、黒褐色土含む、焼土約5.5cm塊含む、締り弱、粘性あり。  
黒褐色土塊多含、締りあり、粘性あり。  
焼土塊主体、褐色土含む、締りやや弱、粘性弱。  
As-YpK少含、締りあり、粘性あり。  
ローム小塊・粒少含、締りあり、粘性あり。

第51図 55号住居(3)

れる。床下土坑や周溝は確認されていない。出土遺物は土師器の「コ」の字の裏が5点以上あり、それに須恵器の坏と砥石が出土した。所見としては、出土遺物や竈の設置位置から、平安時代前期の9世紀後半と考えられる。

#### 2 土坑

土坑は、主体とする隔し穴とその他の土坑とに大別できるが、その形態や分布状況については後述する。

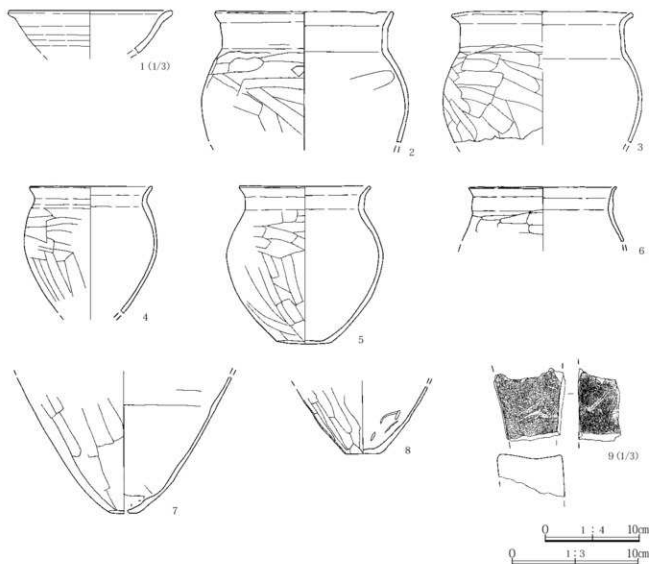
#### 261号土坑(第53図、P.L.19・74)

71区U-5グリッドに位置する。形状は隅丸長方形だが確認面では楕円形である。規模は長軸2.35m、短軸1.98m、深さ2.34m。主軸方位は、N-15°-Wである。分類

は2類。重複関係はない。床面はややしつかりしない。遺構確認面からの深さは約2.3mと深く、壁は2段ほぼ垂直に立ち上がり、確認部分では、やや緩やかに立ち上がる。ローム層やAs-YpKの崩落がみられる。埋没土は基本土層の第II層から第IV層を中心としている。遺物は縄文時代の剥片が1点出土している。

#### 262号土坑(第53図、P.L.19・74)

71区R-6グリッドに位置する。形状は確認面では楕円形だが、下半部は隅丸長方形である。規模は長軸(3.75)m、短軸(2.73)m、深さ2.50m。主軸方位は、N-26°-Eである。分類は2類。重複関係はない。床面はローム層中でやしつかりしない。遺構確認面からの深さは2.5



第52図 55号住居出土遺物

mと深く、壁はほぼ垂直だが、上半部ではやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層から第V層を中心としている。遺物は縄文時代中期後半の2点である。

#### 271号土坑(第54図、P.L.19・74)

71区Q-6・7グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸(2.76)m、短軸(2.25)m、深さ2.22m。主軸方位は、N-27°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はしっかりしている。遺構確認面からの深さは約2.2mと深く、壁の下半部は2段でほぼ垂直に立ち上がる。上半部は緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第II層から第IV層を中心としている。出土遺物は縄文時代中期前半の土器であるが、土坑の時期は特定できない。

#### 276号土坑(第54図、P.L.20)

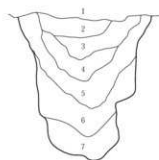
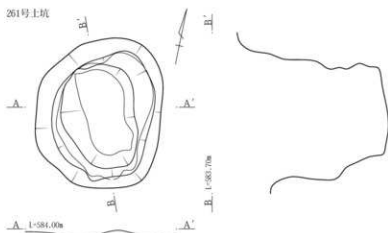
71区M-9グリッドに位置する。形状は確認面では楕円形だが、下半部では隅丸長方形である。規模は長軸(1.92)m、短軸1.24m、深さ1.68m。主軸方位は、N-19°-Wである。分類は2類。重複関係は89号ピットと重複。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約1.7mと深く、壁はほぼ垂直だが上半部では緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第II層から第IV層を中心としている。As-YPkの層序では、横に広がって崩落している。

#### 277号土坑(第55図、P.L.20・74)

71区N-9グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.60m、短軸0.78m、深さ0.88m。主軸方位

### 第3章 検出された遺構と遺物

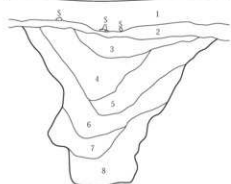
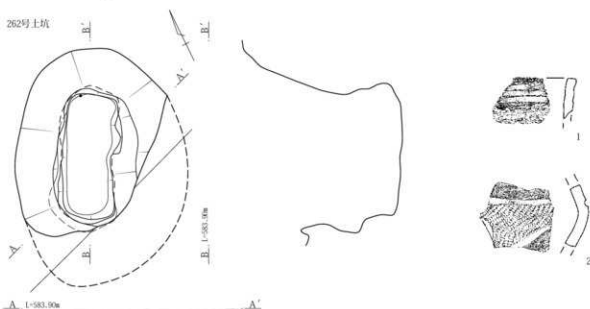
261号土坑



261号土坑

1. 褐色土(10YR4/4) 表土盛土、石垣の礎を含む。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-YPk・黄褐色粒微含、ローム粒多含、締りややあり、粘性強。
3. 黒褐色土(10YR3/1) As-YPk多含、ローム大塊・粒多含、締りややあり、粘性強。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ローム小塊・粒少含、締りややあり、粘性強。
5. 黒色土(10YR2/1) ローム粒微含、黄褐色粒 $\phi$ 0.5cm少含、締りややあり、粘性強。
6. 黄褐色土(10YR5/3) ローム10cm大塊主体、黒褐色土含む、締り弱く崩れやすい、粘性あり。
7. 褐色土(10YR4/4) 黄褐色土大塊含む、締り弱、粘性強。

262号土坑



262号土坑

1. 褐色土(10YR4/4) 表土盛土、石垣の礎を含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) As-YPk微含、炭化物・埴土粒含む、締り弱、粘性弱。
3. 黒褐色土(10YR3/2) As-YPk・ローム粒少含、炭化物含む、締りあり、粘性弱。
4. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒多含、黄褐色粒 $\phi$ 0.5~1.0cm多含、炭化物含む、締り弱、粘性弱。
5. にぶい黄褐色土(10YR4/3) As-YPk $\phi$ 1.0cm多含、黄褐色粒 $\phi$ 0.1cm少含、締り弱、粘性弱。
6. 黒褐色土(10YR3/2) As-YPk微含、ローム粒多含、締りややあり、粘性あり。
7. 褐灰色土(10YR4/1) ローム小塊・粒含む、締り弱、粘性強。
8. 褐灰色土(10YR4/1) ローム粒多含、硬層にローム3.0~5.0cm塊含む、締り弱、粘性強。

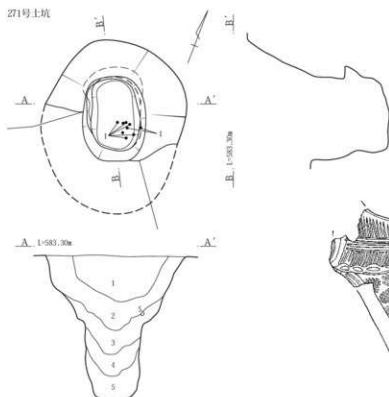
0 1:60 2m

第53図 261・262号土坑、出土遺物

0 1:3 10cm

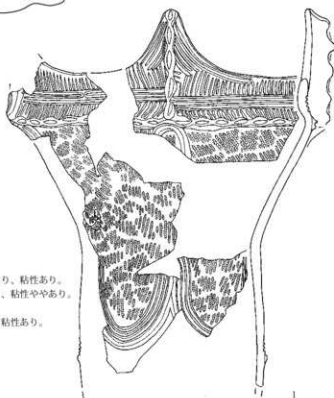


271号土坑

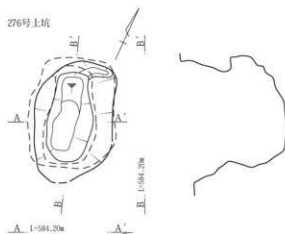


271号土坑

- |                     |                                |
|---------------------|--------------------------------|
| 1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) | As-YPr均質に多含、ローム粒含む、締りあり、粘性あり。  |
| 2. 黒褐色土(10YR3/1)    | As-YPr少含、ローム粒少含、締りややあり、粘性ややあり。 |
| 3. 灰黄褐色土(10YR4/2)   | As-YPr・黄褐色粘微含、締り弱、粘性弱。         |
| 4. 黒褐色土(10YR3/1)    | ローム粒少含、遺物含む、締りややあり、粘性あり。       |
| 5. 褐灰色土(10YR4/1)    | ローム大塊含む、締り弱、粘性あり。              |



276号土坑



276号土坑

- |                   |                                  |
|-------------------|----------------------------------|
| 1. 暗褐色土(10YR3/3)  | As-YPr少含、ローム粒含む、締りややあり、粘性あり。     |
| 2. 黒褐色土(10YR3/1)  | ローム大塊壁際に著しく含む、根攪乱あり、締りややあり、粘性あり。 |
| 3. 黒褐色土(10YR3/1)  | ローム粒多含、締りややあり、粘性あり。              |
| 4. 灰黄褐色土(10YR4/2) | ローム小〜大塊・粒多含、壁面崩落土、締り弱、粘性ややあり。    |
| 5. 明黄褐色土(10YR6/6) | ローム大塊・褐色土塊含む、締り弱、粘性あり。           |
| 6. 明黄褐色土(10YR6/6) | 5層に近似、ローム塊多含、締り弱、粘性あり。           |
| 7. 灰黄褐色土(10YR4/2) | ローム粒均質に含む、締り弱、粘性弱。               |

0 1:60 2m

0 1:4 10cm

第54図 271・276号土坑、271号土坑出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

は、N-46°-Wである。分類は2類。重複関係は272号土坑、84・86・87号ピットと重複するが新旧関係は不明である。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.9mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層のⅡ層から第Ⅳ層それにローム層(X層)を中心としている。

#### 278号土坑(第55図、P.L.20・74)

71区M・N-9グリッドに位置する。形状は隅丸長方形である。規模は長軸2.02m、短軸1.74m、深さ1.44m。主軸方位は、N-48°-Eである。分類は2類。重複関係は274号土坑と85号ピットと重複。274号土坑と85号ピットより古い。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約1.4mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅱ層から第Ⅳ層を中心としている。

#### 279号土坑(第56図、P.L.20・74)

71区M-9・10グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸2.25m、短軸1.55m、深さ1.26m。主軸方位は、N-20°-Wである。分類は2類。重複関係は、292号土坑より新しく、73・100・120号ピットより古い。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約1.3mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層から第Ⅴ層を中心としている。

#### 281号土坑(第56図、P.L.20)

71区N・O-10グリッドに位置する。形状は隅丸長方形だが西半分が調査区域外である。規模は長軸(2.40)m、短軸(0.91)m、深さ1.95m。主軸方位は、N-44°-Eである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約2.0mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが上半部は北壁と東壁が緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅱ層から第Ⅳ層を中心としている。

#### 283号土坑(第57図、P.L.20・30)

71区Q-8グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸(2.60)m、短軸(2.10)m、深さ2.08m。主軸方位は、N-24°-Wである。分類は2類。重複関係は280

号土坑と282号土坑とで新旧関係は282号土坑より古い。床面はややしっかりとしている。遺構確認面からの深さは約2.1mと深く、壁はほぼ垂直に上半部でやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅱ層から第Ⅲ層を中心としているが、壁からの崩落のローム土も含む。

#### 284号土坑(第58図、P.L.20・74)

71区M-8グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.96m、短軸1.66m、深さ1.56m。主軸方位は、N-16°-Wである。分類は2類。重複関係は83号ピットより新しい。床面はややしっかりしている。遺構確認面からの深さは約1.6mと深く、壁はほぼ垂直に、上半部は、緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅱ層から第Ⅲ層を中心としている。遺物は縄文時代の石核とスタンプ形石器が出土している。

#### 288号土坑(第58図、P.L.20)

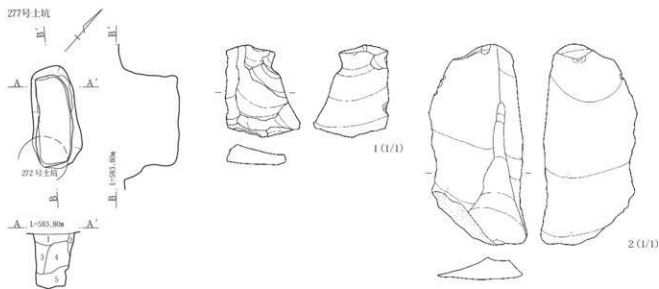
71区R-8グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.90m、短軸1.48m、深さ1.59m。主軸方位は、N-24°-Eである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしっかりしており、四隅にピットが掘られているが逆茂木にしては浅い。遺構確認面からの深さは約1.6mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅱ層から第Ⅲ層を中心としているがローム土も含む。

#### 289号土坑(第59図、P.L.20・21・74)

71区P-6・7、Q-7グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸2.60m、短軸2.30m、深さ2.47m。主軸方位は、N-5°-Eである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。床面のすぐ上で壁が崩落している。遺構確認面からの深さは約2.5mと深く、壁はほぼ垂直に、上半部は壁の崩落のために緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅱ層から第Ⅲ層を中心としている。

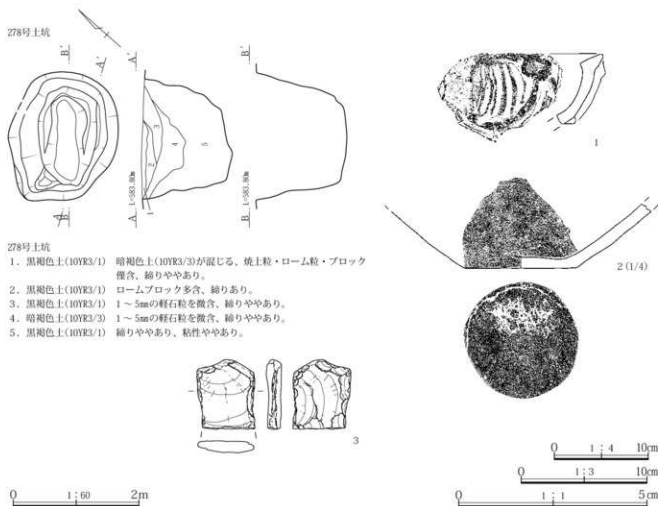
#### 291号土坑(第59図、P.L.21)

71区N-7グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸(2.15)m、短軸1.92m、深さ1.40m。主軸方位は、N-62°-Eである。分類は2類。重複関係は305号



## 277号土坑

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム大塊・粒含む、炭化物・焼土粒含む、締りあり、粘性あり。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・灰白色粒含む、締りあり、粘性あり。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム小～大塊・粒多含、締り弱、粘性ややあり。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 暗褐色土含む、締り弱、粘性ややあり。
5. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒多含、ローム大塊含む、締り弱、粘性ややあり。



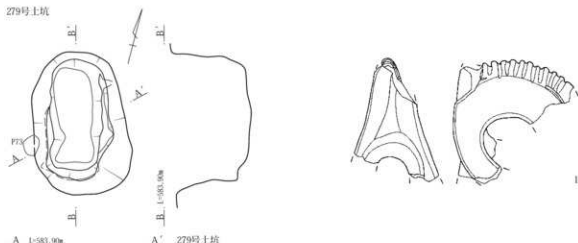
## 278号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) 暗褐色土(10YR3/3)が混じる、焼土粒・ローム粒・ブロック  
僅含、締りややあり。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック多含、締りあり。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 1～5mmの軽石粒を微含、締りややあり。
4. 暗褐色土(10YR3/3) 1～5mmの軽石粒を微含、締りややあり。
5. 黒褐色土(10YR3/1) 締りややあり、粘性ややあり。

第55図 277・278号土坑、出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

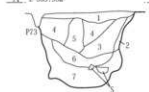
279号土坑



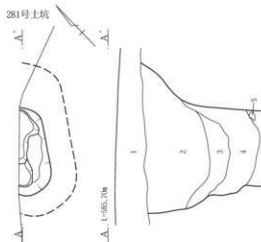
A. l=583.90m

279号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) 1~5mmの軽石粒を微含、焼土粒・ローム粒僅含、締り弱。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 1~10mmの軽石粒を微含、締り弱。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 1~15mmの軽石粒を微含、焼土粒・炭化物僅含、締り弱。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 軽石粒は3層より多め、締り弱。
5. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒、炭化物僅含、1~10mmの軽石粒を微含、締り弱、植物痕?。
6. 黒褐色土(10YR3/1) 1~5mmの軽石粒を微含、締りややあり。
7. 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック大に加え1~2mmの軽石粒を微含、締りややあり、季大の角礫数個あり。



281号土坑

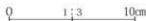


281号土坑

1. 褐色土(10YR4/6) 現表土、盛土。
2. 暗褐色土(10YR3/4)  $\phi$ 1.0~3.0m大礫含む、特に下層に多含、締りややあり、粘性ややあり。
3. 暗褐色土(10YR3/4) 褐色土含む、小礫多含、締りややあり、粘性弱。
4. 黒褐色土(10YR3/1) As-YPK少含、締りやや弱、粘性あり。
5. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒多含、締りやや弱、粘性強。



第56図 279・281号土坑、279号土坑出土遺物



土坑より新しい。床面はややしっとりしない。遺構確認面からの深さは約1.4mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。

ほぼ垂直に立ち上がり上半部ではやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。遺物は縄文時代前期後半の土器が出土している。

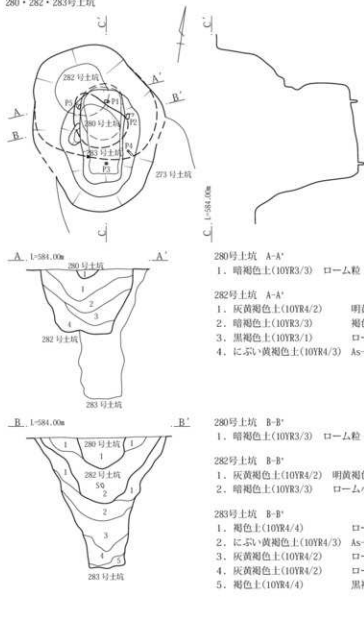
294号土坑(第60図、P L.21・74)

71区P-7・8グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸2.84m、短軸2.06m、深さ2.43m。主軸方位は、N-0°である。分類は2類。重複関係はない。床面はしっかりとしており、逆茂木と考えられるピットが4基ある。遺構確認面からの深さは約2.4mと深く、

296号土坑(第60図、P L.21)

71区S-6グリッドに位置する。形状は隅丸長方形だが、確認面では楕円形である。規模は長軸1.94m、短軸1.53m、深さ1.79m。主軸方位は、N-14°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしっとりしない。遺構確認面からの深さは約1.8mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、上半部ではやや緩やかに立ち上

280・282・283号土坑



280号土坑 A-A'

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・褐色土含む、締りややあり、粘性あり。

282号土坑 A-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 明黄褐色ローム大塊含む、締りあり、粘性あり。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土塊含む、締りややあり、粘性あり。
3. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・褐色土含む、締りややあり、粘性あり。
4. にぶい黄褐色土(10YR4/3) As-YPk含む、ローム小塊・粒含む、締りややあり、粘性あり。

280号土坑 B-B'

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・褐色土含む、締りややあり、粘性あり。

282号土坑 B-B'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 明黄褐色ローム大塊含む、締りあり、粘性あり。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム小塊・粒少含む、褐色土塊多含む、締りややあり、粘性あり。

283号土坑 B-B'

1. 褐色土(10YR4/4) ローム粒少含む、締りやや弱、粘性あり。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) As-YPk少含む、ローム粒含む、締り弱、粘性あり。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム小～中塊多含む、As-YPk含む、締り弱、粘性あり。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム10cm大塊・粒多含む、締り弱、粘性あり。
5. 褐色土(10YR4/4) 黒褐色・As-YPk含む、締りややあり、粘性強。

0 1;60 2m

第57図 280・282・283号土坑

る。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としているが、壁の崩落によるローム土も多い。

297号土坑(第61図、P L.21・74)

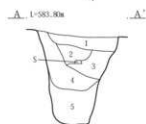
71区T-6グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.76m、短軸1.20m、深さ1.46m。主軸方位は、N-15°-Eである。分類は2類。重複関係はない。床面はしっかりしており、一部で楕円形にくぼんでいる。遺構確認面からの深さは約1.5mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、上半部では緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。壁

の崩落によるローム土の混入も多い。遺物は縄文時代前期後半から中期前半の土器が出土している。

298号土坑(第61図、P L.21・74)

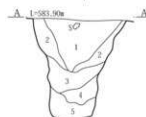
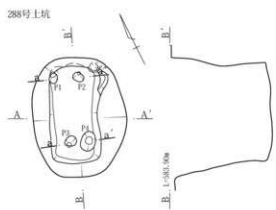
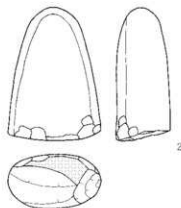
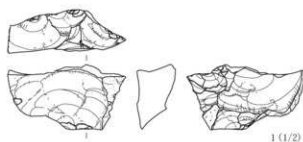
71区T-7グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸2.16m、短軸1.54m、深さ2.00m。主軸方位は、N-27°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約2.0mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。遺物は、平安時代の須恵器の坏が出土している。

第3章 検出された遺構と遺物



284号土坑

1. 褐色土(10YR3/2) ローム粒を含む、締りやや弱、粘性弱。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含む、締り弱、粘性弱。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 2層より締り弱、粘性あり。
4. 暗褐色土(10YR3/4)  $\phi 1.0 \sim 3.0\text{m}$ 大礫 含む、特に下層に多く含む、締りややあり、粘性ややあり。



288号土坑

1. 灰黄褐色土(10YR4/3) 小礫・As-YPk少含、ローム粒含む、締り弱、粘性弱。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒多含、As-YPk少含、締り弱、粘性やや弱。
3. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒少含、As-YPk微含、締り2層より弱、粘性やや弱。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒少含、締り3層より弱、粘性やや弱。
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム小塊・粒少含で厚層に多い、締り4層より弱、粘性あり。

P1・2



P3・4



P1

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒含む、締り弱、粘性ややあり。
2. 褐色土(10YR4/4) As-YPk少含、締り弱、粘性ややあり。

P2

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒含む、締り弱、粘性ややあり。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒・As-YPk少含、締り弱、粘性なし。
3. 黒褐色土(10YR3/1) As-YPk主体、締り弱、粘性なし。

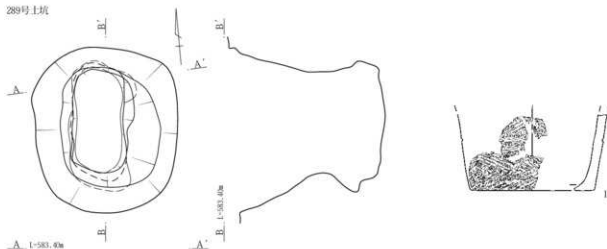
P3・4

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒含む、締り弱、粘性ややあり。



第58図 284・288号土坑、284号土坑出土遺物

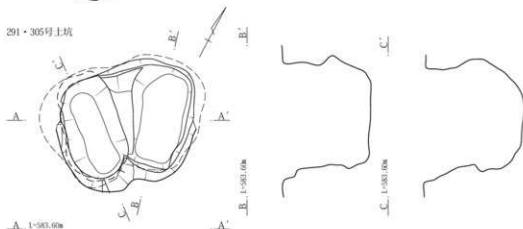
289号土坑



289号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) 暗褐色土(10YR3/3)が混じる。1～10mmの軽石粒を微含、締りややあり。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 暗褐色土(10YR3/3)が混じる。1層より軽石粒を多含、締りややあり。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 1～20mmの軽石粒を微含、境上粒も僅含、締り弱。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 軽石粒は3層より小さく少ない、締り弱。
5. 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロックが混じる。軽石粒を僅含、締りややあり、粘性ややあり。
6. 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロックが混じる、締り弱。
7. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒、ブロックが5・6層より多く混じる、締り弱。

291・305号土坑



291号土坑

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒多含、ローム約1.0cm塊少含、As-YPk微含、締りややあり、粘性弱。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム約1.0cm塊・粒微含、締りやや弱、粘性弱。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2)  $\phi$ 0.5～1.0cm As-YPk少含、締りやや弱、粘性ややあり。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒少含、締りややあり、粘性ややあり。
5. 黒褐色土(10YR3/1) 色味やや明るい、4層より締り弱、粘性あり。
6. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム大塊多含、締りややあり、粘性強。
7. にぶい黄褐色土(10YR5/3) As-YPk多含、ローム小塊・粒含む、締りあり、粘性あり。
8. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊縞状に含む、As-YPk微含、締り強、粘性ややあり。
9. 黒褐色土(10YR3/2) 9層に類似、As-YPk含む、締りやや弱、粘性強。

305号土坑

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) As-YPk含む、締りややあり、粘性あり。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム小～大塊多含、締りややあり、粘性あり。
3. 明黄褐色土(10YR7/6) ローム大塊主体、壁の崩落土、黒褐土含む、締りややあり、粘性あり。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ローム小塊・粒多少含、締り弱、粘性ややあり。
5. 明黄褐色土(10YR7/6) 12層に類似、やや黒褐色土多い、ローム大塊含む、締り弱、粘性強。
6. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム塊・粒多含、締りややあり、粘性強。

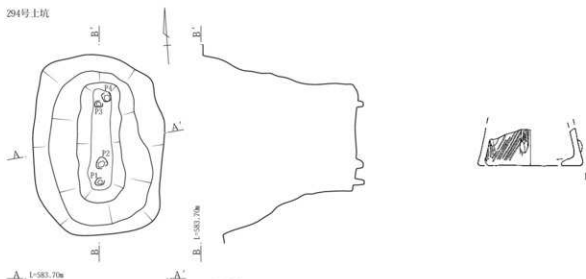
0 1:60 2m

0 1:4 10cm

第59図 289・291・305号土坑、289号土坑出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

294号土坑

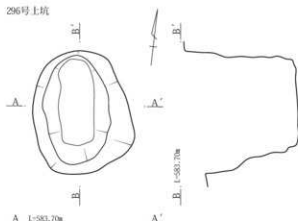


A. 1:500, 70m

294号土坑

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) ロームφ10mm塊多含、ローム粒・As-YPk含む、締りやや弱、粘性弱。小礫含む、ローム粒均質、締りやや弱、粘性弱。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 灰黄褐色土多含、As-YPk少含、締りややあり、粘性ややあり。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒少含、灰黄褐色土少含、締りあり、粘性強。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 灰黄褐色土含む、締りややあり、粘性あり。
5. 黒褐色土(10YR3/2) As-YPk微含、締りややあり、粘性強。
6. 黒褐色土(10YR2/2) As-YPk微含、礫含む、締り弱、粘性あり。
7. 黒色土(10YR2/1) 締り強、粘性あり。
8. 黒褐色土(10YR2/2) ローム小塊・粒多含、締り弱、粘性あり。
9. 黒褐色土(10YR2/2)

296号土坑



A. 1:500, 70m

296号土坑

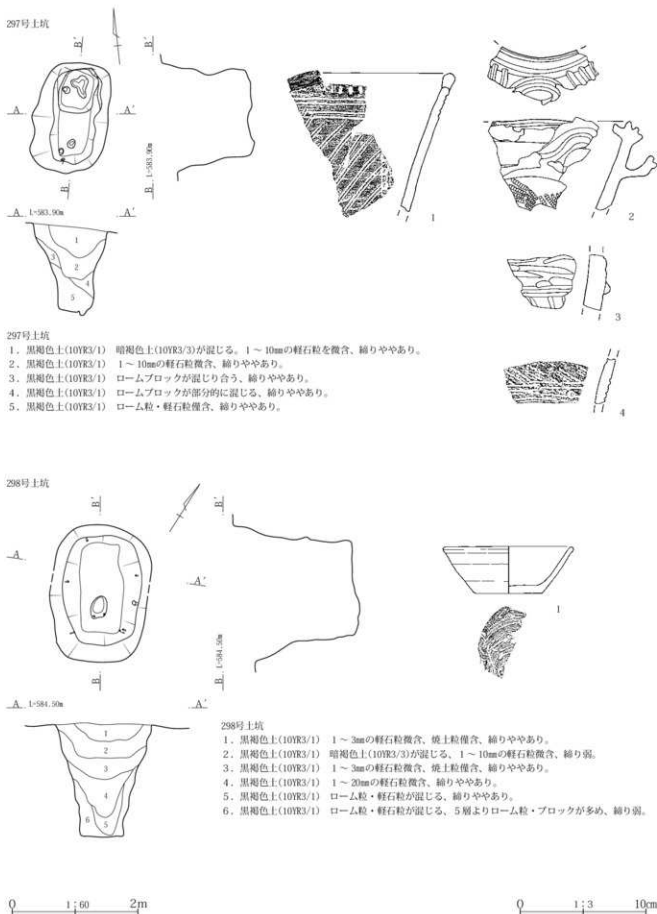
1. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム大塊多含、As-YPk含む、締りあり、粘性弱。
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) As-YPk微含、ローム粒多含、締りややあり、粘性あり。
3. 黒褐色土(10YR2/2) As-YPk微含、ローム粒少含、にぶい黄褐色土含む、締りやや弱、粘性弱。
4. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒少含、暗褐色土含む、締りややあり、粘性弱。
5. 黒褐色土(10YR3/1) 壁際にローム大塊多含、締りややあり、粘性あり。
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) 締りあり、粘性強。

0 1:60 2m

0 1:4 10cm

第60図 294・296号土坑、294号土坑出土遺物





第61図 297・298号土坑、出土遺物

299号土坑(第62図、P.L.21)

71区U-6グリッドに位置する。形状は隅丸長方形だが確認面では楕円形である。規模は長軸1.90m、短軸1.45m、深さ1.61m。主軸方位は、N-74°-Wである。分類は2類。重複関係は128・129号ピットより古い。床面はややしかりしており、両隅にピットが掘り込まれている。遺構確認面からの深さは約1.6mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、上半部で緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としているが壁の崩落によるローム土が含まれる。

300号土坑(第62図、P.L.21・74)

71区U-6グリッドに位置する。形状は隅丸長方形だが、確認面では楕円形である。規模は長軸2.22m、短軸1.94m、深さ2.03m。主軸方位は、N-9°-Eである。分類は2類。重複関係は、130号ピットより古い。床面はややしかりしない。遺構確認面からの深さは約2.0mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、上半部は緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としているが壁の崩落による。

301号土坑(第63図、P.L.22・74)

71区V-6グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.60m、短軸1.18m、深さ1.20m。主軸方位は、N-13°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしかりしている。遺構確認面からの深さは約1.2mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、上半部は緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。遺物は磨石が出土している。

302号土坑(第63図、P.L.22・75)

71区O-7・8グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸(1.82)m、短軸(1.43)m、深さ2.00m。主軸方位は、N-24°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしかりしておらず、北と南で深さが異なる。遺構確認面からの深さは2.0mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、上半部は緩やかに立ち上がる。下半部の東壁と南壁の一部はローム土がやや崩落している。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としているが、ローム土が含まれる。遺物は縄文時代中期前半

の土器が出土している。

303号土坑(第64図、P.L.22・75)

71区P-9グリッドに位置する。形状は下半部は隅丸長方形だが、確認面は隅丸方形に近い。規模は長軸(1.78)m、短軸1.68m、深さ1.18m。主軸方位は、N-30°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしかりしておらず、2段になっている。遺構確認面からの深さは約1.2mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが上半部は緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としているがローム土も少し含む。遺物は縄文時代中期後半の土器が出土している。

304号土坑(第64図、P.L.22・75)

71区P-9グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.32m、短軸0.96m、深さ0.62m。主軸方位は、N-7°-Eである。分類は2類。重複関係はない。床面はしっかりしている。遺構確認面からの深さは約0.6mと浅く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、上半部は緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。遺物は縄文時代前期前半の土器が出土している。

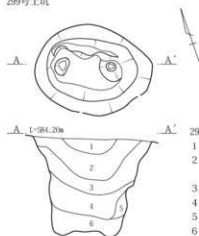
305号土坑(第59図、P.L.21)

71区N-7グリッドに位置する。形状は隅丸長方形だが、上半部は楕円形である。規模は長軸(1.68)m、短軸(0.90)m、深さ1.60m。主軸方位は、N-51°-Wである。分類は2類。重複関係は291号土坑・115号ピット・131号ピットより古い。床面はややしかりしない。遺構確認面からの深さは1.6mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としているがローム土も含む。遺物は縄文時代前期後半の土器が出土している。

306号土坑(第64図、P.L.22・75)

71区S-7グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸2.32m、短軸2.00m、深さ2.06m。主軸方位は、N-6°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしかりしない。遺構確認面からの深さは約2.1mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが上半部は緩やか

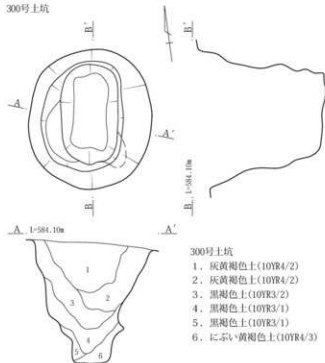
299号土坑



299号土坑

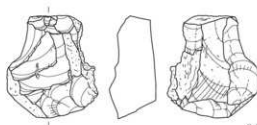
1. 黒褐色土(10YR3/1) 暗褐色土(10YR3/3)が混じる、1～10mmの軽石粒微含、締りややあり。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 暗褐色土(10YR3/3)が混じる(黒褐色土やや多め)、1～20mmの軽石粒微含、締りややあり。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 暗褐色土(10YR3/3)がわずかに混じる、1～10mmの軽石粒微含、締り弱。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 締り弱。
5. 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロックが部分的に混じる、締り弱。
6. 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロックが部分的に混じる、1～20mmの軽石粒微含、締り弱。

300号土坑



300号土坑

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-YPk  $\phi$  1 cm少含、締りやや弱、粘性弱。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-YPk  $\phi$  1 cm少含、暗褐色土塊含む、締りやや弱、粘性弱。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒少含、締りややあり、粘性あり。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ローム大塊・粒多含、壁の崩落上、締りあり、粘性強。
5. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊・粒多含、締りあり、粘性あり。
6. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム大塊主体、締りあり、粘性強。



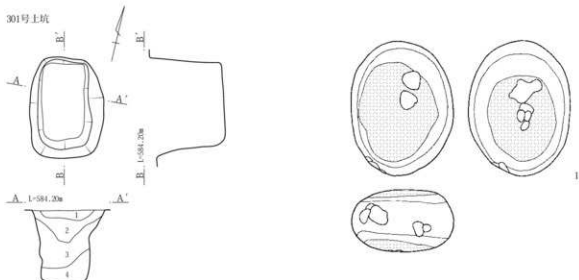
2 (1/1)

0 1:60 2m

0 1:3 10cm  
0 1:1 5cm

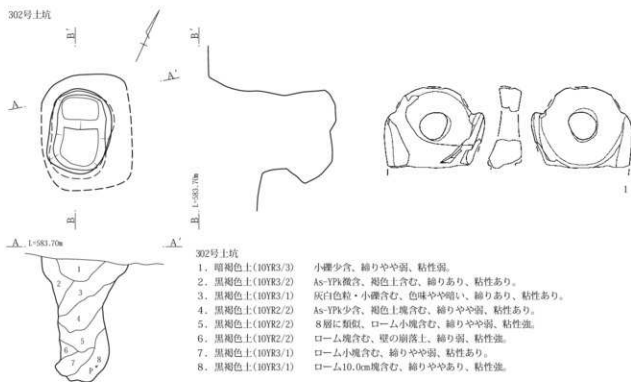
第62図 299・300号土坑、300号土坑出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



301号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) 暗褐色土(10YR3/3)が混じる。1～2mmの軽石粒微含、締りややあり。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 暗褐色土(10YR3/3)が混じる。1層より黒褐色土多め、1～5mmの軽石粒を微含、締りややあり。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 1～5mmの軽石粒微含、締り弱。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・ブロック少含、締り弱。



302号土坑

302号土坑

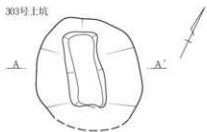
- |  |  |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 暗褐色土(10YR3/3)</li> <li>2. 黒褐色土(10YR2/2)</li> <li>3. 黒褐色土(10YR3/1)</li> <li>4. 黒褐色土(10YR2/2)</li> <li>5. 黒褐色土(10YR2/2)</li> <li>6. 黒褐色土(10YR2/2)</li> <li>7. 黒褐色土(10YR3/1)</li> <li>8. 黒褐色土(10YR3/1)</li> </ol> | <p>小礫少含、締りやや弱、粘性弱。<br/>As-YPk微含、褐色土含む、締りあり、粘性あり。<br/>灰白色粒・小礫含む、色味やや暗い、締りあり、粘性あり。<br/>As-YPk少含、褐色土塊含む、締りやや弱、粘性あり。<br/>8層に類似、ローム小塊含む、締りやや弱、粘性強。<br/>ローム塊含む、壁の崩落土、締り弱、粘性強。<br/>ローム小塊含む、締りやや弱、粘性あり。<br/>ローム10.0cm塊含む、締りややあり、粘性強。</p> |
|--|--|

0 1:60 2m

0 1:3 10cm

第63図 301・302号土坑、出土遺物

303号土坑



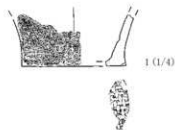
A. 1-584.50m



303号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2)
2. 黒褐色土(10YR2/2)
3. 暗褐色土(10YR3/3)
4. 暗褐色土(10YR3/3)
5. 黒褐色土(10YR3/2)
6. 灰黄褐色土(10YR4/2)
7. 黒褐色土(10YR3/1)
8. 灰黄褐色土(10YR4/2)

小～大礫多含、締りやや弱、粘性弱。  
 締りやや弱、粘性弱。  
 小礫・黄褐色粘含む、締り弱、粘性弱。  
 As-Ypk微含、ローム粘含む、締りあり、粘性あり。  
 ローム粘含む、締りあり、粘性あり。  
 ローム小塊・粒多含、締り弱、粘性ややあり。  
 As-Ypk少含、締りあり、粘性あり。  
 ローム薄移層、締りややあり、粘性弱。



304号土坑

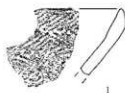


A. 1-584.10m

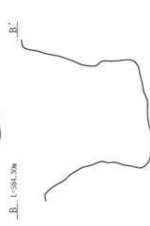
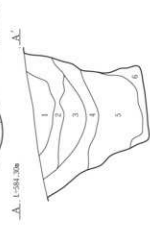


304号土坑

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3)
  2. 灰黄褐色土(10YR4/2)
  3. 黒褐色土(10YR2/2)
  4. 黒褐色土(10YR3/1)
- ローム小～大塊・黒褐色土含む、締りあり、粘性あり。  
 小～大礫多含、ローム粘含む、締りややあり、粘性弱。  
 小礫含む、締りやや弱、粘性あり。  
 ローム約10cm塊・粘含む、締り弱、粘性弱。



306号土坑



306号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1)
  2. 黒褐色土(10YR3/1)
  3. 黒褐色土(10YR3/1)
  4. 黒褐色土(10YR3/1)
  5. 黒褐色土(10YR3/1)
  6. 黒褐色土(10YR3/1)
- 暗褐色土(10YR3/3)が混じる、暗褐色土やや多め、ロームブロック・軽石ブロック多含、締りあり。  
 暗褐色土(10YR3/3)がわずかに混じる、1～10mmの軽石粒微含、締りややあり。  
 ロームブロック・軽石ブロック多含、締りややあり。  
 ローム粒・軽石粒微含、締りややあり。  
 ローム粒・軽石粒微含(4層より少なめ)、締り弱。  
 ロームブロック多含、締り弱。

0 1:60 2m

0 1:4 10cm  
0 1:3 10cm

第64図 303・304・306号土坑、出土遺物

に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。

307号土坑(第65図、P.L.22)

71区N-7グリッドに位置する。形状は隅丸方形か？規模は長軸(2.00)m、短軸(1.58)m、深さ1.50m。分類は2類。重複関係はない。床面はややしかりしない。遺構確認面からの深さは1.5mと深く、壁はハンクしており、ほぼ垂直に立ち上がり、上半部は緩やかに立ち上がっている。崩落が激しく、ローム土や軽石が多く混入している。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としているが、ローム土が多く含まれる。

308号土坑(65図、P.L.22)

71区M-8グリッドに位置する。南側が調査区域外であるため不明確であるものの、形状は隅丸方形か？規模は長軸1.52m、短軸(0.68)m、深さ1.49m。分類は2類。重複関係は分からない。床面はややしかりしない。遺構確認面からの深さは約1.5mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるものの、崩落により東と西はややハンクしている。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としているがローム土も多く含まれる。

313号土坑(第65図、P.L.23・75)

71区R-6・7グリッドに位置する。形状は隅丸長方形だが、東壁の一部が風倒木に壊されている。規模は長軸(2.60)m、短軸1.54m、深さ2.30m。主軸方位は、N-30°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしかりしない。遺構確認面からの深さは2.3mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが壁の崩落により途中でハンクしている。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としているが、崩落の影響でローム土や軽石が多く含まれる。遺物はスタンプ形石器が出土している。

314号土坑(第66図、P.L.23)

71区P-8グリッドに位置する。形状は隅丸長方形だが確認面では楕円形である。規模は長軸1.90m、短軸(1.24)m、深さ1.34m。主軸方位は、N-35°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はしっかりしている。遺構確認面からの深さは約1.3mと深く、壁はほぼ垂直

に立ち上がるが、上半部は緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。

315号土坑(第66図、P.L.23)

71区P-7グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.72m、短軸0.84m、深さ1.30m。主軸方位は、N-15°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はしっかりとしており四隅と中心部に計8基のピットが存在し、逆茂木と考えられる。遺構確認面からの深さは1.3mと深く、壁は2段でほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。

316号土坑(第67図、P.L.23)

71区O-9グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.74m、短軸0.95m、深さ0.85m。主軸方位は、N-62°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はしっかりとしており、四隅にピットが4基あり、逆茂木と考えられる。遺構確認面からの深さは約0.8mとやや深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。

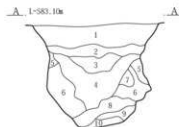
318号土坑(第67図、P.L.23・75)

62区O-16グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.71m、短軸0.73m、深さ0.89m。主軸方位は、N-45°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はしっかりしている。遺構確認面からの深さは約0.9mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。遺物は縄文時代前期前半と中期前半の土器が出土している。

321号土坑(第67図、P.L.23)

71区V-3グリッドに位置する。形状は南側が調査区域外にのびるが、隅丸長方形と推定される。規模は長軸(1.55)m、短軸0.82m、深さ0.79m。主軸方位は、N-30°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしかりしない。遺構確認面からの深さは約0.8mとやや深く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。

307号土坑



307号土坑

1. 灰黄褐色土(10YR4/2)
2. 灰黄褐色土(10YR4/2)
3. 暗褐色土(10YR3/3)
4. 暗褐色土(10YR3/3)
5. 黒褐色土(10YR3/1)
6. 明黄褐色土(10YR6/6)
7. 黒褐色土(10YR3/1)
8. にぶい黄褐色土(10YR5/3)
9. 黒褐色土(10YR3/2)
10. 黒褐色土(10YR3/2)

概見。

- ローム大塊・小礫含む、締り弱、粘性弱。
- 褐色土含む、小礫・As-YPK少含、締り弱く崩れやすい、粘性弱。
- 褐色土・ローム粒・As-YPKを含む、締りあり、粘性あり。
- ローム大塊含む、締りあり、粘性あり。
- ローム主體、壁の崩落、締り弱、粘性あり。
- ローム大塊多含、締りやや弱、粘性強。
- As-YPK多含、ローム小塊・粒含む、締りあり、粘性あり。
- ローム塊結状を含む、As-YPK微含、締り強、粘性ややあり。
- 9層に類似、As-YPK含む、締りやや弱、粘性強。

308号土坑

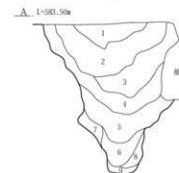
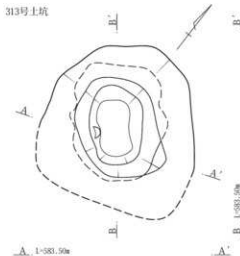


308号土坑

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3)
2. 黒褐色土(10YR3/1)
3. 黒褐色土(10YR3/1)

- ローム粒多含、締り弱、粘性弱。
- ローム粒1層より少含、締り弱、粘性弱。
- ローム大塊含む、締り弱、粘性弱。

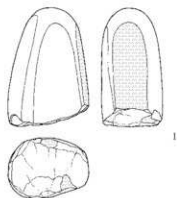
313号土坑



313号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3)
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)
3. 黒褐色土(10YR3/2)
4. 黒褐色土(10YR3/2)
5. 黒褐色土(10YR3/1)
6. 褐灰色土(10YR4/1)
7. 褐色土(10YR4/4)
8. As-YPK層
9. 褐灰色土(10YR4/1)

- As-YPK少含、にぶい黄褐色土含む、締り弱、粘性弱。
- φ約1.0cm As-YPK多含、ローム小塊・粒少含、締り強、粘性弱。
- φ約1.0～3.0cm As-YPK 2層より多含、締りやや弱、粘性弱。
- As-YPK少含、小礫含む、締りやや弱、粘性あり。
- ローム粒少含、締り弱、粘性弱。
- As-YPK少含、締り弱、粘性あり。
- ローム約5.0cm塊含む、締りやや弱、粘性強。
- 壁面の崩落。
- As-YPK塊状に多含、締り弱、粘性あり。



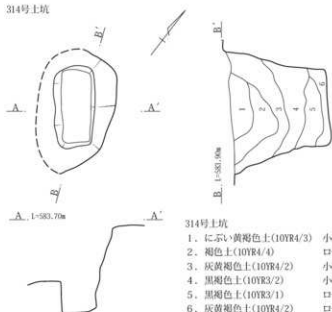
0 1:60 2m

0 1:3 10cm

第65図 307・308・313号土坑、313号土坑出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

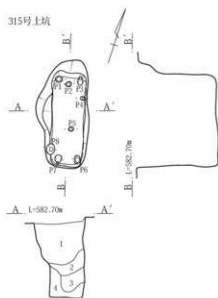
#### 314号土坑



#### 314号土坑

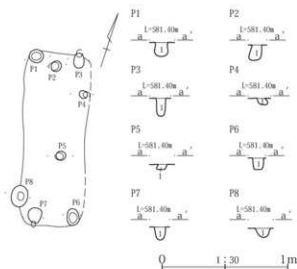
1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 小礫多含、ローム小〜大塊含む、締りやや弱、粘性弱。
2. 褐色土(10YR4/4) ローム大塊・小礫含む、締りあり、粘性弱。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 小礫少含、ローム粒含む、締り弱、粘性弱。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 小礫微含、ローム粒含む、締り1〜3層より弱、粘性なし。
5. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒少含、小礫微含、締りやや弱、粘性ややあり。
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム小〜大塊・粒多含、締りやや弱、粘性強。

#### 315号土坑



#### 315号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒微含、締り弱。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒は1層より多い、締り弱。
3. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒、軽石ブロックは2層より多め、締り弱。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロックを多含、締り弱。



#### P1~4

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒含む、締り弱、粘性あり。

#### P5・7・8

1. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 黒褐色土含む、締り弱、粘性あり。

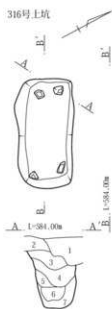
#### P6

1. 黒褐色土(10YR3/1) As-YPK含む、締り弱、粘性あり。

0 1:60 2m

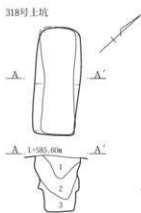
第66図 314・315号土坑





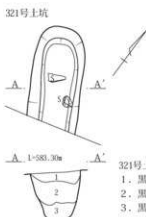
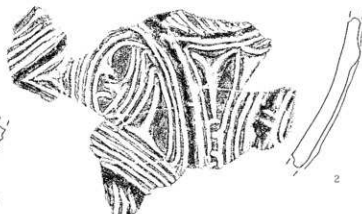
316号土坑

1. 褐色土(10YR3/1) 褐色土(10YR3/3)がわずかに混じる、1～20mmのローム粒多含、締りややあり。
2. 黒褐色土(10YR3/1) As-YPk少含、締りあり、粘性あり。
3. 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土含む、As-YPk・ローム小塊少含、締り弱、粘性弱。
4. 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・小塊少含、締り弱、粘性弱。
5. 黒褐色土(10YR3/2) 5層よりローム粒多含、締り弱、粘性ややあり。
6. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒多含、締りややあり、粘性強。
7. 黒褐色土(10YR3/1) ローム約5.0～10.0cm塊上体、ローム粒多含、締りやや弱、粘性弱くサラサラした質感。



318号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 1～5mmの軽石粒少含、締りあり。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 1～30mmの軽石粒少含、締りあり。
3. 暗褐色土(10YR3/3) 1～5mmの軽石粒微含、締りややあり、粘性ややあり。



321号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) 暗褐色土(10YR3/3)がわずかに混じる、1～20mmのローム粒多含、締りややあり。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 1～10mmのローム粒微含(1層より少なめ)、締りややあり。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 1～5mmのローム粒微含、締りややあり。



第67図 316・318・321号土坑、318号土坑出土遺物

322号土坑(第68図、P L.23・75)

71区V・W-3グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.53m、短軸0.80m、深さ1.26m。主軸方位は、N-76°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしつかりしない。遺構確認面からの深さは約1.3mと深く壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。遺物は縄文時代中期前半の土器と磨石が出土している。

323号土坑(第68図、P L.23)

71区W・X-4グリッドに位置する。形状は隅丸方形。規模は長軸(1.53)m、短軸(1.28)m、深さ1.10m。分類は2類。重複関係は329号土坑と重複。床面はややしつかりしない。遺構確認面からの深さは約1.1mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。

325号土坑(第68図、P L.23.24・75)

71区W-5グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.95m、短軸1.11m、深さ1.09m。主軸方位は、N-20°-Wである。分類は2類。重複関係は330号土坑より古い。床面はややしつかりしない。遺構確認面からの深さは約1.1mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。遺物は縄文時代前期後半の土器が出土している。

326号土坑(第68図、P L.24・75)

71区V-3グリッドに位置する。形状は隅丸方形。規模は長軸1.53m、短軸1.18m、深さ0.73m。分類は2類。重複関係は187号ピットより新しい。床面はややしつかりしない。遺構確認面からの深さは約0.7mとやや深く、壁は垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。遺物は縄文時代前期前半の土器が出土している。

328号土坑(第69図、P L.24・75)

71区W-3・4グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸2.11m、短軸1.69m、深さ1.34m。主軸方位は、N-83°-Eである。分類は2類。重複関係はない。床面はしっかりしている。遺構確認面からの深さは約1.3

mと深く、壁は2段でほぼ垂直に立ち上がるが、上半部は緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。遺物は縄文時代前期後半の土器が出土している。

329号土坑(第69図、P L.24・75)

71区W・X-4グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸3.12m、短軸2.93m、深さ2.64m。主軸方位は、N-3°-Wである。分類は2類。重複関係は323号土坑と重複。床面はややしつかりしない。遺構確認面からの深さは約2.6mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが壁の途中で崩落でハンクしている。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。遺物は縄文時代前期前半の土器が出土している。

330号土坑(第70図、P L.24)

71区W・X-4・5グリッドに位置する。形状は隅丸長方形だが確認面では楕円形である。規模は長軸2.87m、短軸(2.38)m、深さ2.16m。主軸方位は、N-69°-Wである。分類は2類。重複関係は325号土坑より新しい。床面はややしつかりしない。遺構確認面からの深さは約2.2mと深く、壁は2段に立ち上がるが、上半部は緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層を中心としている。

331号土坑(第70図、P L.24)

71区X-3・4グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸2.58m、短軸1.90m、深さ2.44m。主軸方位は、N-37°-Eである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしつかりしない。遺構確認面からの深さは約2.4mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、上半部は緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層を中心としている。

333号土坑(第71図、P L.24)

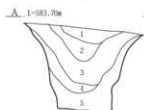
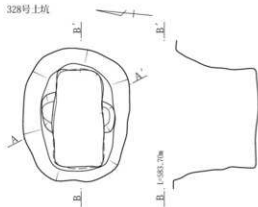
72区I-3グリッドに位置する。形状は隅丸長方形だが確認面では楕円形に近い。規模は長軸2.10m、短軸1.42m、深さ0.71m。主軸方位は、N-70°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしつかりしない。遺構確認面からの深さは約0.7mと浅く、壁は緩やかに



第68図 322・323・325・326号土坑、322・325・326号土坑出土遺物

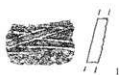
### 第3章 検出された遺構と遺物

328号土坑

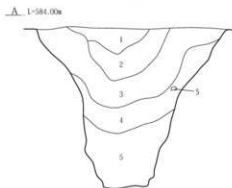
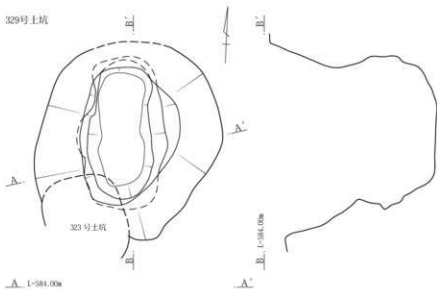


328号土坑

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黒褐色土(10YR3/1)が混じり合う(比率5:5)、1~5mmの軽石粒少含、炭化物微含、締りややあり。
2. 黒褐色土(10YR3/1) にぶい黄褐色土(10YR4/3)が部分的に混じる(比率8:2)、1~10mmの軽石粒微含、締りややあり。
3. 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロックが多含、締りややあり、粘性ややあり。
4. 黒褐色土(10YR3/1) にぶい黄褐色土(10YR4/3)が混じり合う(比率5:5)、締りややあり、粘性ややあり。
5. 黒褐色土(10YR3/1) にぶい黄褐色土(10YR4/3)が部分的に混じる(比率9:1)、1~10mmの軽石粒微含、締りややあり、粘性ややあり。



329号土坑



329号土坑

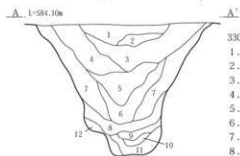
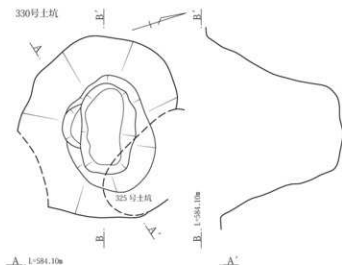
1. 黒褐色土(10YR3/1) にぶい黄褐色土(10YR4/3)がブロック状に部分的に混じる、1~5mmの軽石粒微含、締りややあり。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロックが部分的に混じる、1~10mmの軽石粒少含、締りややあり。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黒褐色土(10YR3/1)がわずかに混じる、1~10mmの軽石粒微含、締りややあり。
4. 黒褐色土(10YR3/1) にぶい黄褐色土(10YR4/3)が部分的に混じる、1~10mmの軽石粒微含、締り弱。
5. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・ブロックが部分的に混じる、1~5mmの軽石粒少含、締り弱、粘性ややあり、壁の崩れか？。



0 1:60 2m

0 1:3 10cm

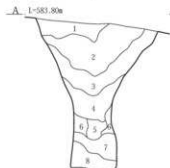
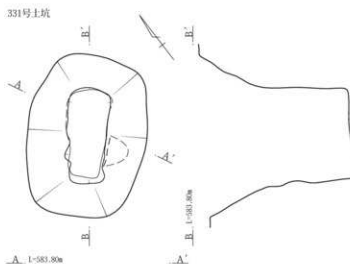
第69図 328・329号土坑、出土遺物



330号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2)
2. 灰黄褐色土(10YR4/2)
3. 黒褐色土(10YR3/1)
4. 灰黄褐色土(10YR4/2)
5. 黒褐色土(10YR3/1)
6. 黒褐色土(10YR3/1)
7. 黒色土(10YR2/1)
8. 黒色土(10YR2/1)
9. にぶい黄褐色土(10YR5/4)
10. 黒褐色土(10YR3/2)
11. 黒褐色土(10YR3/1)
12. 黒褐色土(10YR3/1)

ローム粒多含、ローム小塊少含、締り弱、粘性あり。  
ローム大塊主体、締り弱、粘性弱。  
1層よりローム粒多含、ローム小塊微含、締り弱、粘性ややあり。  
ローム約1.0～10.0cm大塊多含、ローム粒少含、締りあり、粘性強。  
ローム粒均質、炭化物約1.0cm塊含む、締りややあり、粘性あり。  
炭化物微含、5層よりローム粒少含、締り弱、粘性強。  
暗褐色土含む、締りややあり、粘性強。  
壁際に崩落したローム大塊含む、締りやや弱、粘性強。  
As-YPk含む、崩落したローム塊含む、締り強、粘性強。  
ローム約1.0cm塊多含、締りやや弱、粘性強。  
ローム約1.0～3.0cm塊多含、締り弱、粘性強。  
11層に類似、ローム約5.0～10.0cm塊多含、締り弱、粘性強。



331号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3)
2. 灰黄褐色土(10YR4/3)
3. 灰黄褐色土(10YR3/1)
4. 黒褐色土(10YR3/1)
5. 黒褐色土(10YR3/2)
6. 黒褐色土(10YR3/1)
7. 黒褐色土(10YR3/2)
8. 黒褐色土(10YR3/2)

焼土粒含む、ローム小塊・炭化物少含、締りあり、粘性あり。  
As-YPk多含、ローム約10.0～15.0cm塊多含、黒褐色土塊含む、締りややあり、粘性あり。  
灰黄褐色土塊含む、ローム小塊微含、締りあり、粘性あり。  
3層に類似、色味やや暗い、締りあり、粘性あり。  
ローム大塊は壁からの崩落、締り弱、粘性あり。  
ローム粒多含、締り弱、粘性あり。  
ローム約1.0cm塊多含、にぶい黄褐色土塊含む、締りややあり、粘性強。  
7層よりローム大塊・粒多含、締りややあり、粘性強。

0 1:60 2m

第70図 330・331号土坑

立ち上がる。土坑西半分はハングしている。埋没土は基本土層の第Ⅲ層を中心としている。浅いことから陥し穴か。

336号土坑(第71図、P.L.24)

72区I・J-2グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.58m、短軸0.94m、深さ1.32m。主軸方位は、N-43°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約1.3mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、途中で壁の崩落でハングしている。埋没土は基本土層の第Ⅲ層を中心としている。

340号土坑(第71図、P.L.25)

71区V-4グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.98m、短軸1.01m、深さ1.02m。主軸方位は、N-25°-Wである。分類は2類。重複関係は356号土坑より新しい。床面はしっかりしており、ほぼ中央にピットが1基、逆茂木と考えられる。遺構確認面からの深さは約1.0mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。

344号土坑(第71図、P.L.25)

72区F-2グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.73m、短軸0.86m、深さ1.14m。主軸方位は、N-41°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はしっかりしており、北側に長方形の浅いくぼみがある。遺構確認面からの深さは約1.1mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層から第Ⅴ層を中心としている。

345号土坑(第72図、P.L.25)

62区I-25グリッドに位置する。形状は楕円形か、西壁の一部が調査区域外に延びている。規模は長軸1.44m、短軸(0.97)m、深さ1.26m。主軸方位は、N-38°-Eである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約1.3mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。

346号土坑(第72図、P.L.25)

62区K-21・22グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸1.05m、短軸0.65m、深さ1.28m。主軸方位は、N-14°-Eである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約1.3mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層を中心としている。陥し穴として、規模がやや小さい。

347号土坑(第72図、P.L.25・75)

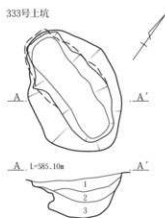
72区H-3グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸2.50m、短軸1.50m、深さ1.50m。主軸方位は、N-12°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは1.5mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、西壁と南壁の一部が崩落でハングしている。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。遺物は縄文時代中期前半と晩期後半の土器、それに縄文石器の削器が出土している。

351号土坑(第73図、P.L.25・75)

72区G-4・5グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.66m、短軸0.77m、深さ0.46m。主軸方位は、N-15°-Eである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.5mと浅く、壁は2段でほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層を中心としている。確認面からの深さ、規模で遺物は砥石が出土している。

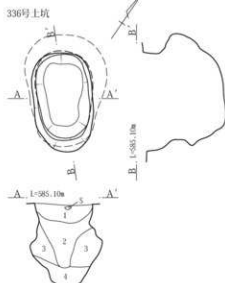
352号土坑(第73図、P.L.25)

71区V・W-2・3グリッドに位置する。形状は隅丸長方形か？南半分以上が調査区域外に延びる。規模は長軸2.27m、短軸(0.90)m、深さ2.09m。主軸方位は、N-72°-Eである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約2.1mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、上半部は緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅳ層から第Ⅴ層を中心としている。



333号土坑

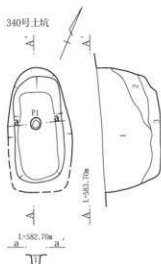
1. 黒褐色土(10YR3/1) 1～10mmの軽石粒微含、ローム粒僅含、締りややあり、粘性ややあり。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 1～10mmの軽石粒少含、ローム粒・ブロックが部分的に混じる、締りややあり、粘性ややあり。
3. 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック・軽石ブロックが混じり合う(ロームやや多め)、締りややあり、粘性ややあり。



336号土坑

336号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) にふい黄褐色土(10YR4/3)が部分的に混じる、1～20mmの軽石粒微含、締りややあり、粘性ややあり。
2. 黒褐色土(10YR3/1) にふい黄褐色土(10YR4/3)がわずかに混じる、1～10mmの軽石粒少含、締りややあり、粘性ややあり。
3. 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック・軽石ブロック多含、締りややあり、粘性ややあり。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒や軽石粒が混じる(比率8:1:1)、締りややあり、粘性ややあり。

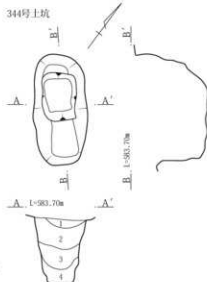


340号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム約1.0m塊均質、人為的埋没上、締りあり、粘性あり。
2. 黒褐色土(10YR3/4) 色味やや明るい、締りややあり、粘性あり。
3. にふい黄褐色土(10YR4/2) ローム約1.0～3.0m大塊多含、ローム粒多含、締り弱、粘性あり。

P1

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム小塊・粒多含、炭化物含む、締り弱、粘性あり。



344号土坑

344号土坑

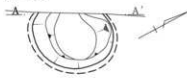
1. 暗褐色土(10YR3/3) 1～10mmの軽石粒微含、締りややあり。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 1～10mmの軽石粒微含、締りややあり。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 1～10mmの軽石粒少含(2層よりやや多め)、締りややあり。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒、ブロック多含、締りややあり。

0 1:60 2m

第71図 333・336・340・344号土坑

### 第3章 検出された遺構と遺物

345号土坑



A-A' L=984.50m



345号土坑

1. 赤褐色土(5YR4/4) 黒褐色土(10YR3/1)が部分的に混じる(比率9:1)、1~10mmの軽石粒少含、締りややあり。
2. 赤褐色土(5YR4/4) 黒褐色土(10YR3/1)が混じり合う(比率5:5)、1~10mmの軽石粒少含、締りあり。
3. 赤褐色土(5YR4/4) 黒褐色土(10YR3/1)が混じり合う(比率3:7)、1~5mmの軽石粒微含、締りややあり。
4. 赤褐色土(5YR4/4) 黒褐色土(10YR3/1)が混じり合う(比率8:2)、1~5mmの軽石粒微含、締りややあり。
5. 黒褐色土(10YR3/1) に赤褐色土(5YR4/4)が部分的に混じる(比率9:1)、1~5mmの軽石粒微含、締りややあり。
6. 赤褐色土(5YR4/4) 1~30mmの軽石粒が部分的に混じる、締りややあり。
7. 赤褐色土(5YR4/4) 黒褐色土(10YR3/1)と軽石ブロックが混じり合う、締りややあり、粘性ややあり。

346号土坑



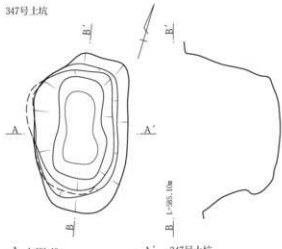
A-A' L=986.60m



346号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) 1~10mmの軽石粒を微含、締りややあり、粘性ややあり。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 焼土粒微含、1~5mmの軽石粒少含、締りややあり、粘性ややあり。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 1~5mmの軽石粒微含、締りややあり、粘性ややあり。

347号土坑

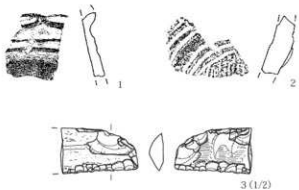


A-A' L=985.10m



347号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) に赤褐色土(10YR4/3)が部分的に混じる、焼土粒もわずかに混じる、1~20mmの軽石粒少含、締りややあり、粘性ややあり。
2. 赤褐色土(10YR4/3) 黒褐色土(10YR3/1)が部分的に混じる、1~5mmの軽石粒少含、締りややあり。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 1~20mmの軽石粒微含、締りややあり、粘性ややあり。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロックが部分的に混じる(比率8:2)、締りややあり。
5. 黄色(2.5Y8/6) 黒褐色土(10YR3/1)がわずかに混じる(比率9:1)、締りあり。
6. 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロックが部分的に混じる(比率5:5)、締りややあり。
7. 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック・軽石粒が混じり合う(比率7:2:1)、締りややあり、粘性あり。



0 1:60 2m

0 1:2 5cm  
0 1:3 10cm

第72図 345~347号土坑、347号土坑出土遺物



## 353号土坑(第73図、P.L.25・26)

71区Y-4グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸2.22m、短軸(1.85)m、深さ2.32m。主軸方位は、N-4°-Eである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしかりしておらず、南北の2か所に長方形のくぼみをもつ。遺構確認面からの深さは約2.3mと深く、北壁はほぼ垂直に立ち上がるが南壁は、緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。

## 354号土坑(第73図、P.L.26)

71区V-4グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.55m、短軸0.97m、深さ1.23m。主軸方位は、N-82°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はしっかりしている。遺構確認面からの深さは約1.2mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。

## 356号土坑(第74図、P.L.26)

71区V-4グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.87m、短軸0.83m、深さ0.94m。主軸方位は、N-84°-Wである。分類は2類。重複関係は340号土坑より古い。床面はしっかりしている。遺構確認面からの深さは約0.9mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。

## 360号土坑(第74図、P.L.26)

71区E-3グリッドに位置する。南壁の一部が調査出来ただけで、大部分は調査区域外である。形状は隅丸長方形か？規模は長軸0.85m、短軸(0.38)m、深さ0.94m。主軸方位は、N-38°-Wである。分類2類。重複関係は不明。床面はしっかりしている。遺構確認面からの深さは約0.9mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。

## 364号土坑(第75図、P.L.26・75)

71区V-5グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸(1.60)m、短軸1.10m、深さ1.08m。主軸方位は、N-0°である。分類は2類。重複関係は365号土坑より新しい。床面はややしかりしない。遺構確認

面からの深さは約1.1と深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、上半部は緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。遺物は縄文時代中期前半の土器が出土している。

## 365号土坑(第75図、P.L.26・75)

71区V-5グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸(1.95)m、短軸1.68m、深さ1.00m。主軸方位は、N-8°-Wである。分類は2類。重複関係は364号土坑より古い。床面はややしかりしておらず、特に南側が浅くくぼんでいる。遺構確認面からの深さは約1.0mと深く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。遺物は縄文時代中期前半の土器が出土している。

## 366号土坑(第75図、P.L.26)

71区W-5グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.87m、短軸1.11m、深さ1.20m。主軸方位は、N-5°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしかりしない。遺構確認面からの深さは約1.2mと深く、壁は2段にほぼ垂直に立ち上がるが一部に崩落が認められる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。

## 367号土坑(第75図、P.L.26・75)

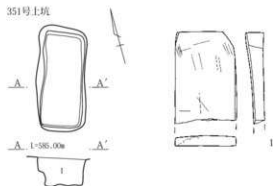
71区W・X-5グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.56m、短軸0.94m、深さ0.82m。主軸方位は、N-60°-Eである。分類は2類。重複関係はない。床面はしっかりしているが、壁際にビット3基があり、逆茂木と考えられる。遺構確認面からの深さは約0.8mとやや深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが上半部は緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。遺物は縄文時代中期後半の土器が出土している。

## 369号土坑(第76図、P.L.26・27)

71区Y-5グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.62m、短軸0.98m、深さ1.04m。主軸方位は、N-3°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしかりしておらず、中央部が浅くくぼんで

### 第3章 検出された遺構と遺物

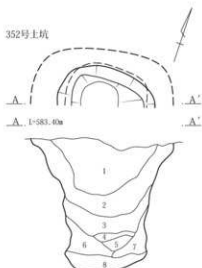
351号土坑



351号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム約3.0～5.0cm塊多含、締りややあり、粘性あり、人為的埋没上。

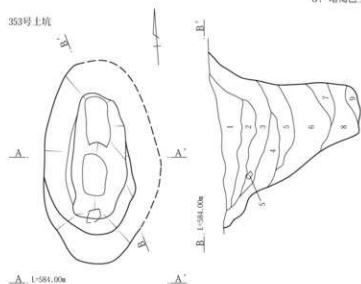
352号土坑



352号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) As-YPK多含、締りややあり、粘性弱。  
 2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒少含、As-YPK微含、締りややあり、粘性弱。  
 3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム小～大塊多含、締り弱、粘性強。  
 4. 明黄褐色土(10YR6/6) ローム塊主体、締りあり、粘性強。  
 5. 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒多含、締り弱、粘性強。  
 6. 暗褐色土(10YR3/3) ローム大塊・粒多含、締り弱、粘性強。  
 7. 明黄褐色土(10YR6/6) 8層に類似、壁面のローム崩落上、締り弱、粘性あり。  
 8. 暗褐色土(10YR3/2) As-YPK細粒含む、締り弱、粘性あり。

353号土坑



A. 1.584.00m

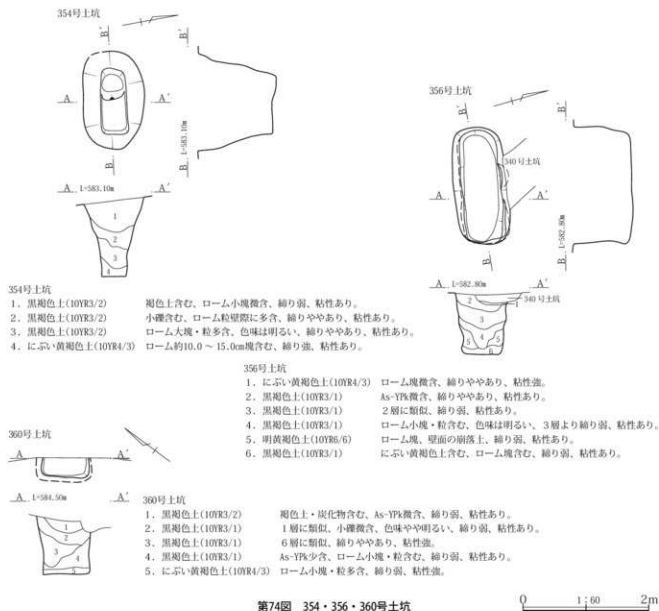
353号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) As-YPK少含、褐色土含む、締り弱、粘性あり。  
 2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊主体、黒色土塊含む、締りややあり、粘性あり。  
 3. 黒褐色土(10YR3/1) 小礫含む、暗褐色土塊少含、As-YPK微含、締りやや弱、粘性強。  
 4. 暗褐色土(10YR3/3) As-YPK 9層より多含、締りややあり、粘性あり。  
 5. 黒褐色土(10YR3/1) 暗褐色土少含、締りややあり、粘性あり。  
 6. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒下層に多含、色味やや明るい、締りあり、粘性強。  
 7. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム小塊・粒多含、黒褐色土小塊含む、締り弱、粘性強。  
 8. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 底部にAs-YPK多含、暗褐色土含む、締り弱、粘性強。  
 9. にぶい黄褐色土(10YR4/3) As-YPK多含、色味は明るい、締り弱、粘性強。

0 1:60 2m

0 1:2 5cm

第73図 351～353号土坑、351号土坑出土遺物



第74図 354・356・360号土坑

遺構確認面からの深さは約1.0mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。

#### 374号土坑(第76図、P.L.27)

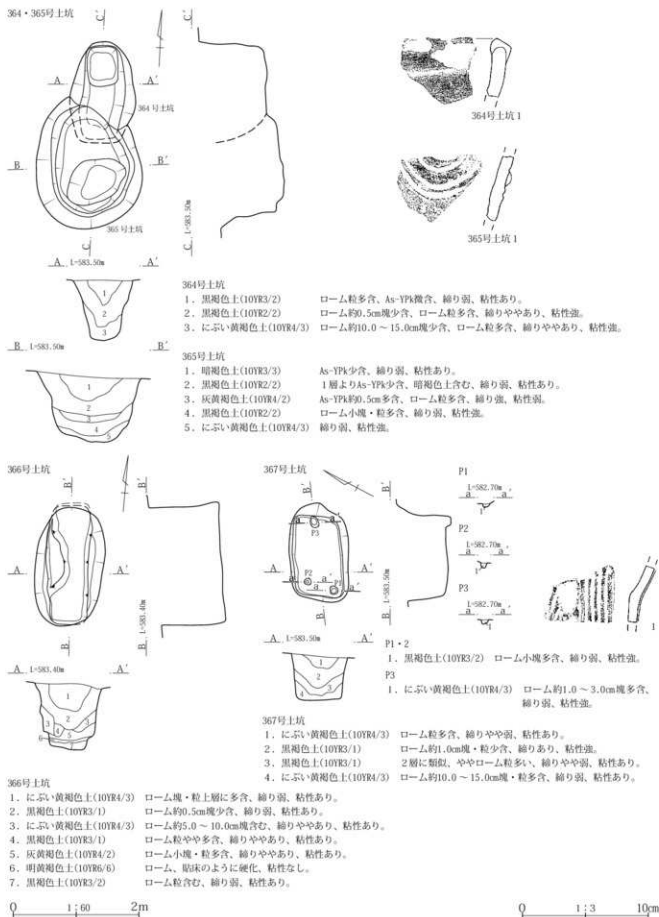
62区S-9・10グリッドに位置する。確認時に東にはげしく傾斜している。形状は底部では隅丸長方形だが、確認面では楕円形である。規模は長軸1.74m、短軸1.58m、深さ1.28m。主軸方位は、N-21°-Eである。分類は2類。重複関係は、373号土坑より古い。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約1.3mと深く、壁は下半部ではほぼ垂直に立ち上がるが、一部は崩落でハンクしており、上半部は緩やかに立ち上がる。埋

没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。

#### 375号土坑(第76図、P.L.27)

62区S-10グリッドに位置する。確認時に東に傾斜している。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.60m、短軸0.92m、深さ0.90m。主軸方位は、N-63°-Eである。分類は2類。重複関係は206号ピットと重複し、新旧関係は205号ピットより古い。床面はややしっかりしておらず、北と南でそれぞれ浅くくぼんでいる。遺構確認面からの深さは約0.9mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。

第3章 検出された遺構と遺物



第75図 364～367号土坑、364・365・367号土坑出土遺物

## 381号土坑(第76図、P.L.27)

62区T・U-7・8グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.80m、短軸1.00m、深さ1.06m。主軸方位は、N-43°-Wである。分類は2類。重複関係は380号土坑より古い。床面はしっかりしている。遺構確認面からの深さは約1.1mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、上半部は緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層から第V層を中心としている。

## 384号土坑(第77図、P.L.27・75)

62区V・W-1グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.76m、短軸0.88m、深さ0.90m。主軸方位は、N-72°-Eである。分類は2類。重複関係は8号集石。床面はややしかりしない。遺構確認面からの深さは0.9mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、東壁と南壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第III層から第IV層を中心としている。遺物は縄文時代晩期後半の土器が出土している。

## 391号土坑(第77図、P.L.27)

62区T・U-9グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.58m、短軸1.18m、深さ1.34m。主軸方位は、N-13°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしかりしない。遺構確認面からの深さは約1.3mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層から第V層を中心としている。

## 396号土坑(第77図、P.L.27・75)

62区W-6・7グリッドに位置する。形状は隅丸長方形だが確認面では楕円形である。規模は長軸1.86m、短軸1.30m、深さ1.10m。主軸方位は、N-25°-Wである。分類は2類。重複関係は395号土坑より古い。床面はややしかりしない。遺構確認面からの深さは1.1mと深く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第III層から第IV層を中心としている。遺物は縄文時代後期の土器と叢石と磨石が出土している。

## 397号土坑(第78図、P.L.27・75)

62区T・U-6・7グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸2.43m、短軸(1.48)m、深さ1.55m。

主軸方位は、N-37°-Wである。分類は2類。重複関係は393・401号土坑と重複。新旧関係は398号土坑より古い。床面はしっかりしている。遺構確認面からの深さは約1.6mと深く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第III層から第IV層を中心としている。遺物は縄文時代後期の土器が3点出土している。

## 400号土坑(第78図、P.L.28・75)

62区V-6・7グリッドに位置する。形状は隅丸長方形だが確認面では楕円形である。規模は長軸2.20m、短軸1.90m、深さ1.27m。主軸方位は、N-19°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はややしかりしないが、四隅にピット5基があり、逆茂木と考えられる。遺構確認面からの深さは約1.3mと深く、北壁はほぼ垂直に立ち上がるが、南壁は緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第III層から第IV層を中心としている。遺物は縄文時代中期前半の土器が出土している。

## 407号土坑(第79図、P.L.28)

63区B-1グリッドに位置する。北側が傾斜によって壊されているが、形状は隅丸長方形と推定される。規模は長軸(0.99)m、短軸0.92m、深さ0.67m。主軸方位は、N-28°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はしっかりしている。遺構確認面からの深さは約0.7mとやや深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第III層から第IV層を中心としている。

## 408号土坑(第79図、P.L.28・75)

62区Y-2・3グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸2.70m、短軸2.02m、深さ1.64m。主軸方位は、N-16°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はしっかりしている。遺構確認面からの深さは約1.6mと深く、壁は緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第III層から第IV層を中心としている。埋没の途中で石が投げ込まれている。遺物は縄文時代後期の土器が出土している。

## 421号土坑(第79図、P.L.28・75)

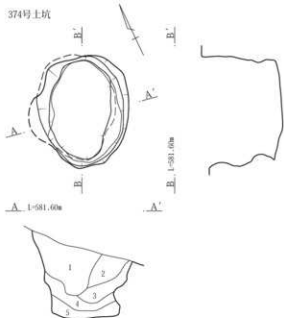
62区V-5・6グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.68m、短軸1.05m、深さ0.65m。主軸

第3章 検出された遺構と遺物



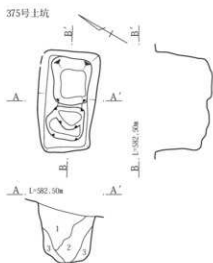
369号土坑

- |                   |                         |
|-------------------|-------------------------|
| 1. 黒褐色土(10YR3/2)  | As-YPk微含、小礫含む、締り弱、粘性あり。 |
| 2. 黒褐色土(10YR3/1)  | As-YPk少含、締りあり、粘性あり。     |
| 3. 黒褐色土(10YR3/1)  | 5層に類似、ローム粒少含、締り弱、粘性強。   |
| 4. 黒褐色土(10YR3/1)  | ローム大塊含む、締りあり、粘性強。       |
| 5. 黒褐色土(10YR3/2)  | ローム約1.0cm塊・粒多含、締り弱、粘性強。 |
| 6. 明黄褐色土(10YR6/6) | ローム層、締り強、粘性弱。           |
| 7. 黒褐色土(10YR3/1)  | ローム塊・粒多含、締り弱、粘性強。       |
| 8. 黒色土(10YR2/1)   | ローム粒含む、締り弱、粘性強。         |



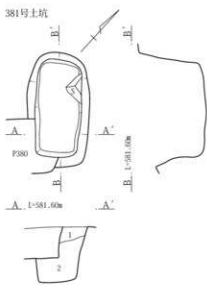
374号土坑

- |                     |                                     |
|---------------------|-------------------------------------|
| 1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) | As-YPk多含、小礫少含、ローム小塊・粒多含、締りあり、粘性あり   |
| 2. 黒褐色土(10YR3/1)    | ローム小塊少含、褐色土含む、締りややあり、粘性あり。          |
| 3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) | 2層に類似、As-YPk微含、ローム粒多含、締りやや弱、粘性あり。   |
| 4. にぶい黄褐色土(10YR5/4) | As-YPk少含、ローム粒均質、黒褐色土塊少含、締りやや弱、粘性あり。 |
| 5. 黄褐色土(10YR5/6)    | ローム大塊・にぶい黄褐色土含む、締りやや弱、粘性あり。         |



375号土坑

- |                  |  |
|------------------|--|
| 1. 暗褐色土(10YR3/3) | 黒褐色土塊左壁間に含む、As-YPk少含、ローム小塊・粒多含、締りややあり、粘性あり。        |
| 2. 暗褐色土(10YR3/4) | ローム約5.0～10.0cm塊少含、As-YPk・小礫少含、黒褐色土塊含む、締りややあり、粘性あり。 |
| 3. 暗褐色土(10YR3/4) | 黒褐色土塊少含、As-YPk・ローム粒少含、締り弱、粘性あり。                    |

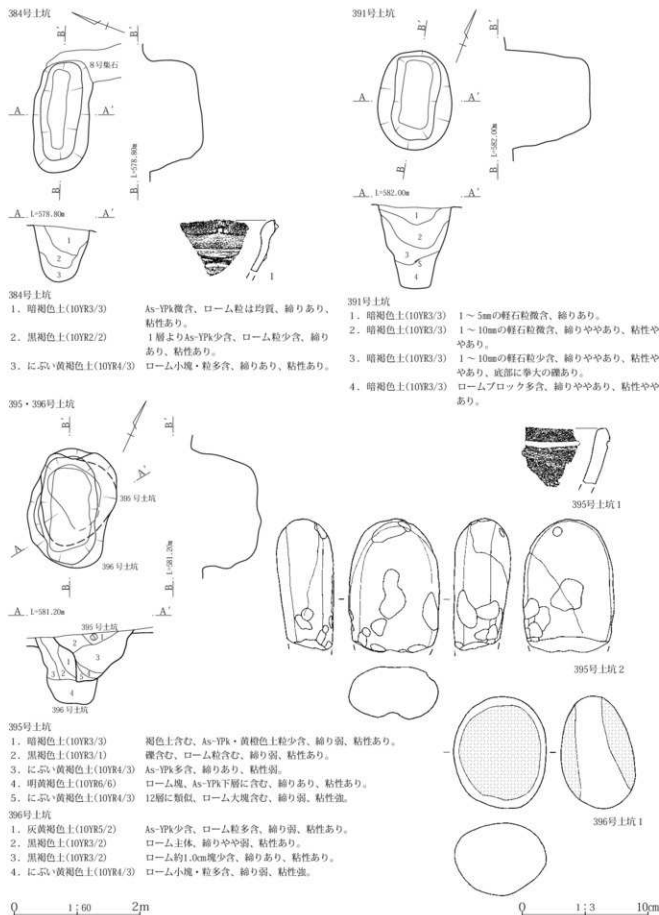


381号土坑

- |                  |                          |
|------------------|--------------------------|
| 1. 黒褐色土(10YR3/1) | 1～5mmの軽石粒少含、締りあり、粘性ややあり。 |
| 2. 黒褐色土(10YR3/1) | 1～5mmの軽石粒微含、締りあり、粘性ややあり。 |

0 1:60 2m

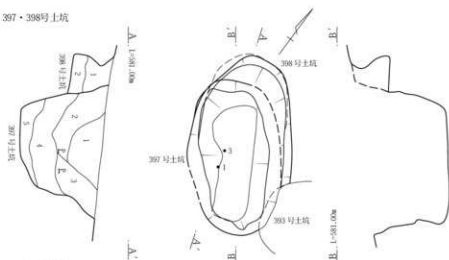
第76図 369・374・375・381号土坑



第77図 384・391・395・396号土坑、384・395・396号土坑出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

397・398号土坑



397号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/2)
2. 黒褐色土(10YR3/1)
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3)
4. にぶい黄褐色土(10YR5/4)
5. にぶい黄褐色土(10YR5/4)

As-YPk多含、炭化物少含、締り弱、粘性あり。  
 ローム粒少含、As-YPk微含、遺物あり、締り弱、粘性あり。  
 ローム粒均質、As-YPk微含、遺物あり、締りあり、粘性あり。  
 ローム約10.0～30.0cm塊・粒多含、締りやや弱、粘性強。  
 ローム小塊・粒多含、締りやや弱、粘性あり。



397号土坑1



397号土坑2



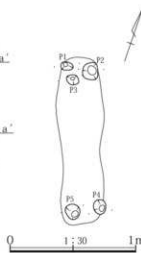
397号土坑3

398号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1)
2. にぶい黄褐色土(10YR5/4)

2層に類似、ローム粒多含、炭化物少含、締り弱、粘性あり。  
 4層に類似、ローム塊主体、締りやや弱、粘性あり。

400号土坑



P1・3

1. 黒褐色土(10YR3/1) As-YPk多含、にぶい黄褐色土含む、色味は明るい、締り弱、粘性強。  
 P2・4・5

1. 黒褐色土(10YR3/1) As-YPk多含、色味は明るい、締り弱、粘性強。

400号土坑

1. 褐色土(10YR4/4) As-YPk約0.5～1.0cm主体、ローム大塊含む、締りあり、粘性弱。
2. 褐色土(10YR4/4) As-YPk約0.5cm少含、締りあり、粘性あり。
3. 黒褐色土(10YR3/2) As-YPk微含、締りやや弱、粘性あり。
4. 黒褐色土(10YR3/1) As-YPk少含、小塊含む、締りやや弱、粘性あり。
5. 褐色土(10YR4/4) ローム約1.0～5.0cm塊・粒含む、にぶい黄褐色土少含、締りやや弱、粘性強。
6. 褐色土(10YR4/4) ローム約1.0～10.0cm塊・粒含む、締りやや弱、粘性強。



0 1:60 2m

0 1:3 10cm

第78図 397・398・400号土坑、397・400号土坑出土遺物



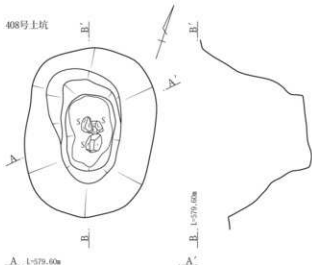
407号土坑



407号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) 大礫含む、締りやや弱、粘性強。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ローム約1.0cm塊少含、ローム粒含む、締りやや弱、粘性強。

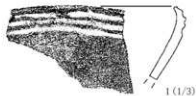
408号土坑



408号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3)
2. 黒褐色土(10YR3/1)
3. 暗褐色土(10YR3/3)
4. にぶい黄褐色土(10YR4/3)
5. 黒褐色土(10YR3/1)
6. 褐色土(10YR5/1)

As-YPR微含、大礫含む、灰白色粒少含、締りやや弱、粘性強。  
1層よりAs-YPR多含、締りやや弱、粘性強。  
As-YPR層間に少含、大礫含む、締りあり、粘性あり。  
As-YPR多含、酸化鉄分帯状に多含、締りやや弱、粘性強。  
粘質土、締り弱、粘性強。  
粘質土、締り弱、粘性強。



421号土坑



421号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) As-YPR約90.5cm均質に多含、締りあり、粘性あり。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 1層より色味は明るい、As-YPR少含、締りやや弱、粘性あり。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒多含、締りやや弱、粘性あり。

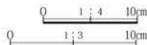
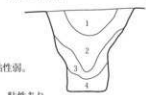
424号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色粒・炭化物 含む、灰白色粒少含、締りあり、粘性弱。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 色味は暗い、As-YPR微含、締りあり、粘性弱。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒層間に多含、ローム約1.0cm塊少含、締りあり、粘性あり。
4. 黒褐色土(10YR3/1) As-YPR少含、締りあり、粘性あり。

424号土坑



424号土坑



第79図 407・408・421・424号土坑、408・421号土坑出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

426号土坑



426号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2)
2. にぶい黄褐色土(10YR5/3)
3. にぶい黄褐色土(10YR5/3)
4. 黒褐色土(10YR3/2)
5. 黒褐色土(10YR3/1)
6. 灰黄褐色土(10YR4/2)

- 褐色土約5.0cm塊含む、ローム粒含む、締り弱、粘性あり。  
 ローム約3.0～5.0cm塊多含、黒褐色土塊含む、締り弱、粘性あり。  
 ローム1.0cm塊・粒多含、締り弱、粘性あり。  
 暗褐色土多含、締りやや弱、粘性あり。  
 ローム粒微含、色味は明るい、4層より締りあり、粘性あり。  
 ローム小塊・粒多含、締り弱、粘性あり。

0 1:60 2m

第80図 426号土坑、出土遺物

0 1:3 10cm

方位は、N-10°-Eである。分類は2類。重複関係は405号土坑と重複。新旧関係は405号土坑より古い。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.7mとやや深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。遺物は縄文時代前期の土器が出土している。

遺構確認面からの深さは約1.6mと深く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、上半部は緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。遺物は縄文時代前期前半の土器が出土している。

#### (2) 出土遺物

本遺跡からは、土師器と須恵器、灰釉陶器、金属製品や石製品など多くの遺物が出土しているが、竪穴住居などの平安時代の遺構から出土した遺物については、個々の遺構で収録している。また、縄文時代の土器や石器、それに中近世の陶磁器についても、所属する時期と異なる場合についても、出土した遺構に共に掲載した。

それに対して、遺構外出土の遺物は数が少ないものの、その中で特に、羽釜については外面横撫で整形の「吉井型」と、下から鉦方向への縦穴篋削りの「月夜野型」と呼ばれる特徴的な形態があり、これについて本遺跡での今回の報告では明確でないものの、「上ノ平Ⅰ遺跡(1)」で、1・4・12・13号竪穴住居で「月夜野型」の出土事例が顕著であるが、従来は榎木Ⅱ遺跡などのこれまでの吾妻地域での調査事例と同様に「吉井型」が多い傾向である。

424号土坑(第79図、P L.28)

62区V-4グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸2.75m、短軸1.50m、深さ1.32m。主軸方位は、N-37°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はしっかりしている。遺構確認面からの深さは約1.3mと深く、壁下半部はほぼ垂直に立ち上がるが上半部は緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第Ⅲ層から第Ⅳ層を中心としている。

426号土坑(第80図、P L.28・75)

71区S-7・8グリッドに位置する。形状は隅丸長方形だが南側が壊されている。規模は長軸(2.57)m、短軸2.04m、深さ1.64m。主軸方位は、N-25°-Wである。分類は2類。重複関係はない。床面はしっかりしている。